

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-B-19-0157_改0
提出年月日	2021年5月26日

VI-2-2-19 軽油タンク連絡ダクトの地震応答計算書

○ 2 ③ VI-2-2-19 R 0

2021年5月

東北電力株式会社

## 目 次

1. 概要	1
2. 基本方針	2
2.1 位置	2
2.2 構造概要	3
2.3 解析方針	6
2.4 適用基準	8
3. 解析方法	9
3.1 評価対象断面	9
3.2 解析方法	11
3.2.1 構造部材	11
3.2.2 地盤物性及び材料物性のばらつき	13
3.2.3 減衰定数	14
3.2.4 地震応答解析の解析ケースの選定	15
3.3 荷重及び荷重の組合せ	17
3.3.1 耐震評価上考慮する状態	17
3.3.2 荷重	17
3.3.3 荷重の組合せ	18
3.4 入力地震動	19
3.5 解析モデル及び諸元	48
3.5.1 解析モデル	48
3.5.2 使用材料及び材料の物性値	50
3.5.3 地盤の物性値	50
3.5.4 地下水位	51
4. 解析結果	52

## 1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に基づき実施する軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析について説明するものである。

本地震応答解析は、軽油タンク連絡ダクトが耐震性に関する技術基準へ適合することを確認するために用いる応答値を抽出するものである。その際、耐震評価に用いる応答値は、この地震応答解析により構造物に発生する変形、断面力、ひずみ及び基礎地盤に発生する接地圧とする。

また、機器・配管系が耐震性に関する技術基準へ適合することを確認するために用いる応答値の抽出を行う。

## 2. 基本方針

### 2.1 位置

軽油タンク連絡ダクトの位置を図2-1に示す。

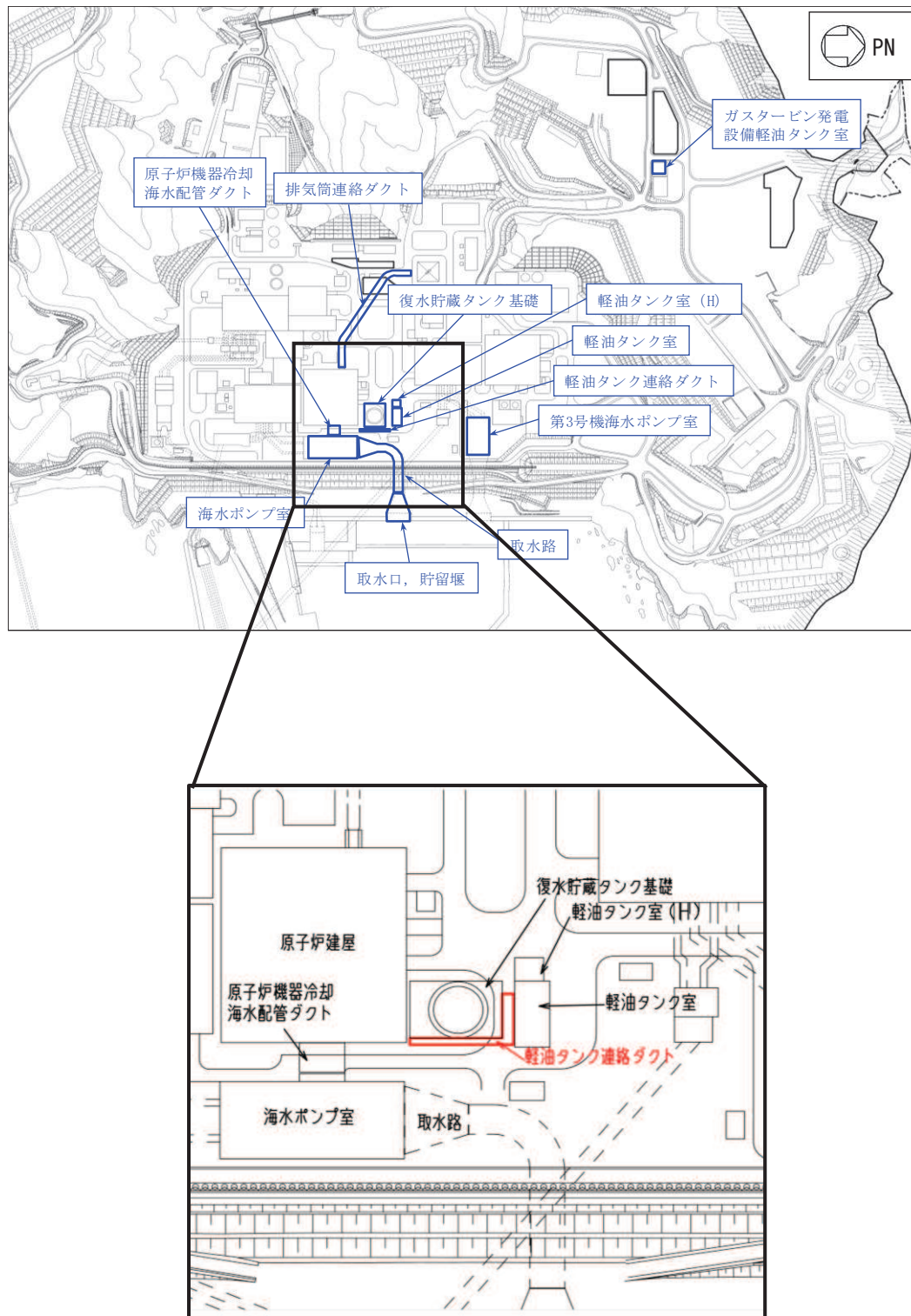


図2-1 軽油タンク連絡ダクトの位置図

## 2.2 構造概要

軽油タンク連絡ダクトの平面図を図 2-2 及び図 2-3 に、断面図を図 2-4 及び図 2-5 に、縦断面図を図 2-6 に示す。

軽油タンク連絡ダクトは、燃料移送系配管を間接支持しており、支持機能が要求される。

軽油タンク連絡ダクトは、軽油タンク室と原子炉建屋を結ぶ、鉄筋コンクリート造の地中構造物であり、延長 52.30m、内空幅 1.25m、内空高さ 2.00m の二連ボックスカルバート構造の標準部（以下「標準部」という。）と、内空幅 1.55m（東西）×2.25m（南北）、内空高さ 3.05m の軽油タンク室と接続する接続部（以下「接続部」という。）から構成され、マンメイドロック（以下「MMR」という。）を介して十分な支持性能を有する岩盤に設置されている。

軽油タンク連絡ダクトは、延長方向に約 13m 間隔で分割して構造目地を介して接合され、原子炉建屋との接合部には耐震ジョイントが設置されており、延長方向に断面変化の少ない線状構造物である。

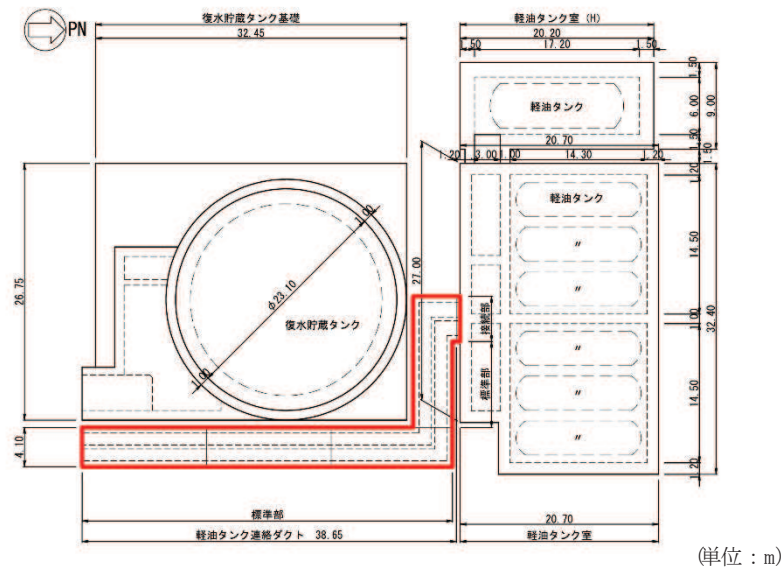


図 2-2 軽油タンク連絡ダクト平面図

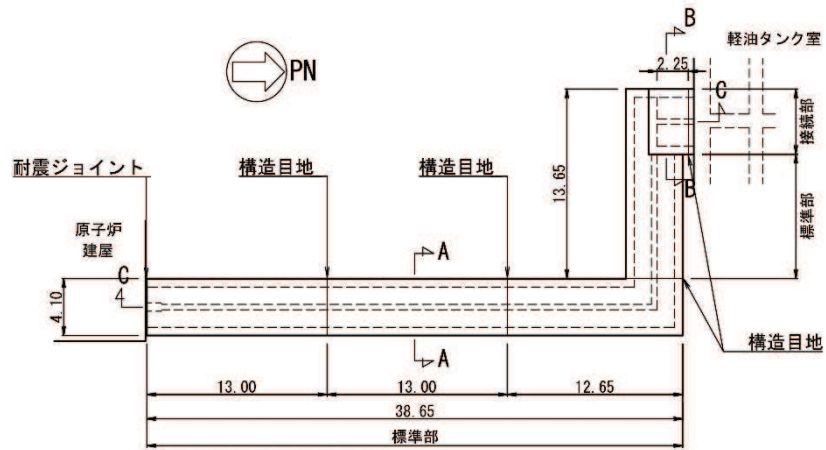
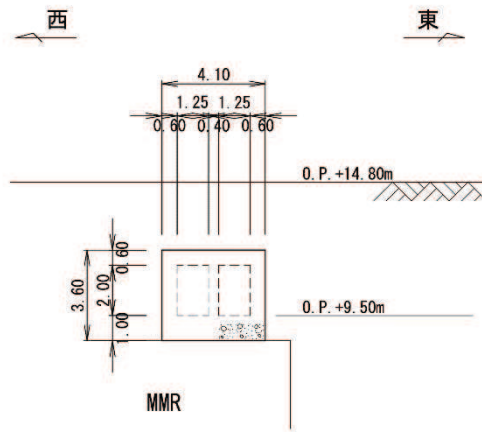
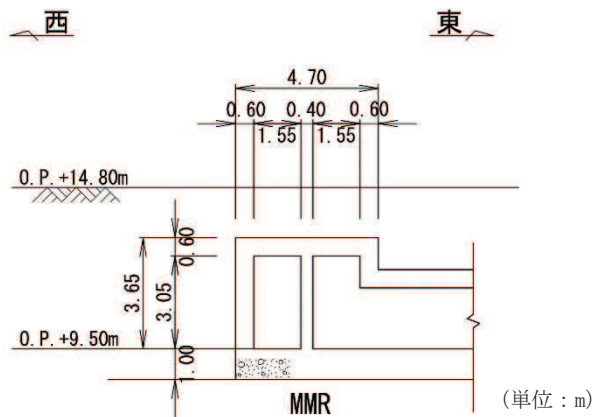


図 2-3 軽油タンク連絡ダクト平面図 (詳細)



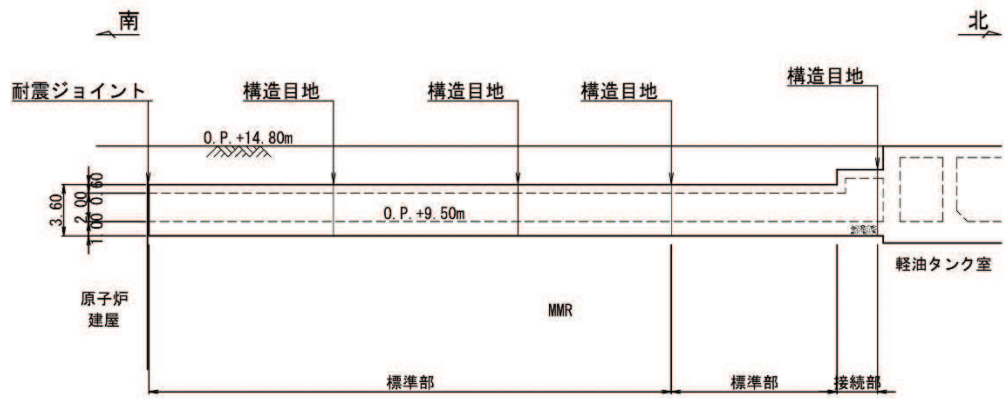
(単位 : m)

図 2-4 軽油タンク連絡ダクト断面図 (A-A 断面, 標準部)



(単位 : m)

図 2-5 軽油タンク連絡ダクト断面図 (B-B 断面, 接続部)



(単位：m)

図 2-6 軽油タンク連絡ダクト縦断面図 (C-C 断面)

### 2.3 解析方針

軽油タンク連絡ダクトは、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に基づき、基準地震動 $S_s$ 及び弾性設計用地震動 $S_d$ に対して地震応答解析を実施する。

図2-7に軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析フローを示す。

地震応答解析は、「2. 基本方針」に基づき、「3.1 評価対象断面」に示す断面において、「3.2 解析方法」に示す水平地震動と鉛直地震動の同時加振による二次元有限要素法による時刻歴応答解析により行うこととし、地盤物性及び材料物性のばらつきを適切に考慮する。

二次元有限要素法による時刻歴応答解析は、「3.3 荷重及び荷重の組合せ」及び「3.5 解析モデル及び諸元」に示す条件を基に、「3.4 入力地震動」により設定する入力地震動を用いて実施する。

地震応答解析により応答加速度は、機器・配管系の設計用床応答曲線の作成に用い、変形、断面力、ひずみ及び基礎地盤の接地圧は、軽油タンク連絡ダクトの耐震評価に用いる。



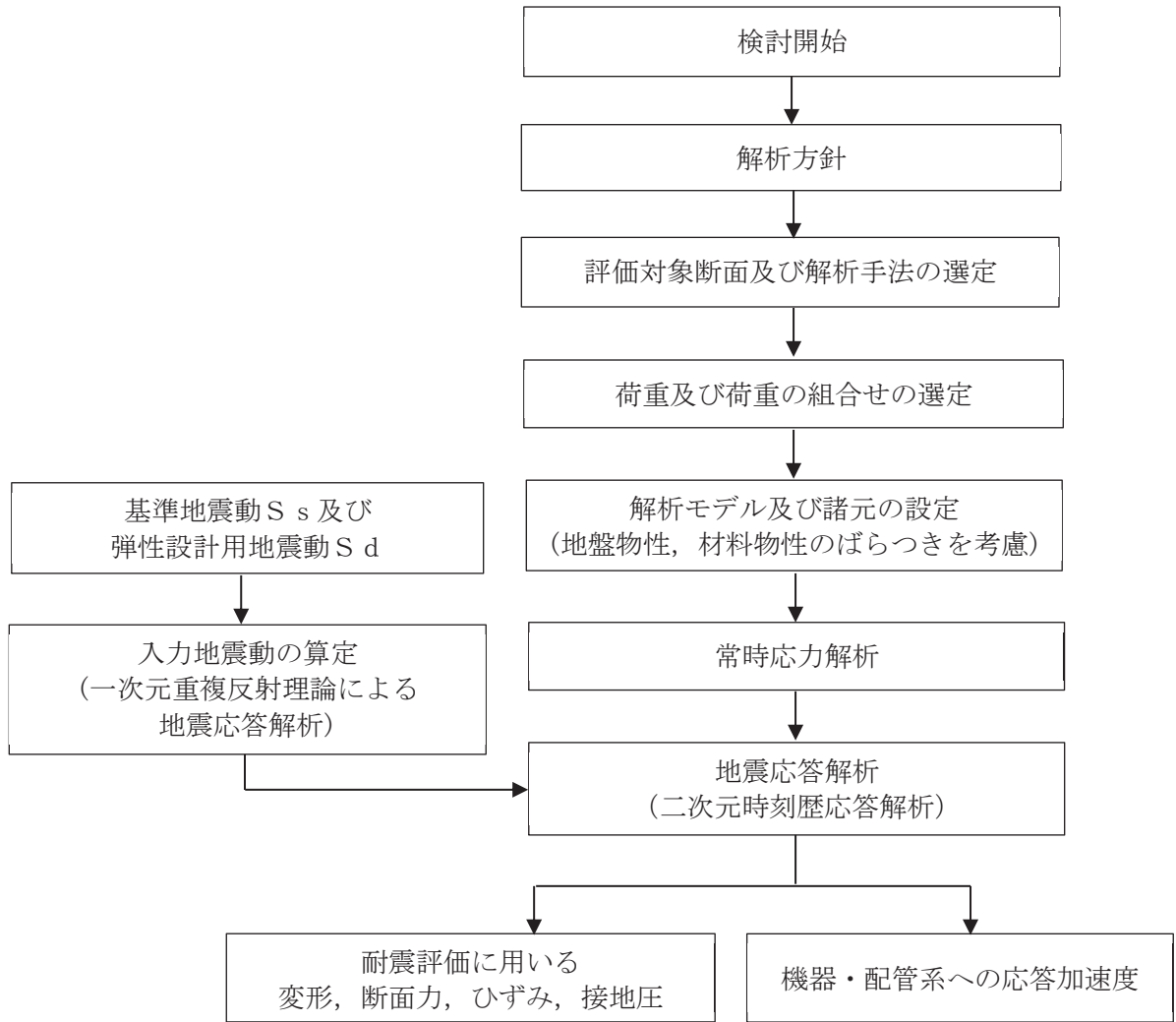


図 2-7 軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析フロー

## 2.4 適用基準

適用する規格，基準等を以下に示す。

- コンクリート標準示方書[構造性能照査編]（土木学会，2002年制定）
- 原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会 原子力土木委員会，2005年6月）
- コンクリート標準示方書[設計編]（土木学会，2017年制定）
- 原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987（社団法人 日本電気協会 電気技術基準調査委員会）

### 3. 解析方法

#### 3.1 評価対象断面

軽油タンク連絡ダクトの評価対象断面位置を図 3-1 及び図 3-2 に示す。

評価対象断面は、構造的特徴や周辺地質状況を踏まえ、図 3-1 及び図 3-2 に示す標準部のうち、復水貯蔵タンクの中心を通る A-A 断面とする。評価対象地質断面図を図 3-3 に示す。

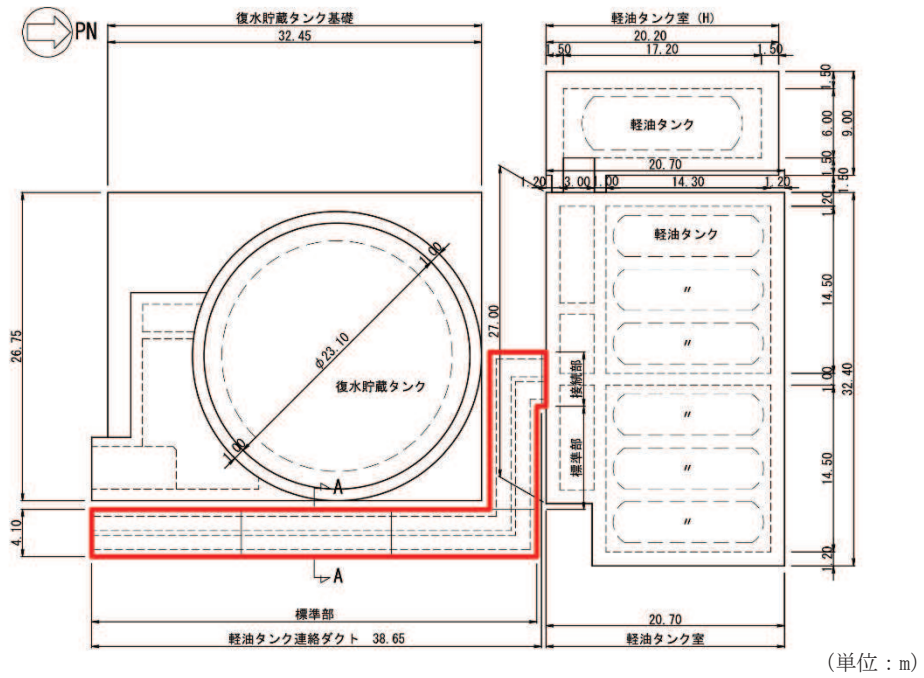


図 3-1 軽油タンク連絡ダクトの評価対象断面位置図

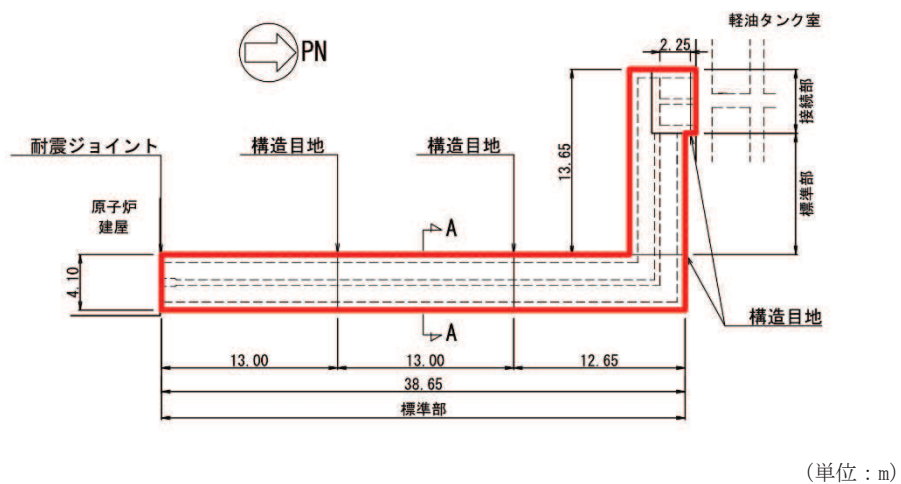


図 3-2 軽油タンク連絡ダクトの評価対象断面位置図 (詳細)

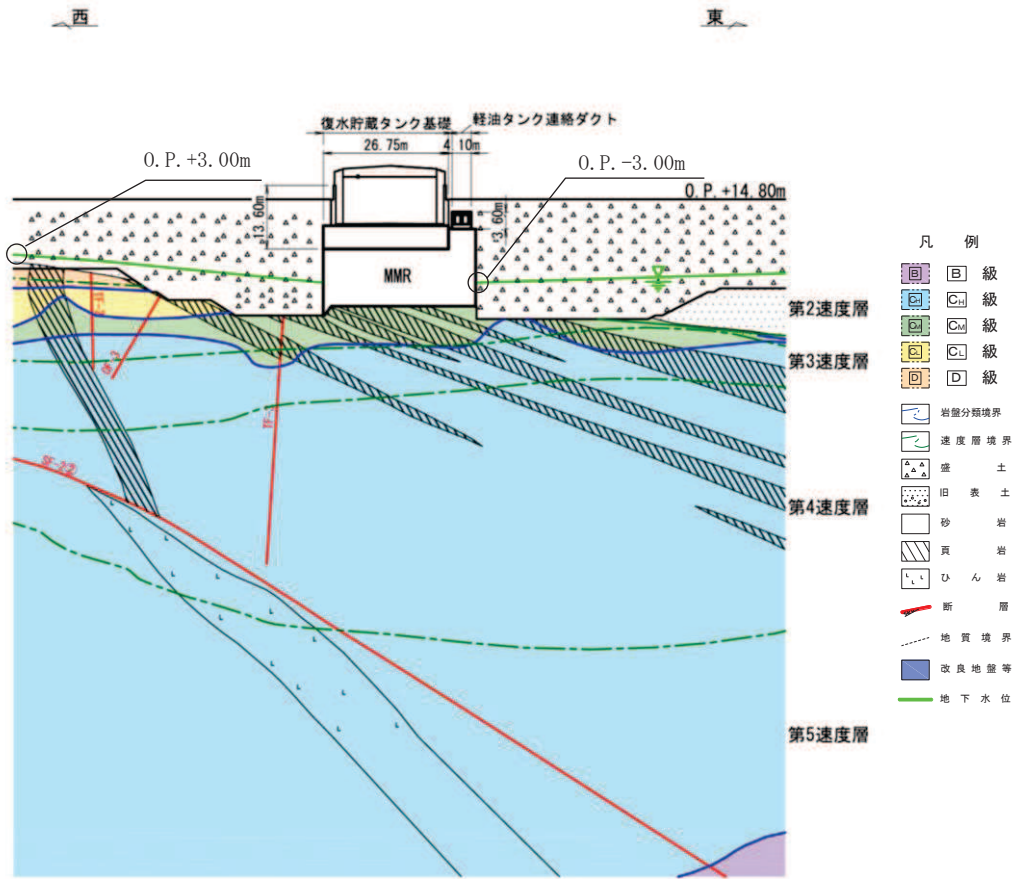


図 3-3 軽油タンク連絡ダクト 評価対象地質断面図 (A-A 断面)

### 3.2 解析方法

軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」のうち、「2.3 屋外重要土木構造物」に示す解析方法及び解析モデルを踏まえて実施する。

地震応答解析は、構造物と地盤の相互作用を考慮できる二次元有限要素法により、基準地震動  $S_s$  及び弾性設計用地震動  $S_d$  に基づき設定した水平地震動と鉛直地震動の同時加振による逐次時間積分の時刻歴応答解析（全応力解析）により行う。

構造部材については、非線形はり要素を用いることとし、構造部材の非線形特性については、ファイバーモデルで考慮する。また、地盤については、地盤のひずみ依存性を適切に考慮できるようモデル化する。

地震応答解析については、解析コード「SLAP Ver. 6.64」を使用する。なお、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。

#### 3.2.1 構造部材

鉄筋コンクリート部材は、ファイバーモデルによる非線形はり要素でモデル化する。ファイバーモデルは、はり要素の断面を層状に分割し各層に材料の非線形特性を考慮する材料非線形モデルであり（図3-4参照）、図3-5に示すコンクリートの応力-ひずみ関係及び図3-6に示す鉄筋の応力-ひずみ関係を考慮する。

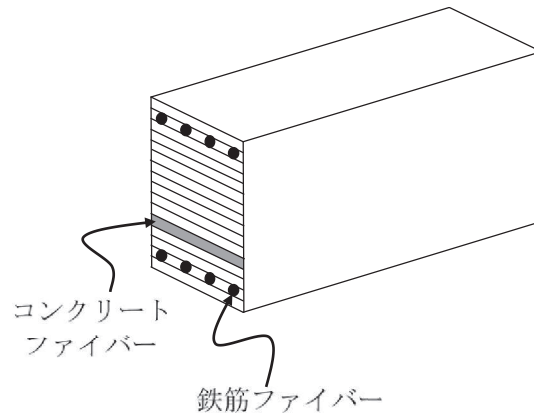


図3-4 ファイバーモデルの概念図

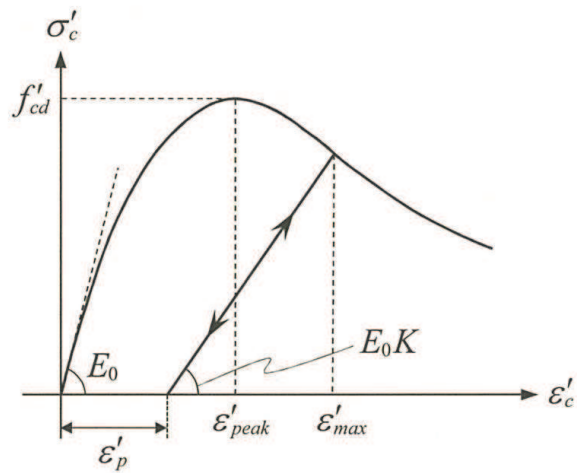


図 3-5 材料の非線形特性（コンクリートの応力-ひずみ関係）  
 （コンクリート標準示方書[設計編]（土木学会，2017 年制定）より引用）

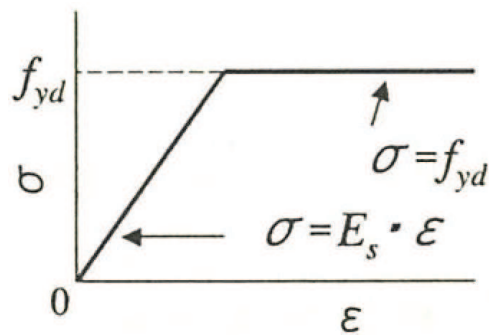


図 3-6 材料の非線形特性（鉄筋の応力-ひずみ関係）  
 （コンクリート標準示方書[構造性能照査編]（土木学会，2002 年制定）より引用）

### 3.2.2 地盤物性及び材料物性のばらつき

地盤物性及び材料物性のばらつきの影響を考慮するため、表 3-1 に示す解析ケースを設定する。

軽油タンク連絡ダクトは、MMR 上に設置され、周囲が埋戻されており、主たる荷重は盛土等の土圧となることから、盛土、旧表土、**D**級岩盤の初期せん断係数のばらつきを考慮する。

初期せん断弾性係数の標準偏差 $\sigma$ を用いて設定した解析ケース②及び③を実施することにより地盤物性のばらつきの影響を網羅的に考慮する。

また、材料物性のばらつきとして構造物の実強度に基づいて設定した解析ケース④を実施することにより、材料物性のばらつきの影響を考慮する。

詳細な解析ケースの考え方は、「3.2.4 地震応答解析の解析ケースの選定」に示す。

表 3-1 解析ケース

解析ケース	材料物性 (コンクリート) ( $E_0$ : ヤング係数)	地盤物性	
		盛土, 旧表土, <b>D</b> 級岩盤 ( $G_0$ : 初期せん断弾性係数)	<b>C<sub>L</sub></b> 級岩盤, <b>C<sub>M</sub></b> 級岩盤, <b>C<sub>H</sub></b> 級岩盤, <b>B</b> 級岩盤 ( $G_d$ : 動せん断弾性係数)
ケース① (基本ケース)	設計基準強度	平均値	平均値
ケース②	設計基準強度	平均値+1 $\sigma$	平均値
ケース③	設計基準強度	平均値-1 $\sigma$	平均値
ケース④	実強度に基づく 圧縮強度*	平均値	平均値

注記\*: 既設構造物のコア採取による圧縮強度試験の結果を使用する。

### 3.2.3 減衰定数

構造部材の減衰定数は、粘性減衰及び履歴減衰で考慮する。

粘性減衰は、固有値解析にて求められる固有周期と各材料の減衰比に基づき、質量マトリックス及び剛性マトリックスの線形結合で表される以下の Rayleigh 減衰を解析モデル全体に与える。固有値解析結果に基づき設定した  $\alpha$ 、 $\beta$  を表 3-2 に示す。

$$[c] = \alpha [m] + \beta [k]$$

[c] : 減衰係数マトリックス

[m] : 質量マトリックス

[k] : 剛性マトリックス

$\alpha$ 、 $\beta$  : 係数

表 3-2 Rayleigh 減衰における係数  $\alpha$ 、 $\beta$  の設定結果

評価対象断面	$\alpha$	$\beta$
A-A 断面	$2.667 \times 10^{-1}$	$1.125 \times 10^{-3}$



### 3.2.4 地震応答解析の解析ケースの選定

#### (1) 耐震評価における解析ケース

耐震評価においては、すべての基準地震動  $S_s$  に対し、解析ケース①（基本ケース）を実施する。解析ケース①において、曲げ・軸力系の破壊、せん断破壊及び地盤の支持力照査の照査項目ごとに照査値が 0.5 以上となる照査項目に対して、最も厳しい地震動を用いて、表 3-1 に示す解析ケース②～④を実施する。耐震評価における解析ケースを表 3-3 に示す。

表 3-3 耐震評価における解析ケース

解析ケース		ケース①	ケース②	ケース③	ケース④
		基本ケース	地盤物性のばらつき (+1 $\sigma$ ) を考慮した解析ケース	地盤物性のばらつき (-1 $\sigma$ ) を考慮した解析ケース	材料物性（コンクリート）に実強度を考慮した解析ケース
地盤物性		平均値	平均値+1 $\sigma$	平均値-1 $\sigma$	平均値
材料物性		設計基準強度	設計基準強度	設計基準強度	実強度に基づく圧縮強度*2
地震動 (位相)	$S_s - D 1$	++*1	○	基準地震動 $S_s$ (7 波) に水平動の位相反転を考慮した地震動 (7 波) を加えた全 14 波により照査を行ったケース①（基本ケース）の結果から、曲げ・軸力系の破壊、せん断破壊及び基礎地盤の支持力照査の照査項目ごとに照査値が 0.5 以上となる照査項目に対して、最も厳しい（許容限界に対する裕度が最も小さい）地震動を用いてケース②～④を実施する。  すべての照査項目の照査値がいずれも 0.5 未満の場合は、照査値が最も厳しくなる地震動を用いてケース②～④を実施する。	
		-+*1	○		
	$S_s - D 2$	++*1	○		
		-+*1	○		
	$S_s - D 3$	++*1	○		
		-+*1	○		
	$S_s - F 1$	++*1	○		
		-+*1	○		
	$S_s - F 2$	++*1	○		
		-+*1	○		
	$S_s - F 3$	++*1	○		
		-+*1	○		
	$S_s - N 1$	++*1	○		
		-+*1	○		

注記\*1：耐震評価にあたっては、原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会 原子力土木委員会，2005 年 6 月）（以下「土木学会マニュアル」という。）に従い、水平方向の位相反転を考慮する。地震動の位相について、++の左側は水平動，右側は鉛直動を表し、「-」は位相を反転させたケースを示す。

\*2：既設構造物のコア採取による圧縮強度試験の結果を使用する。

(2) 機器・配管系に対する応答加速度抽出のための解析ケース

機器・配管系に対する応答加速度抽出においては、床応答への保守的な配慮として解析ケース①に加え、表3-1に示す解析ケース②～④を実施する。機器・配管系の応答加速度抽出における解析ケースを表3-4に示す。

表3-4 機器・配管系の応答加速度抽出のための解析ケース

解析ケース		ケース①	ケース②	ケース③	ケース④
		基本ケース	地盤物性のばらつき (+1 $\sigma$ ) を考慮した解析ケース	地盤物性のばらつき (-1 $\sigma$ ) を考慮した解析ケース	材料物性 (コンクリート) に実強度を考慮した解析ケース
地盤物性		平均値	平均値+1 $\sigma$	平均値-1 $\sigma$	平均値
材料物性		設計基準強度	設計基準強度	設計基準強度	実強度に基づく圧縮強度*2
地震動 (位相)	S s - D 1 S d - D 1	++*1	○	○	○
	S s - D 2 S d - D 2	++*1	○	○	○
	S s - D 3 S d - D 3	++*1	○	○	○
	S s - F 1 S d - F 1	++*1	○	○	○
	S s - F 2 S d - F 2	++*1	○	○	○
	S s - F 3 S d - F 3	++*1	○	○	○
	S s - N 1 S d - N 1	++*1	○	○	○

注記\*1：地震動の位相について、++の左側は水平動，右側は鉛直動を表す。

\*2：既設構造物のコア採取による圧縮強度試験の結果を使用する。

### 3.3 荷重及び荷重の組合せ

荷重及び荷重の組合せは、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき設定する。

#### 3.3.1 耐震評価上考慮する状態

軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析において、地震以外に考慮する状態を以下に示す。

(1) 運転時の状態

発電用原子炉施設が運転状態にあり、通常の条件下におかれている状態。ただし、運転時の異常な過渡変化時の影響を受けないことから考慮しない。

(2) 設計基準事故時の状態

設計基準事故時の影響を受けないことから考慮しない。

(3) 設計用自然条件

積雪を考慮する。埋設構造物であるため風の影響は考慮しない。

(4) 重大事故等時の状態

重大事故等時の影響を受けないことから考慮しない。

#### 3.3.2 荷重

軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析において、考慮する荷重を以下に示す。

(1) 固定荷重 (G)

固定荷重として、躯体自重、機器・配管荷重を考慮する。

(2) 積載荷重 (P)

積載荷重として、積雪荷重  $P_s$  を含めて地表面に  $4.9\text{kN/m}^2$  を考慮する。

(3) 積雪荷重 ( $P_s$ )

積雪荷重として、発電所の最寄りの気象官署である石巻特別地域気象観測所で観測された月最深積雪の最大値である  $43\text{cm}$  に平均的な積雪荷重を与えるための係数  $0.35$  を考慮した値を設定する。また、建築基準法施行令第86条第2項により、積雪量  $1\text{cm}$  ごとに  $20\text{N/m}^2$  の積雪荷重が作用することを考慮する。

(4) 地震荷重 ( $S_s$ )

基準地震動  $S_s$  による荷重を考慮する。

(5) 地震荷重 ( $S_d$ )

弾性設計用地震動  $S_d$  による荷重を考慮する。

### 3.3.3 荷重の組合せ

荷重の組合せを表 3-5 に示す。

表 3-5 荷重の組合せ

外力の状態	荷重の組合せ
地震時 (S <sub>s</sub> )	G + P + S <sub>s</sub>
地震時 (S <sub>d</sub> ) *	G + P + S <sub>d</sub>

注記\* : 機器・配管系の耐震設計に用いる。

G : 固定荷重

P : 積載荷重 (積雪荷重 P<sub>s</sub> を含めて 4.9kN/m<sup>2</sup> を地表面に考慮)

S<sub>s</sub> : 地震荷重 (基準地震動 S<sub>s</sub>)

S<sub>d</sub> : 地震荷重 (弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>)

### 3.4 入力地震動

入力地震動は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」のうち「2.3 屋外重要土木構造物」に示す入力地震動の設定方針を踏まえて設定する。

地震応答解析に用いる入力地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動  $S_s$  及び弾性設計用地震動  $S_d$  を一次元重複反射理論により地震応答解析モデル下端位置で評価したものをを用いる。なお、入力地震動の設定に用いる地下構造モデルは、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」のうち「7.1 入力地震動の設定に用いる地下構造モデル」を用いる。

図 3-7 に入力地震動算定の概念図を、図 3-8～図 3-35 に入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトルを示す。入力地震動の算定には、解析コード「SHAKE Ver. 1.6」を使用する。

解析コードの検証及び妥当性確認の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム(解析コード)の概要」に示す。

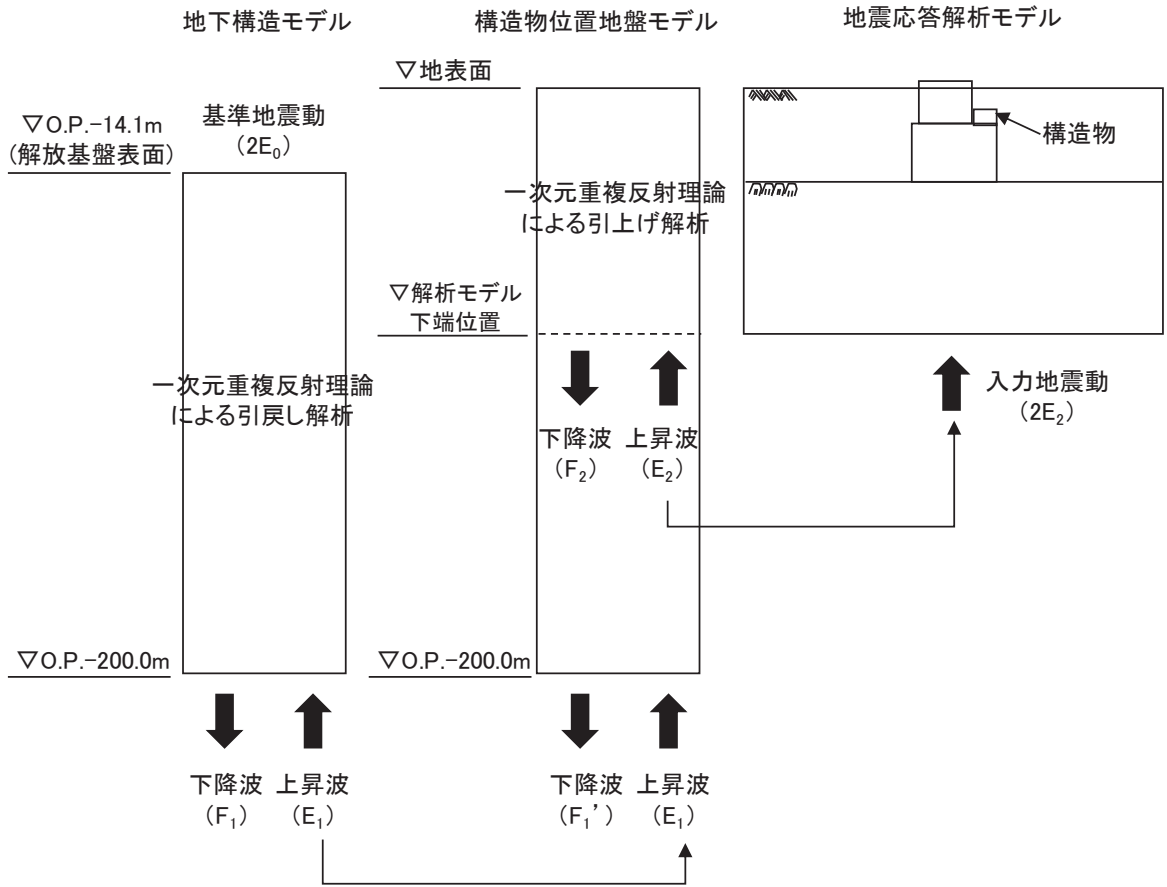
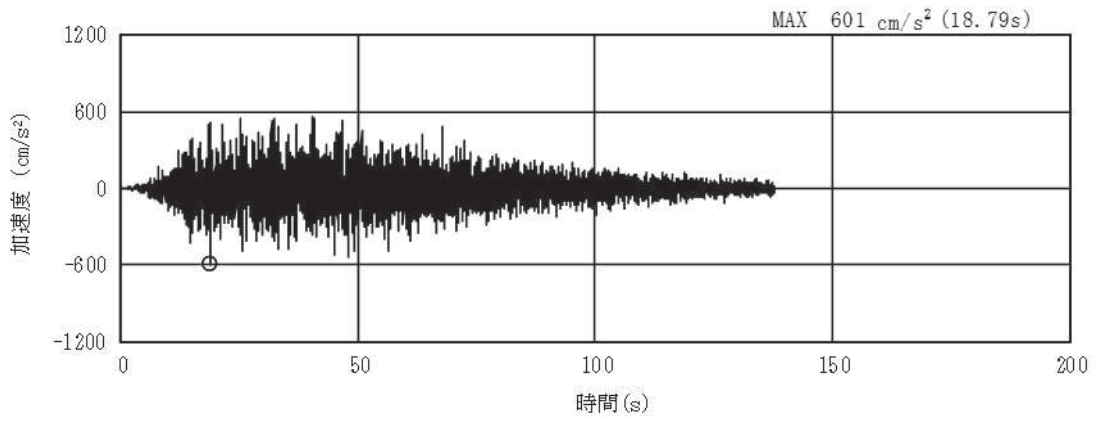
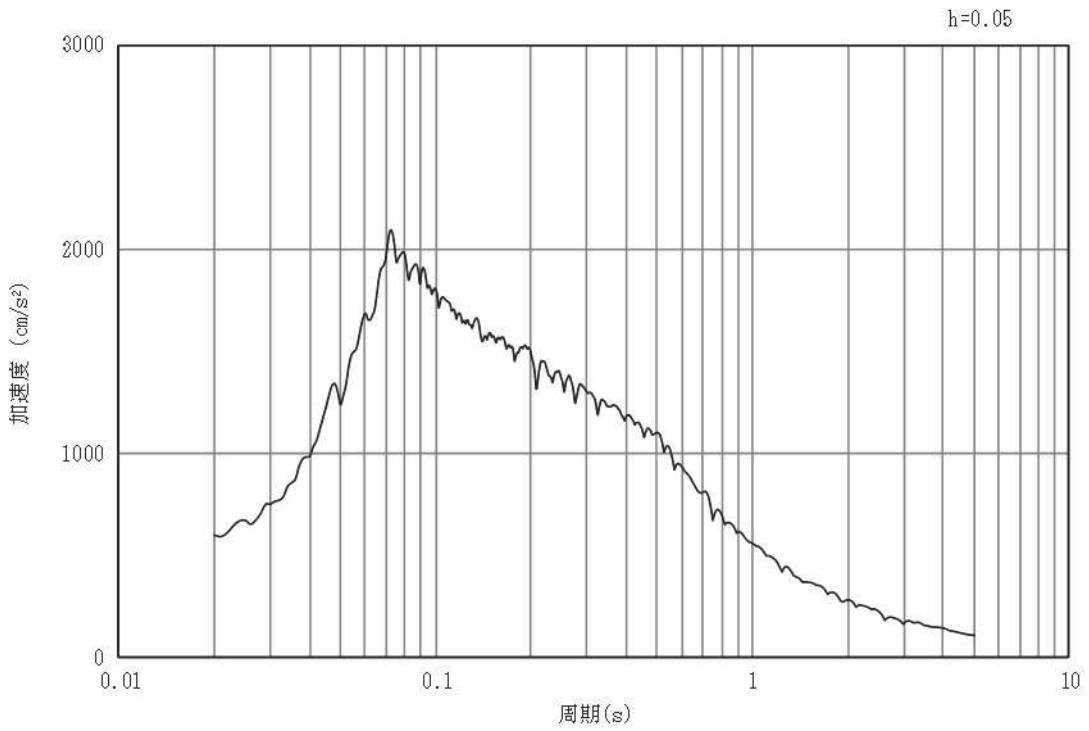


図 3-7 入力地震動算定の概念図

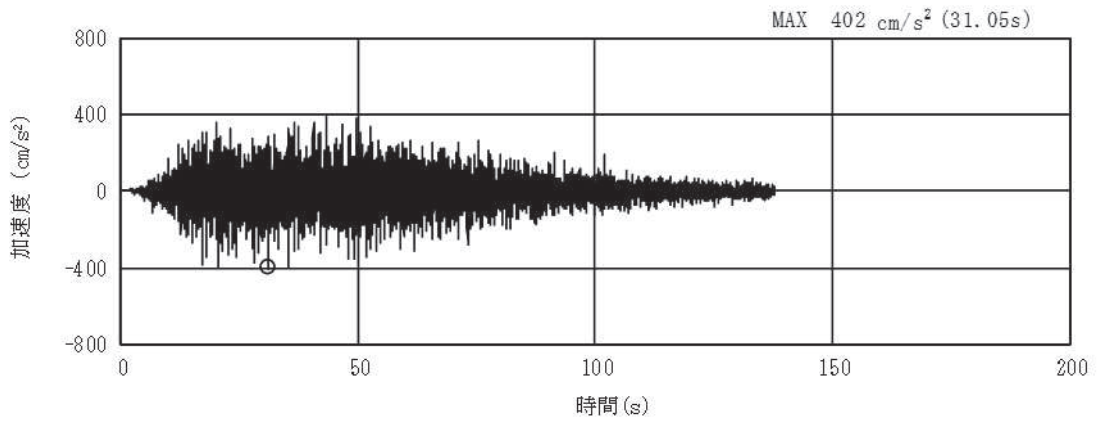


(a) 加速度時刻歴波形

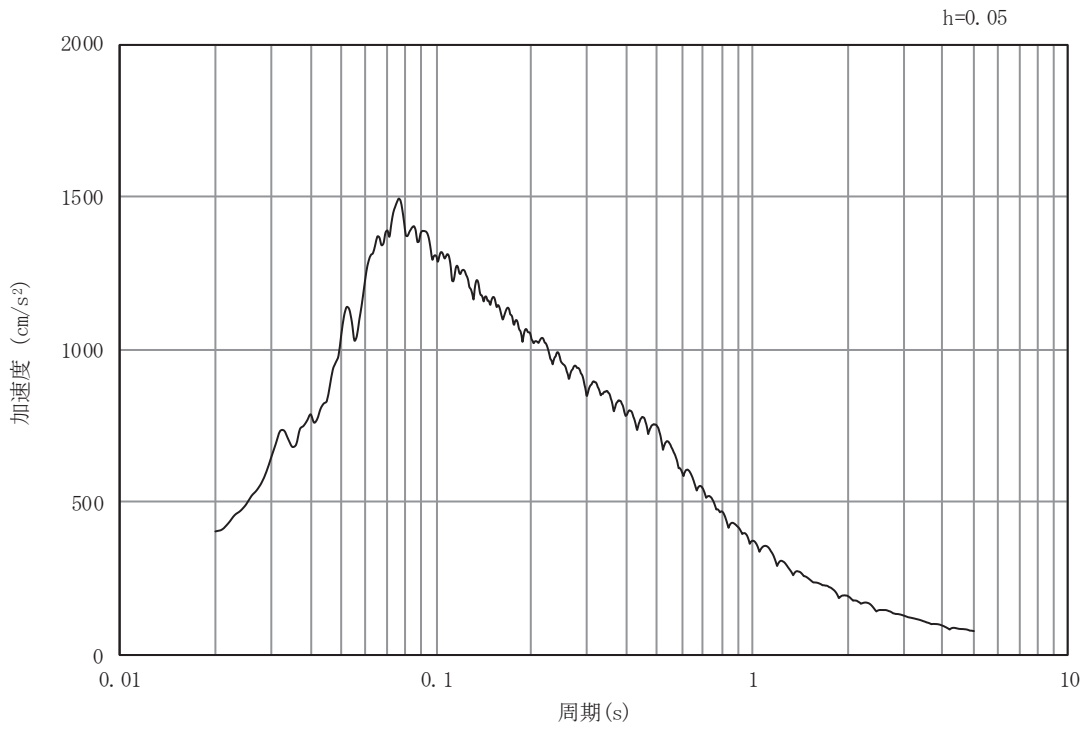


(b) 加速度応答スペクトル

図3-8 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - D 1)

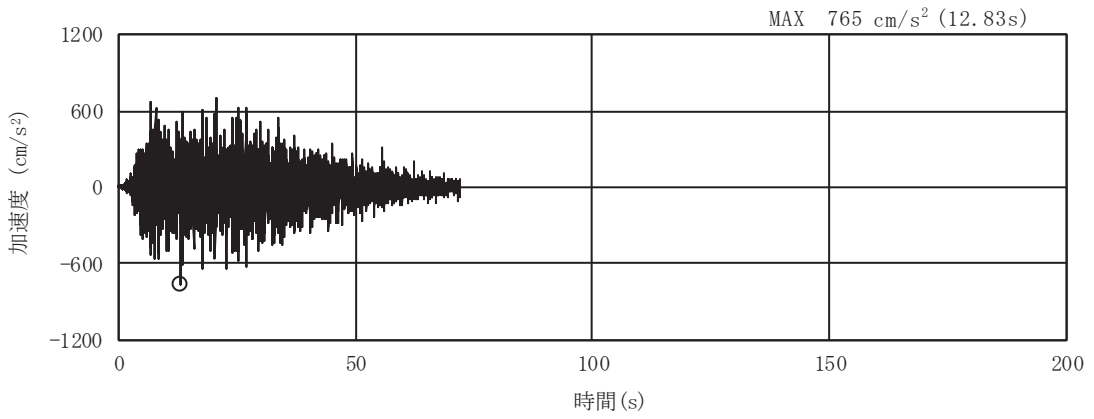


(a) 加速度時刻歴波形

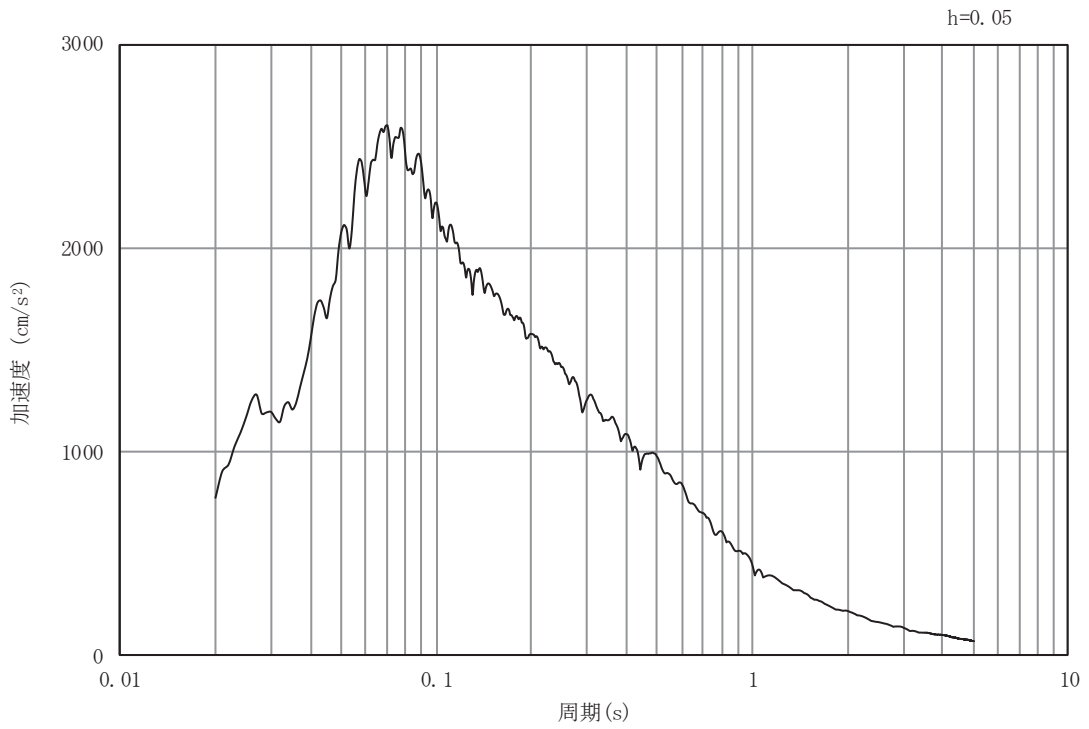


(b) 加速度応答スペクトル

図3-9 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - D 1)



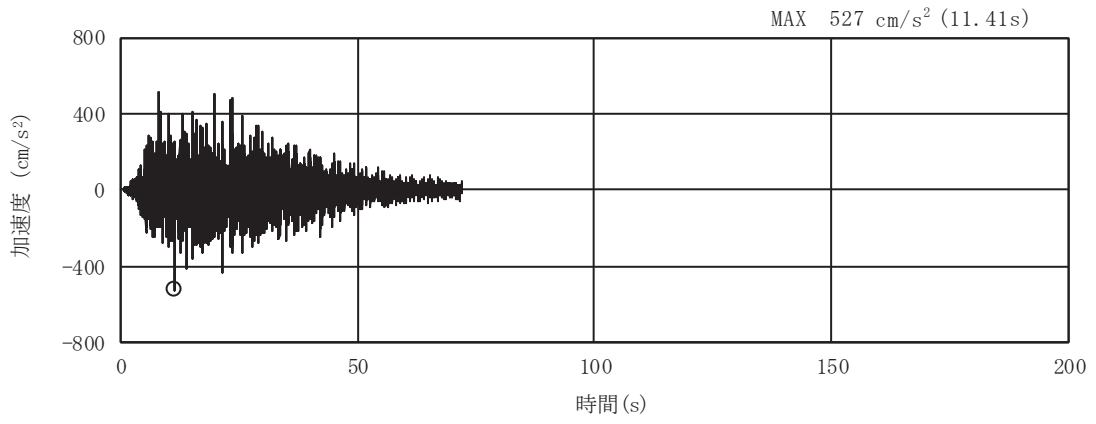
(a) 加速度時刻歴波形



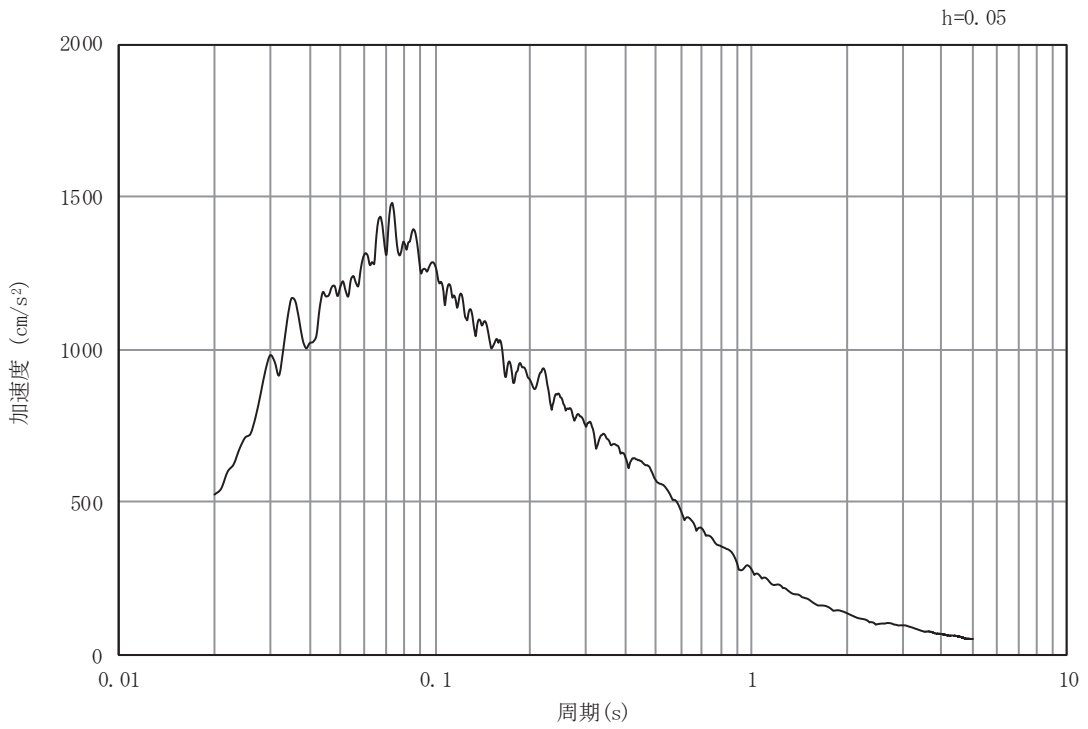
(b) 加速度応答スペクトル

図3-10 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - D 2)



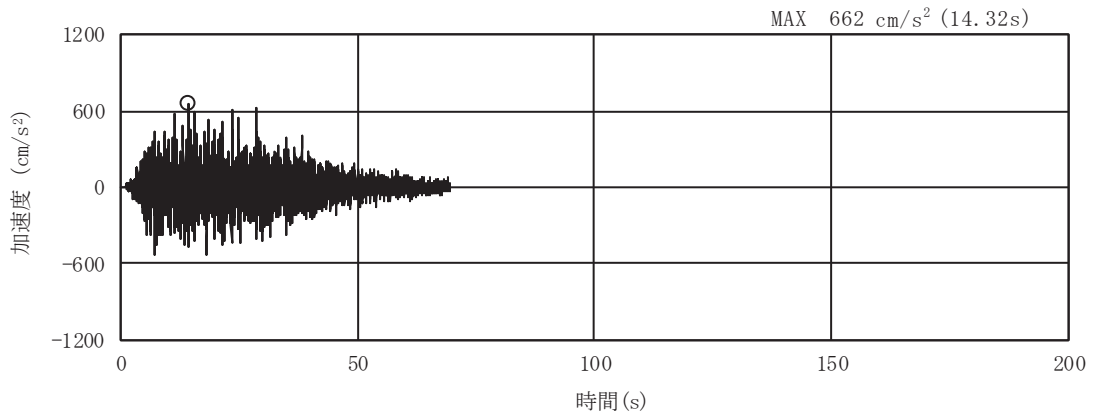


(a) 加速度時刻歴波形

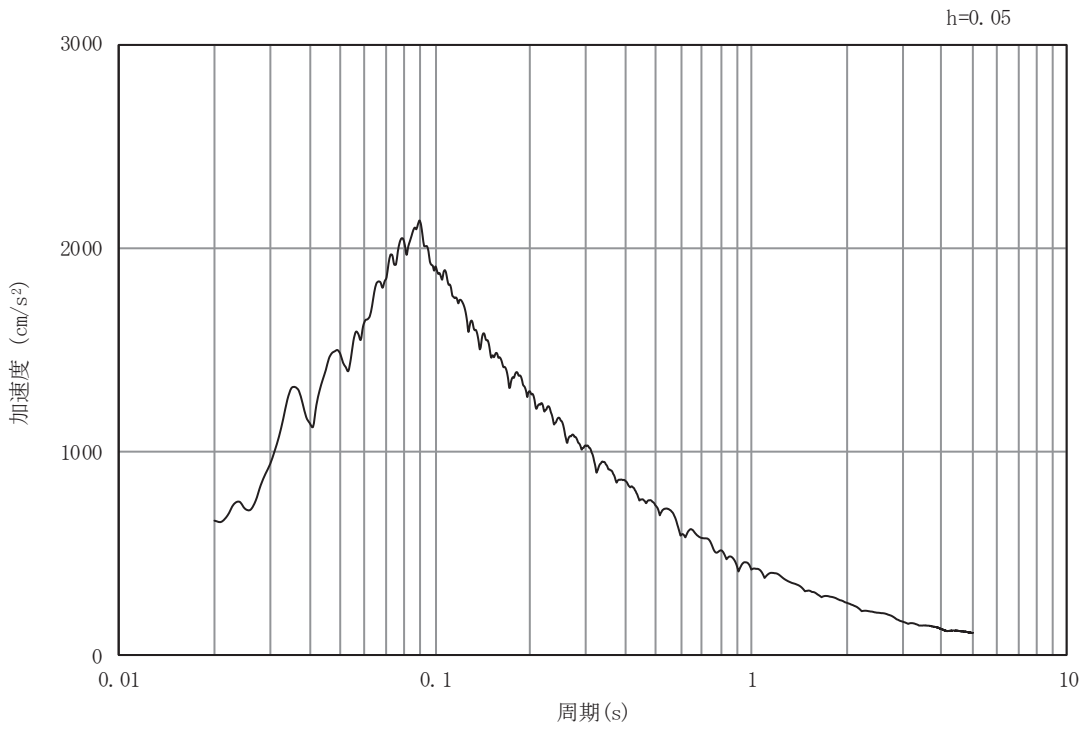


(b) 加速度応答スペクトル

図3-11 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - D 2)

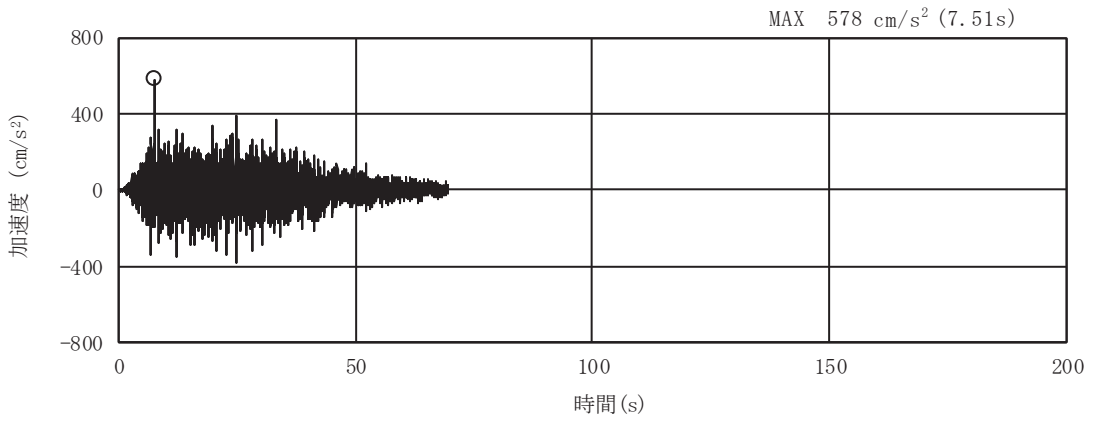


(a) 加速度時刻歴波形

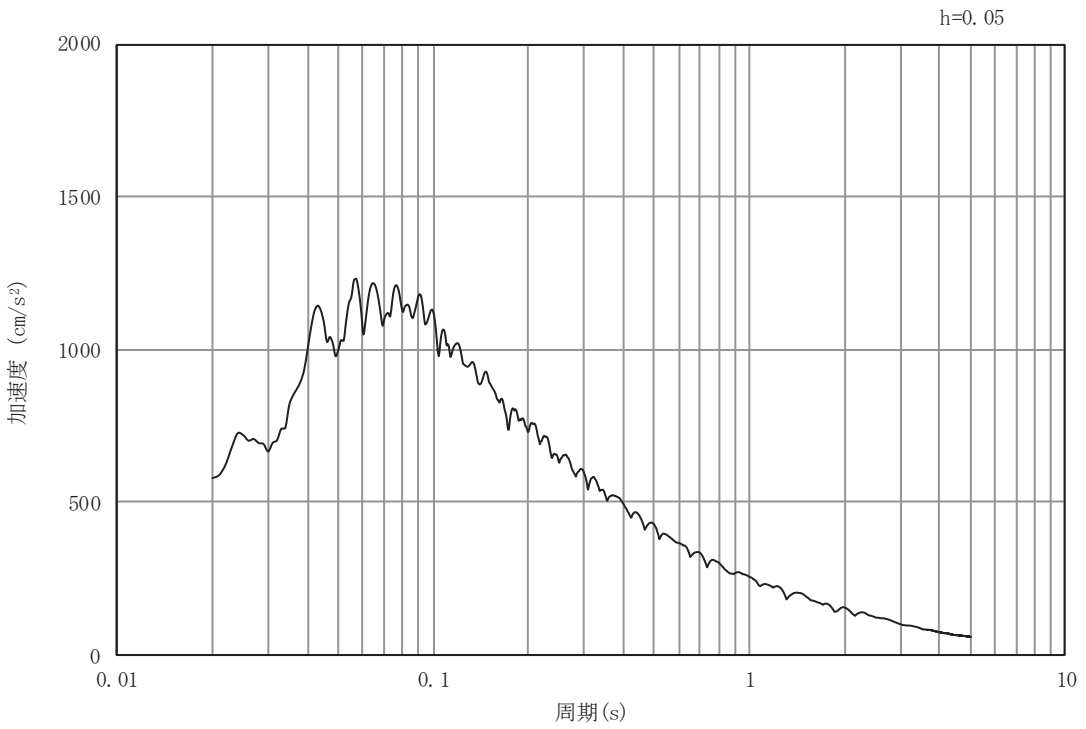


(b) 加速度応答スペクトル

図3-12 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - D 3)

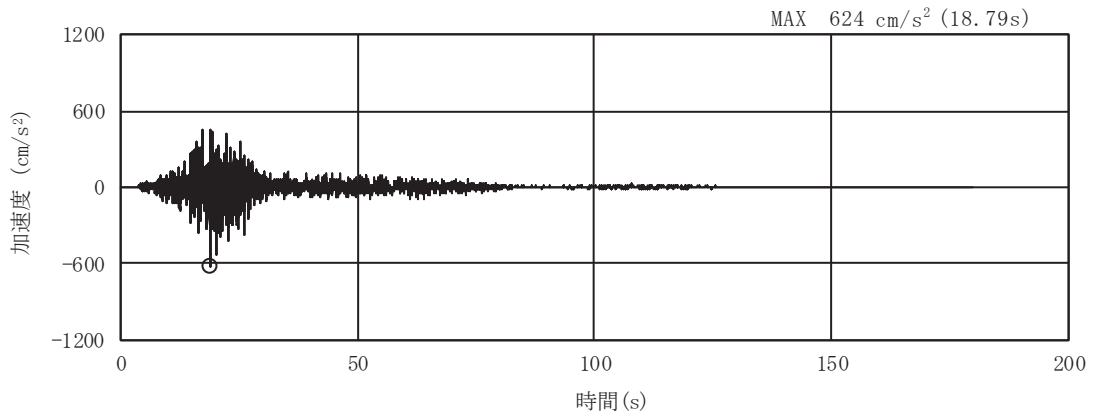


(a) 加速度時刻歴波形

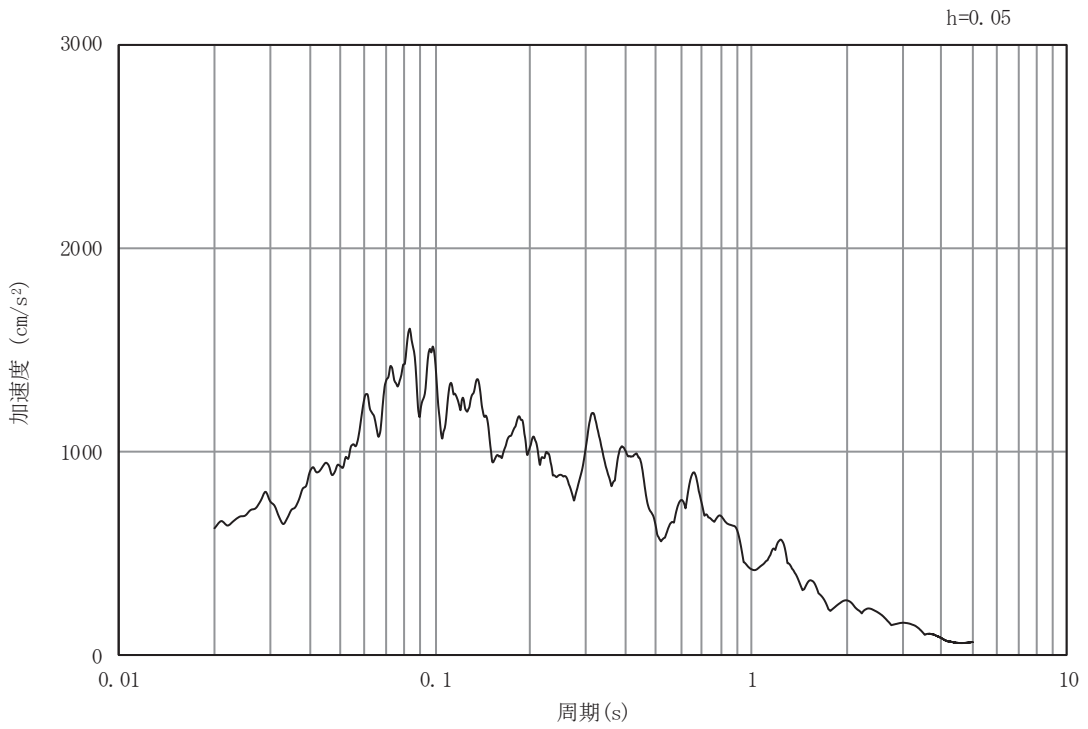


(b) 加速度応答スペクトル

図3-13 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - D 3)

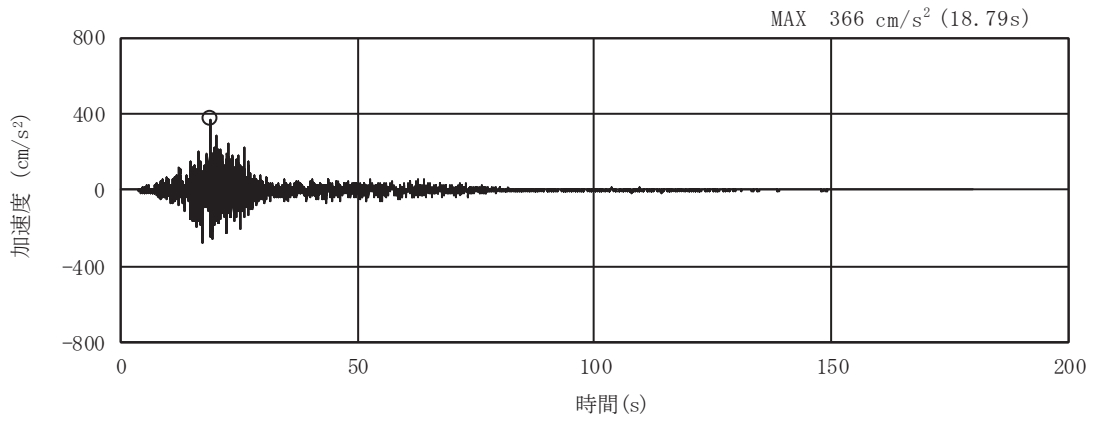


(a) 加速度時刻歴波形

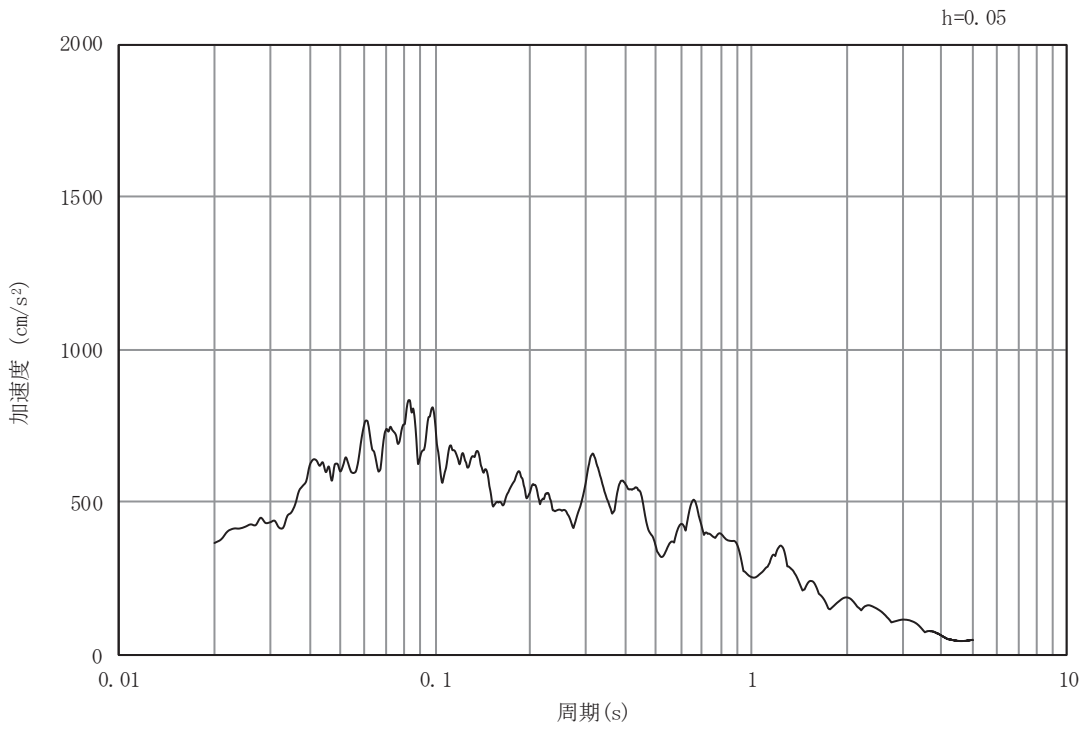


(b) 加速度応答スペクトル

図3-14 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - F 1)

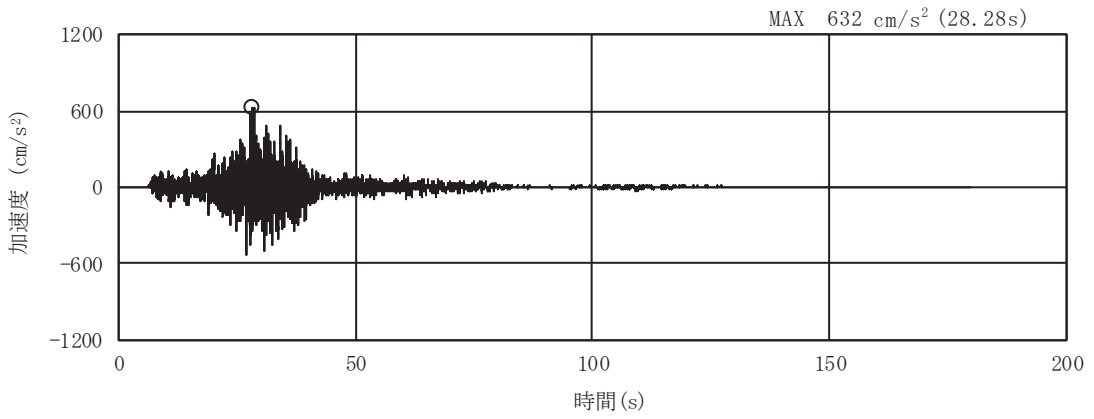


(a) 加速度時刻歴波形

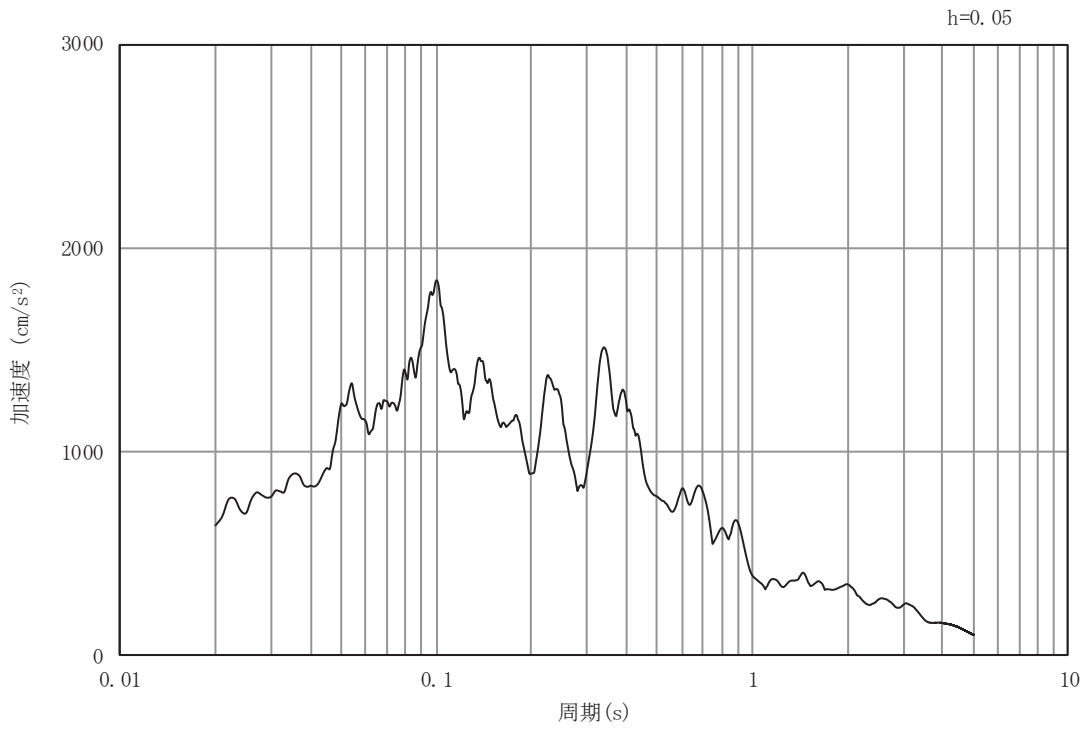


(b) 加速度応答スペクトル

図3-15 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - F 1)

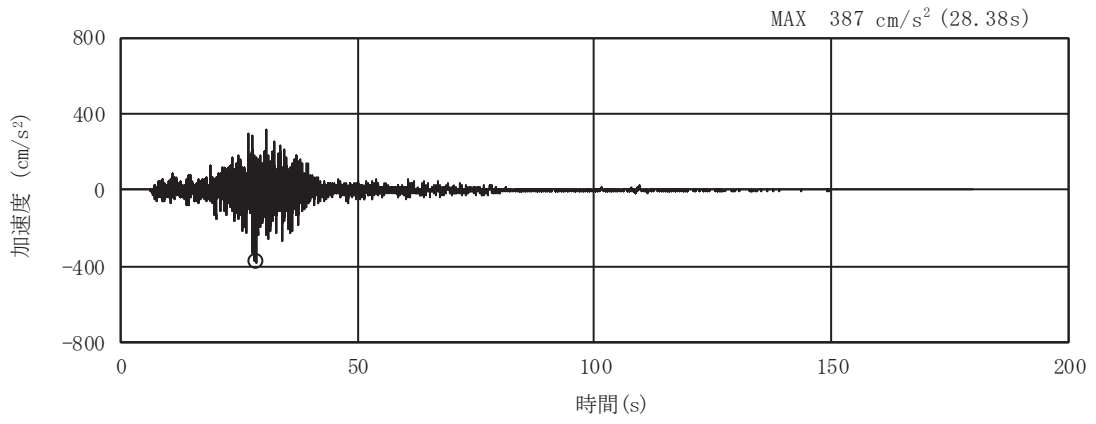


(a) 加速度時刻歴波形

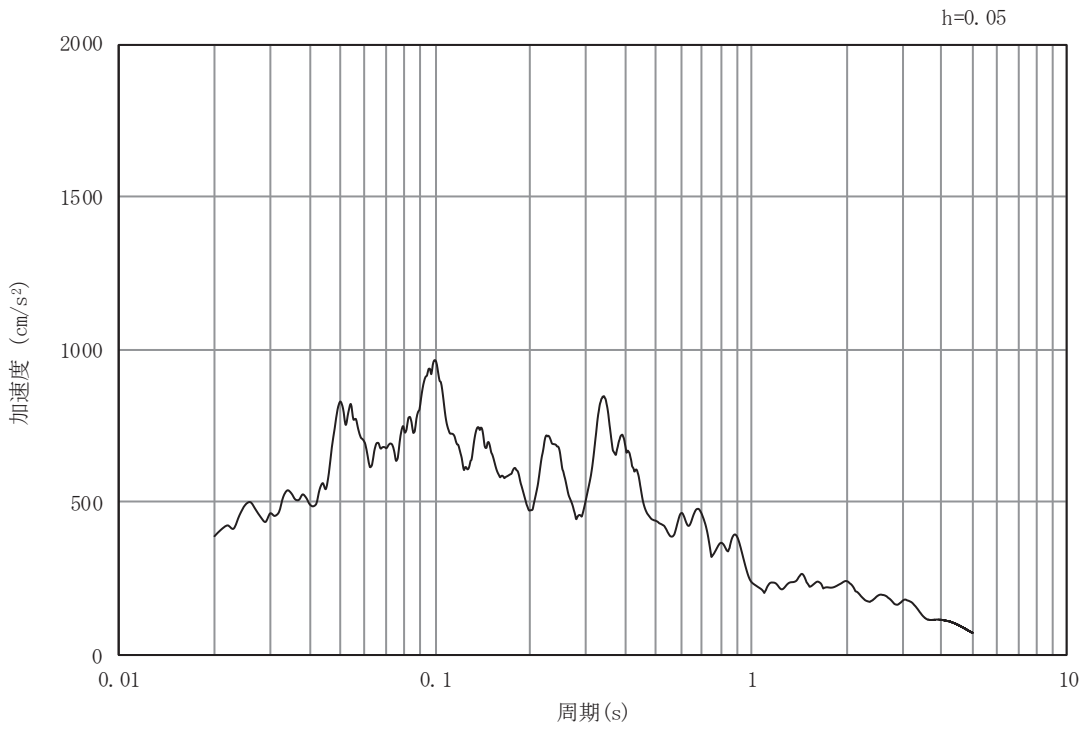


(b) 加速度応答スペクトル

図3-16 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - F 2)

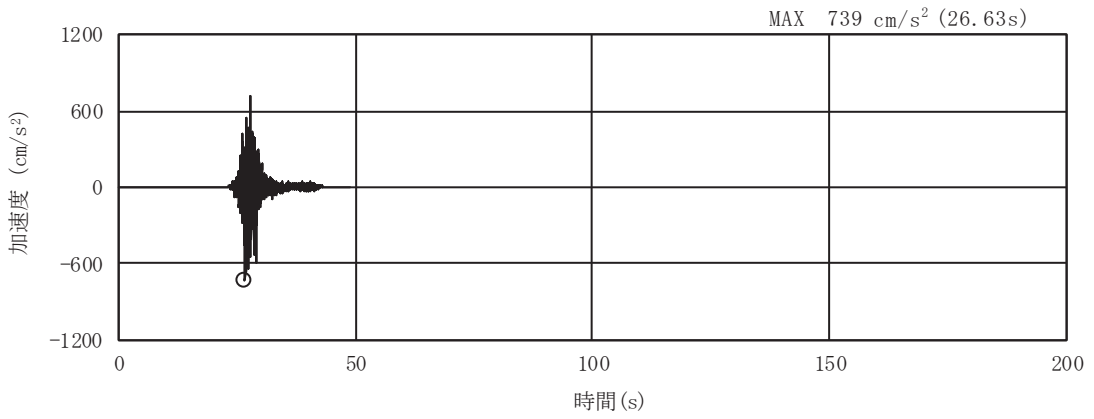


(a) 加速度時刻歴波形

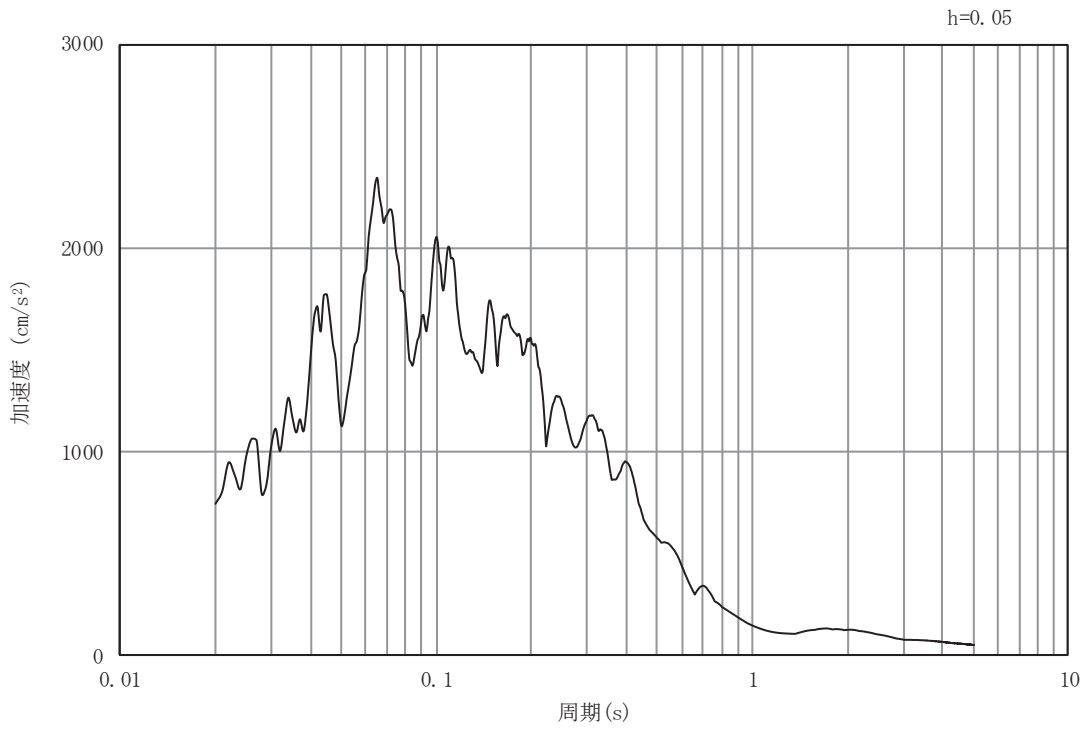


(b) 加速度応答スペクトル

図3-17 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - F 2)



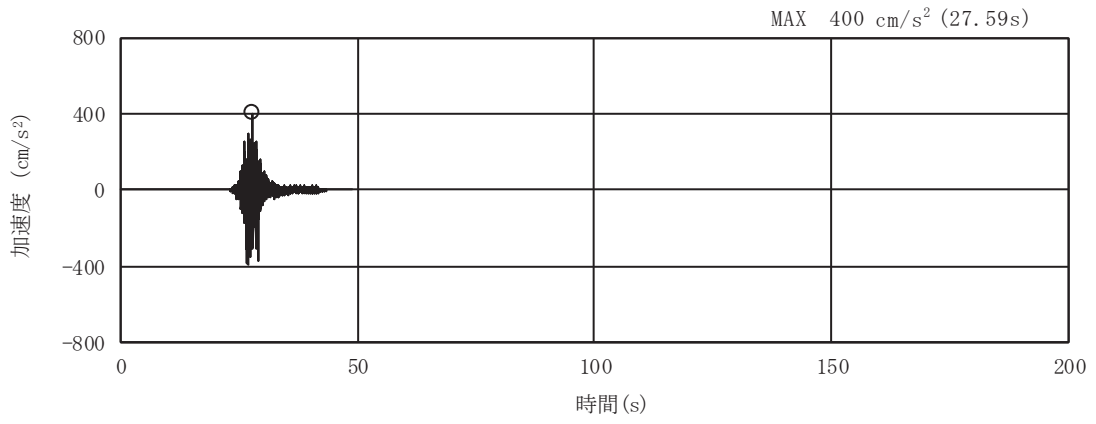
(a) 加速度時刻歴波形



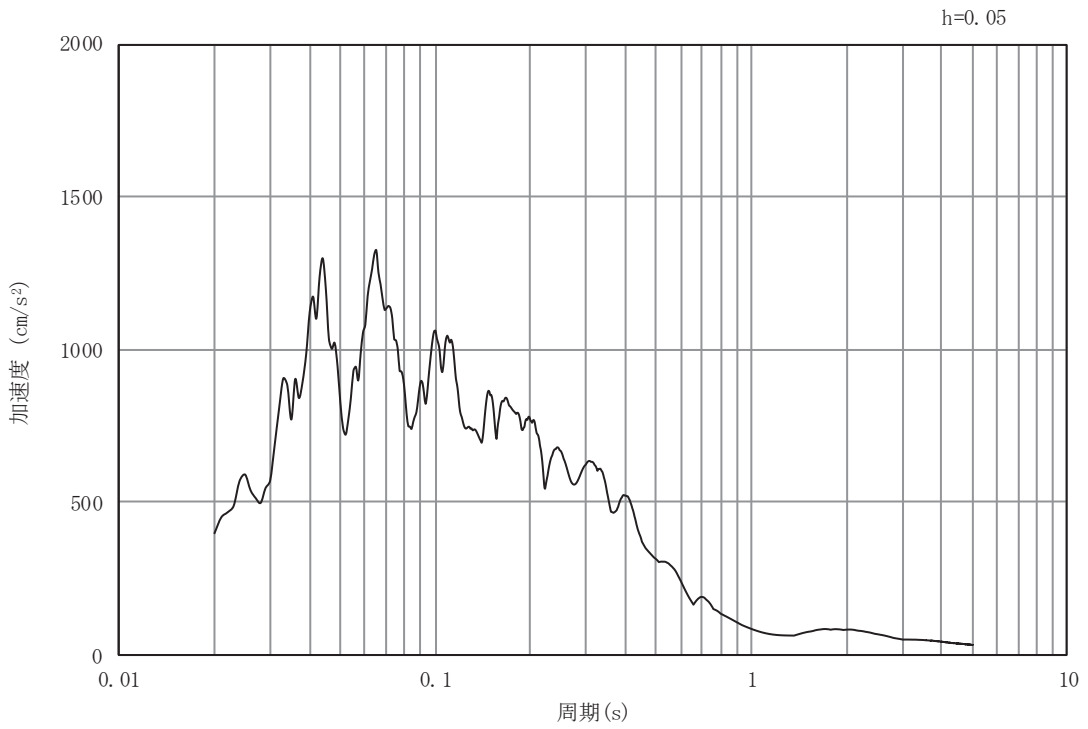
(b) 加速度応答スペクトル

図3-18 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - F 3)



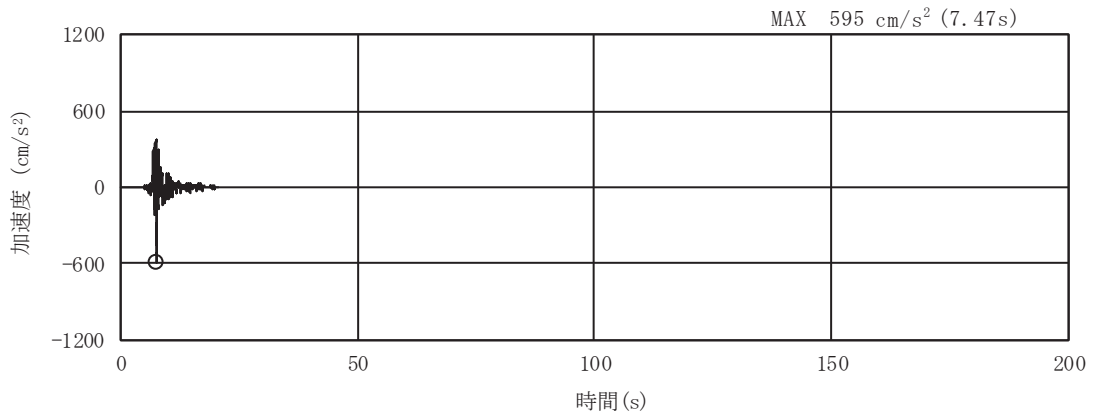


(a) 加速度時刻歴波形

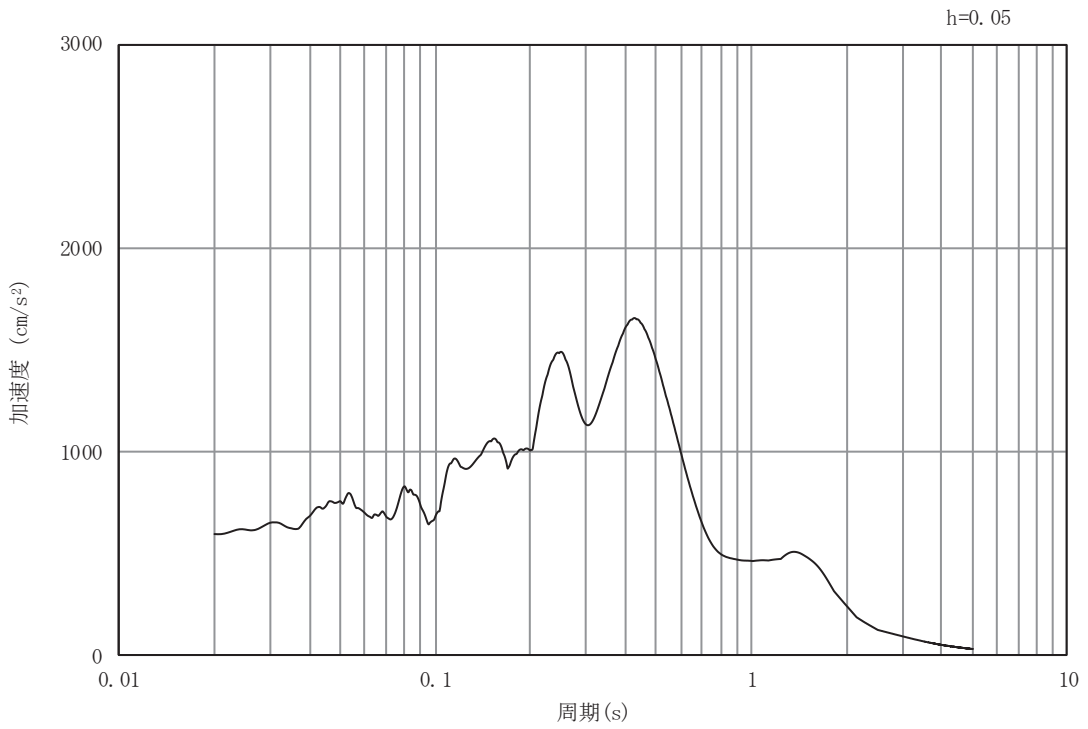


(b) 加速度応答スペクトル

図3-19 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - F 3)

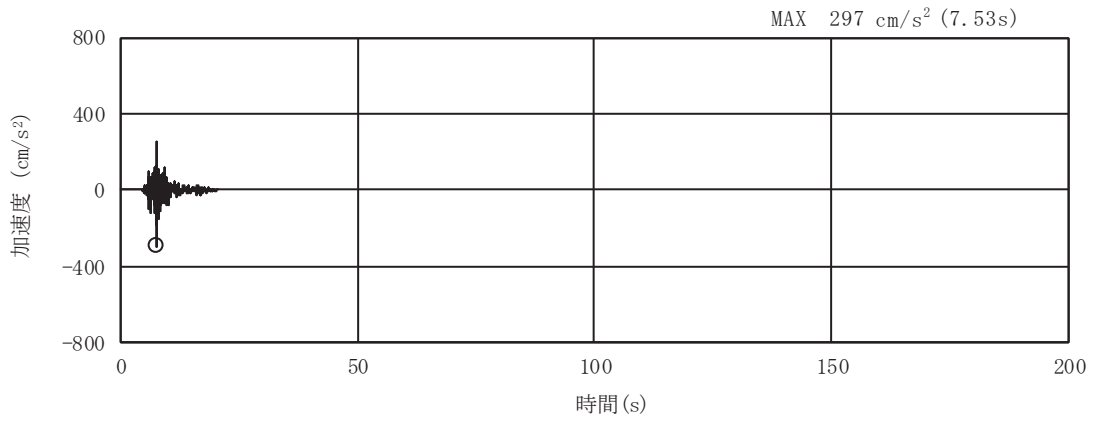


(a) 加速度時刻歴波形

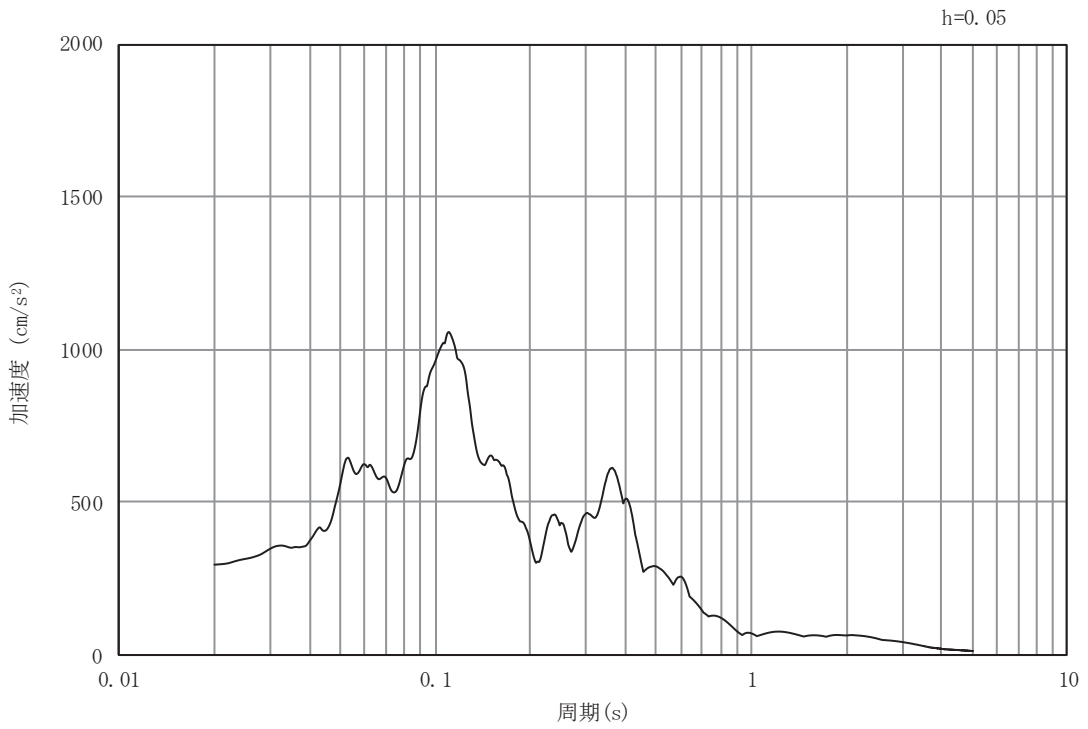


(b) 加速度応答スペクトル

図3-20 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S s - N 1)

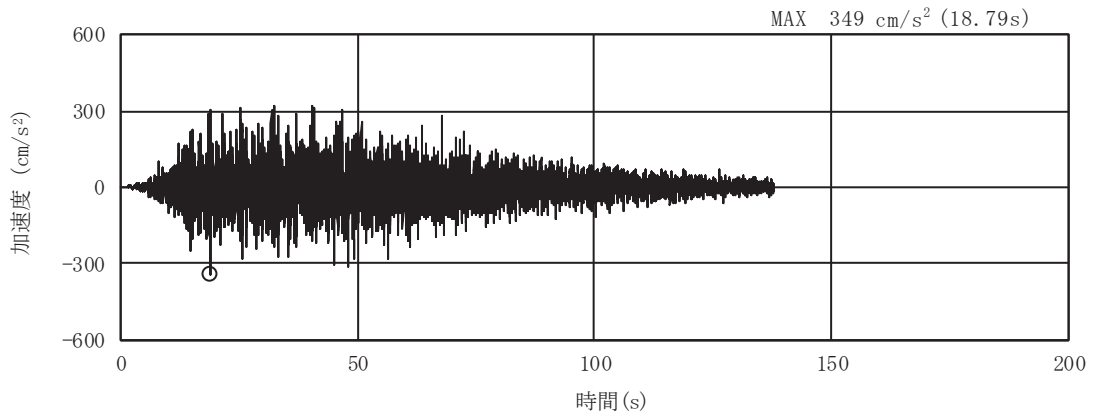


(a) 加速度時刻歴波形

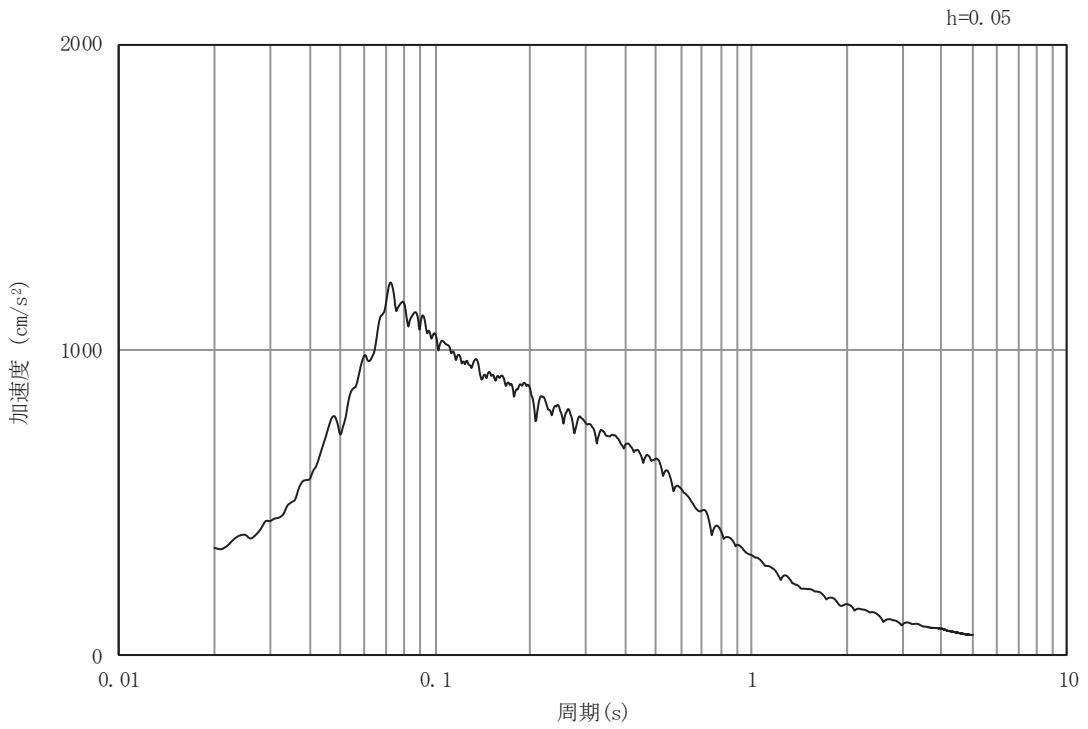


(b) 加速度応答スペクトル

図3-21 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S s - N 1)

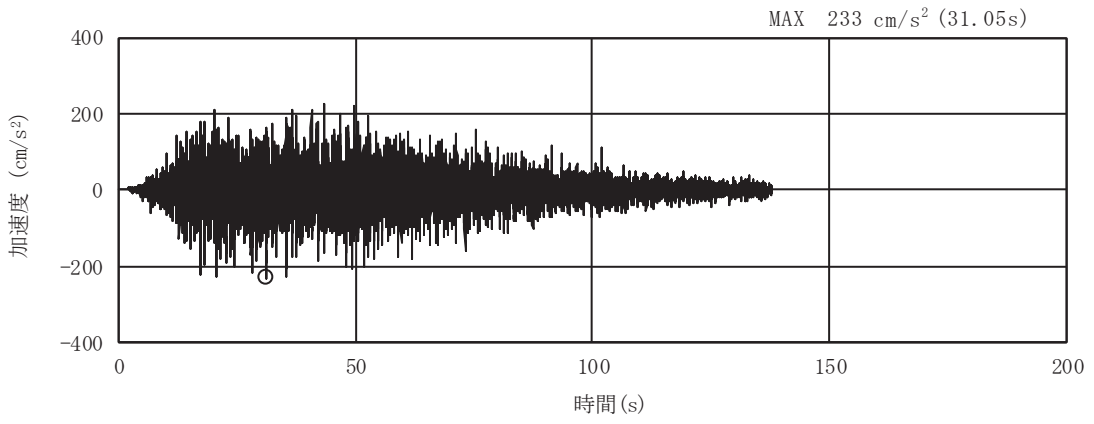


(a) 加速度時刻歴波形

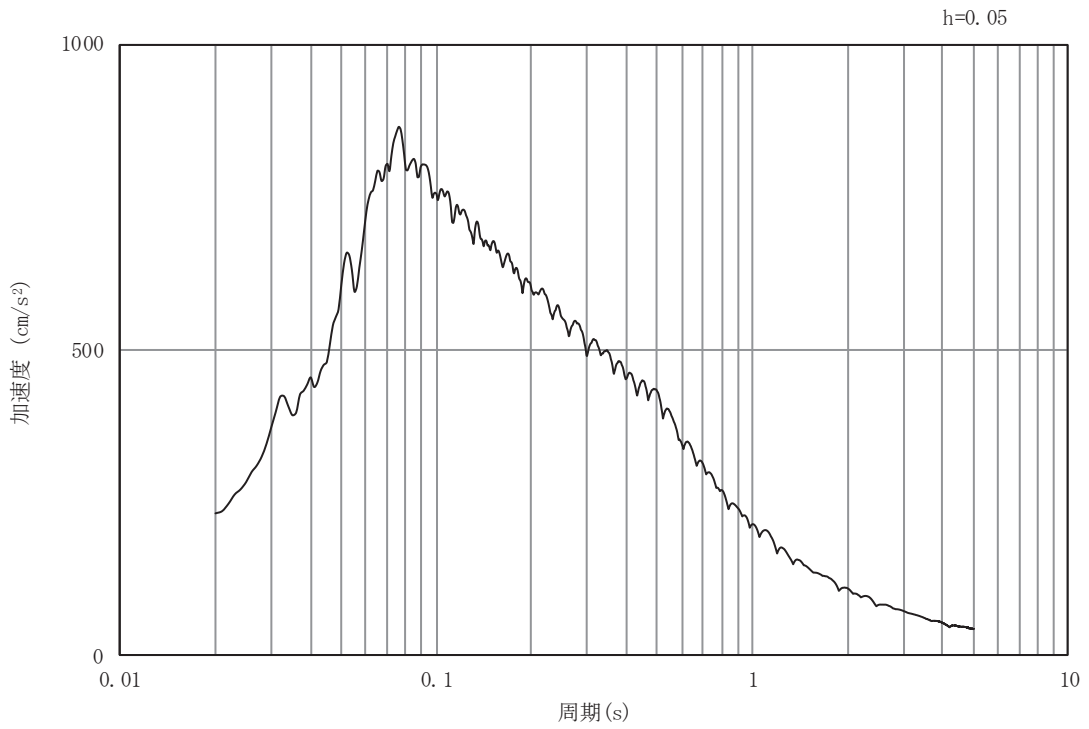


(b) 加速度応答スペクトル

図3-22 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - D 1)

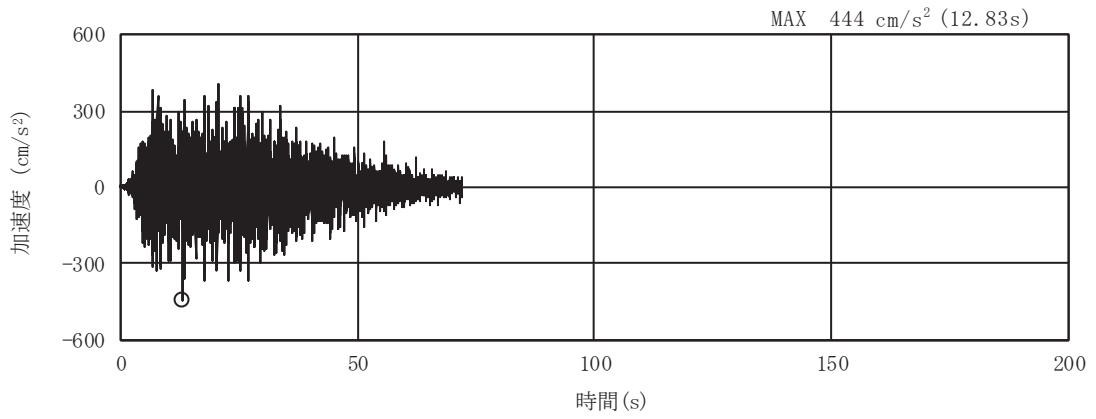


(a) 加速度時刻歴波形

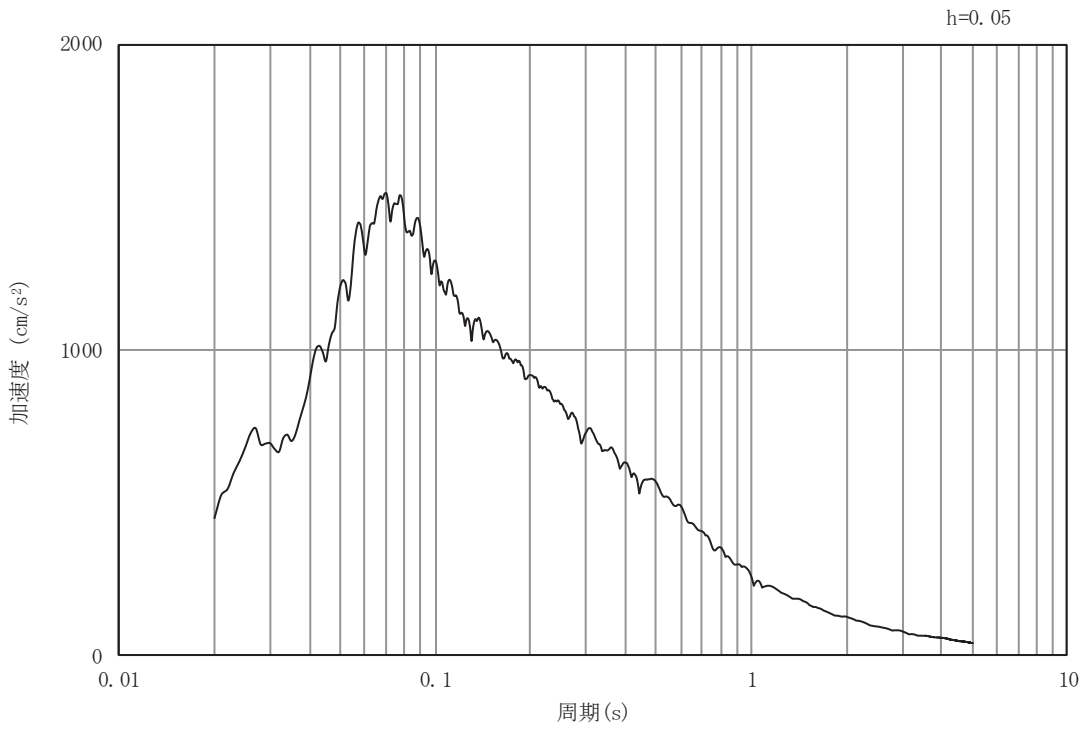


(b) 加速度応答スペクトル

図3-23 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - D 1)

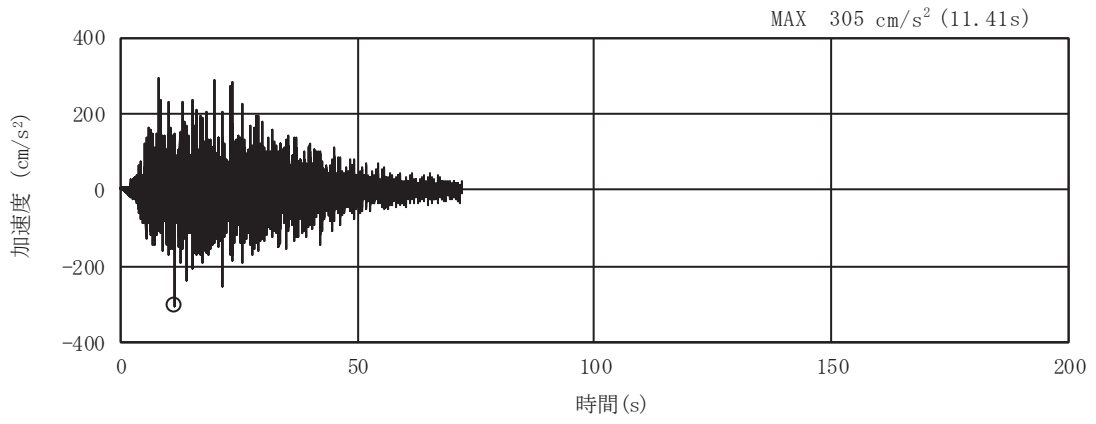


(a) 加速度時刻歴波形

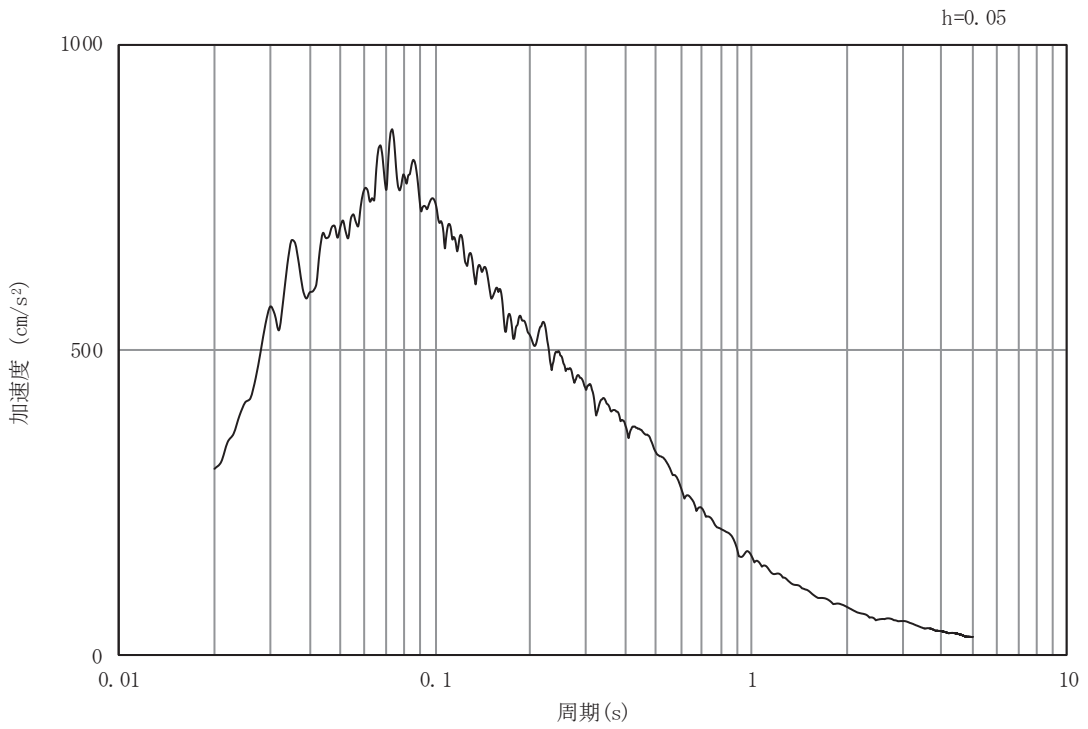


(b) 加速度応答スペクトル

図3-24 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - D 2)

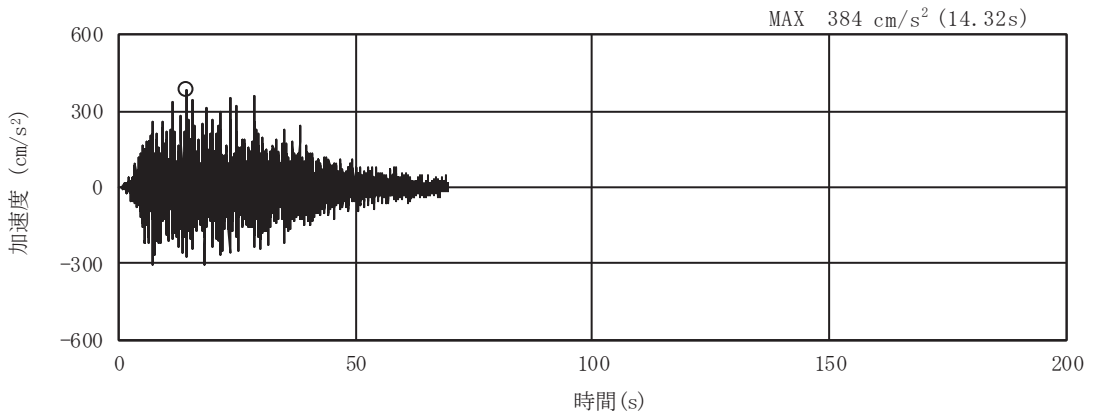


(a) 加速度時刻歴波形

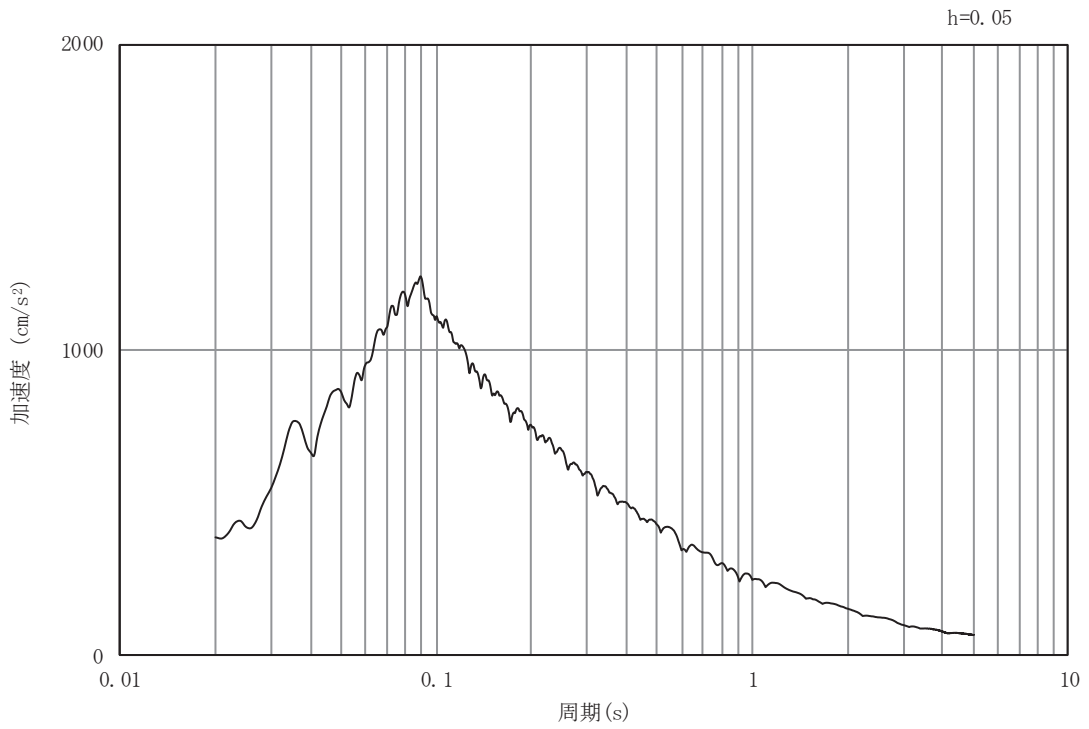


(b) 加速度応答スペクトル

図3-25 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - D 2)



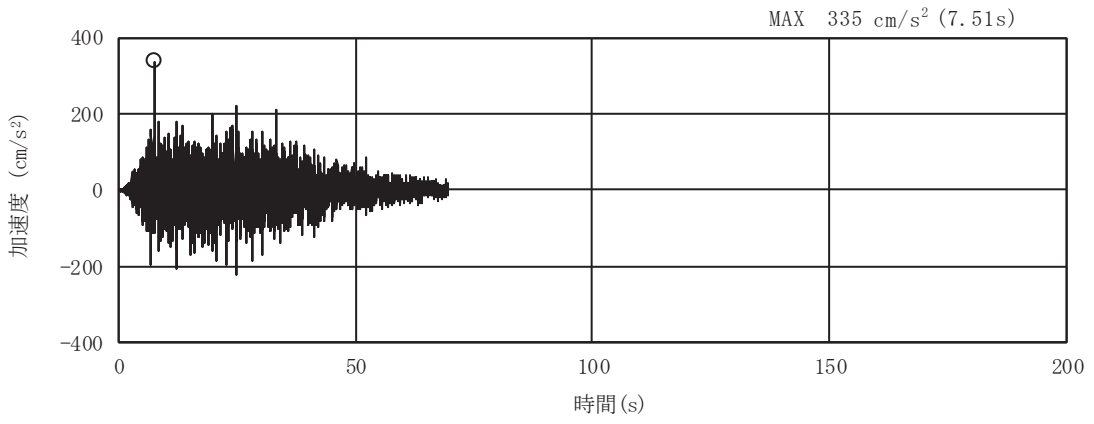
(a) 加速度時刻歴波形



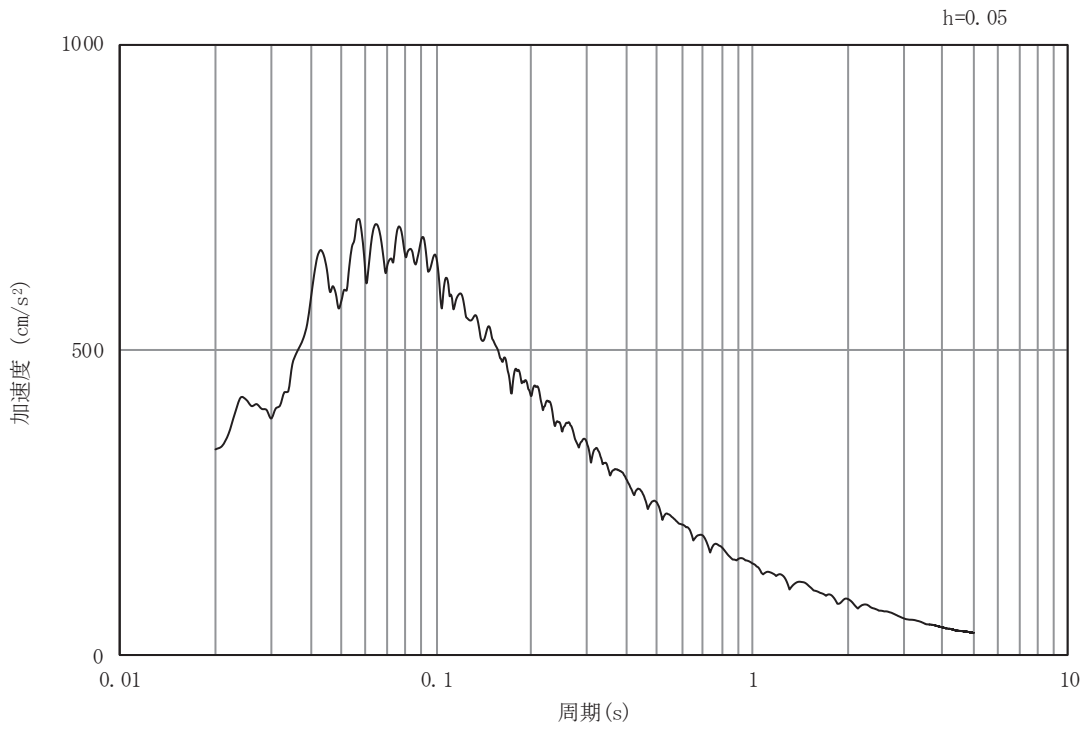
(b) 加速度応答スペクトル

図3-26 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - D 3)



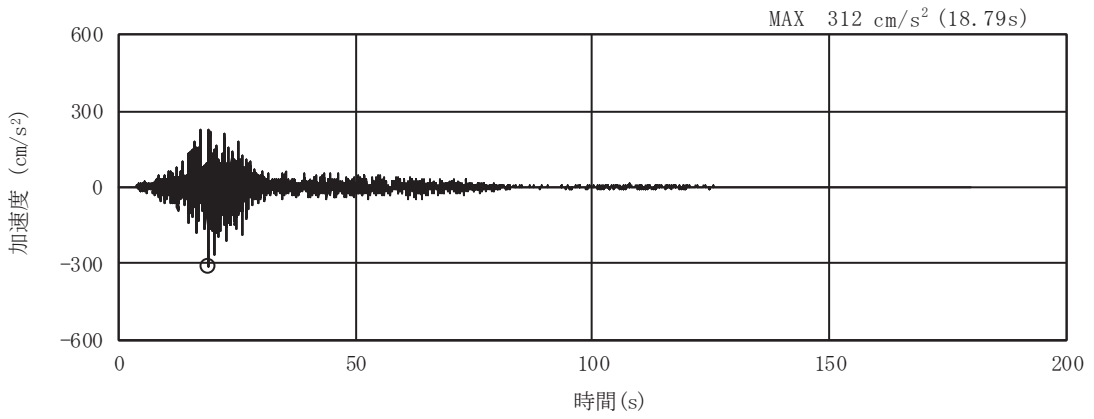


(a) 加速度時刻歴波形

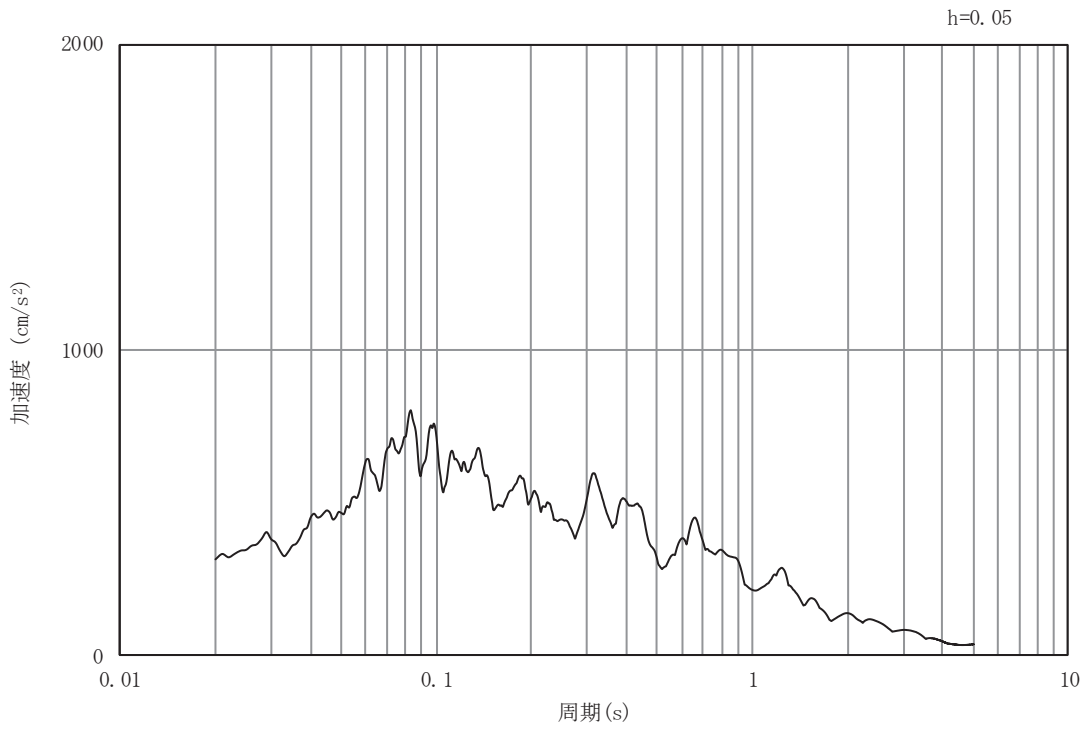


(b) 加速度応答スペクトル

図3-27 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - D 3)

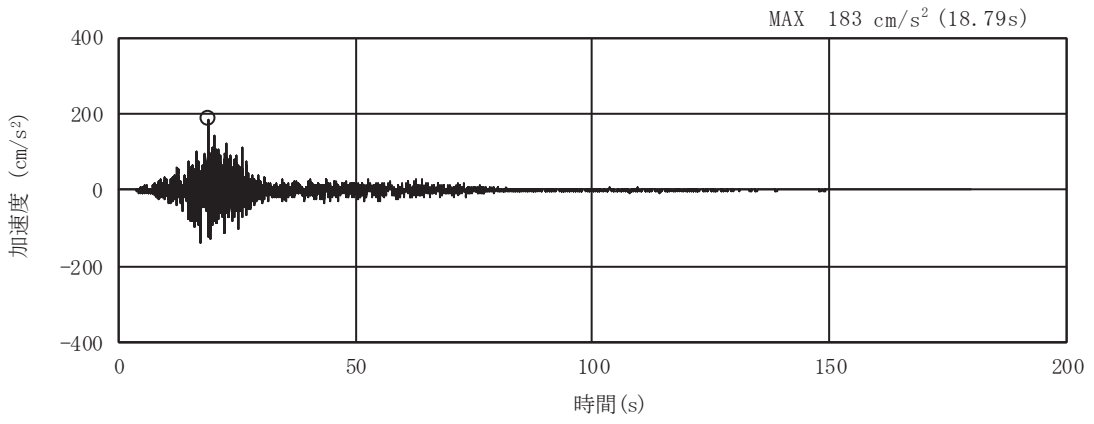


(a) 加速度時刻歴波形

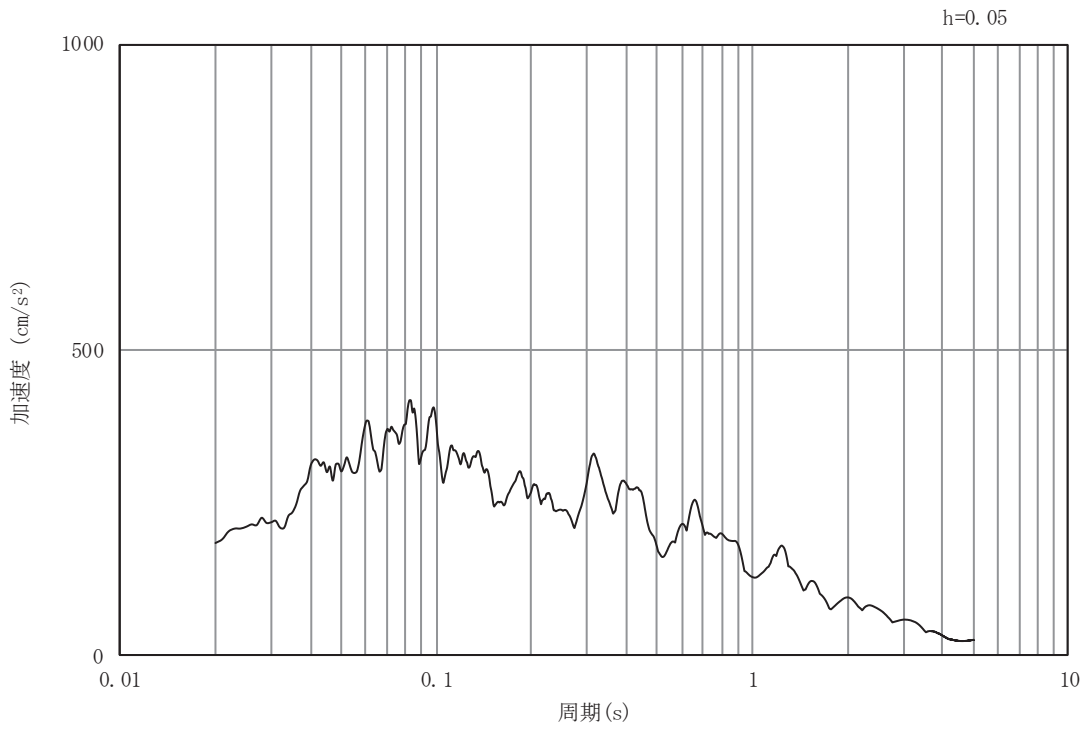


(b) 加速度応答スペクトル

図3-28 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - F 1)

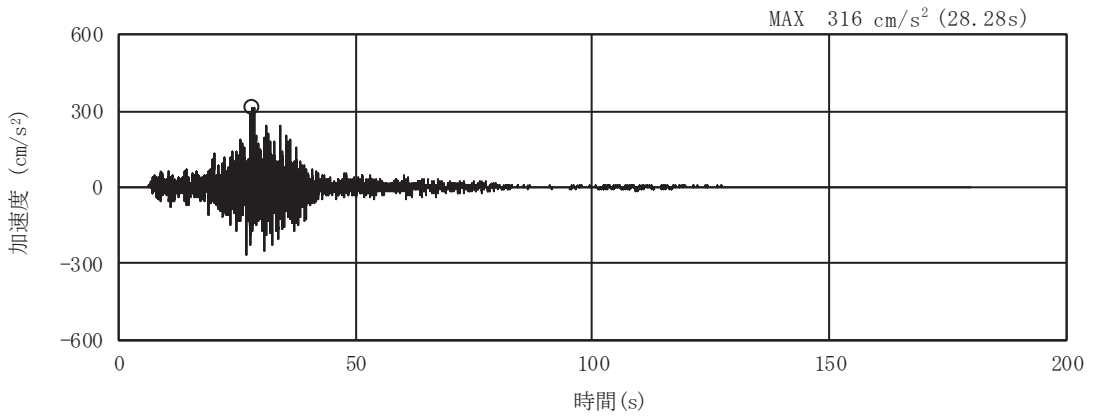


(a) 加速度時刻歴波形

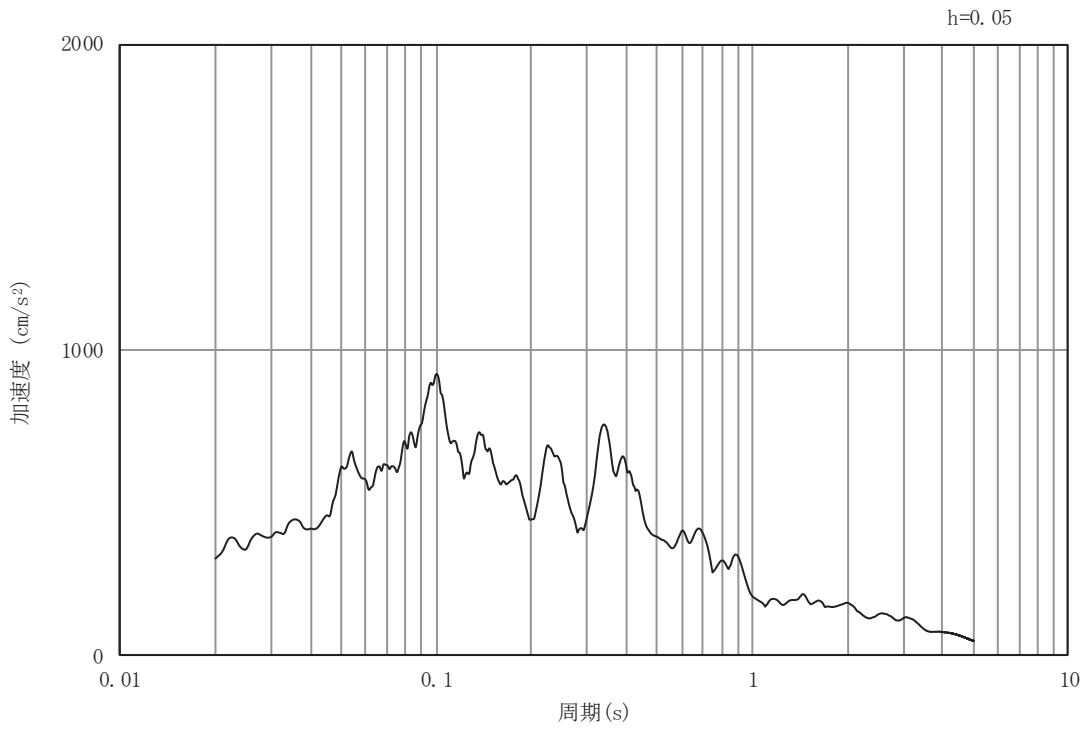


(b) 加速度応答スペクトル

図3-29 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - F 1)

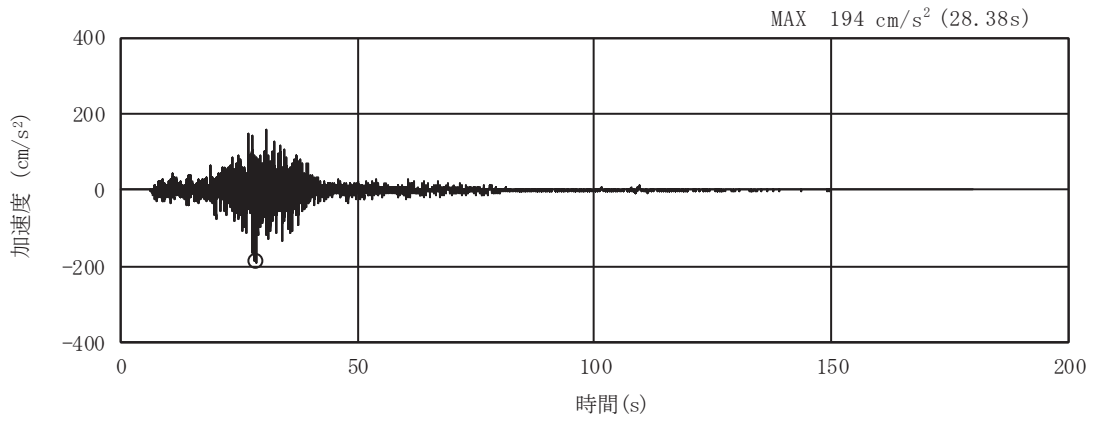


(a) 加速度時刻歴波形

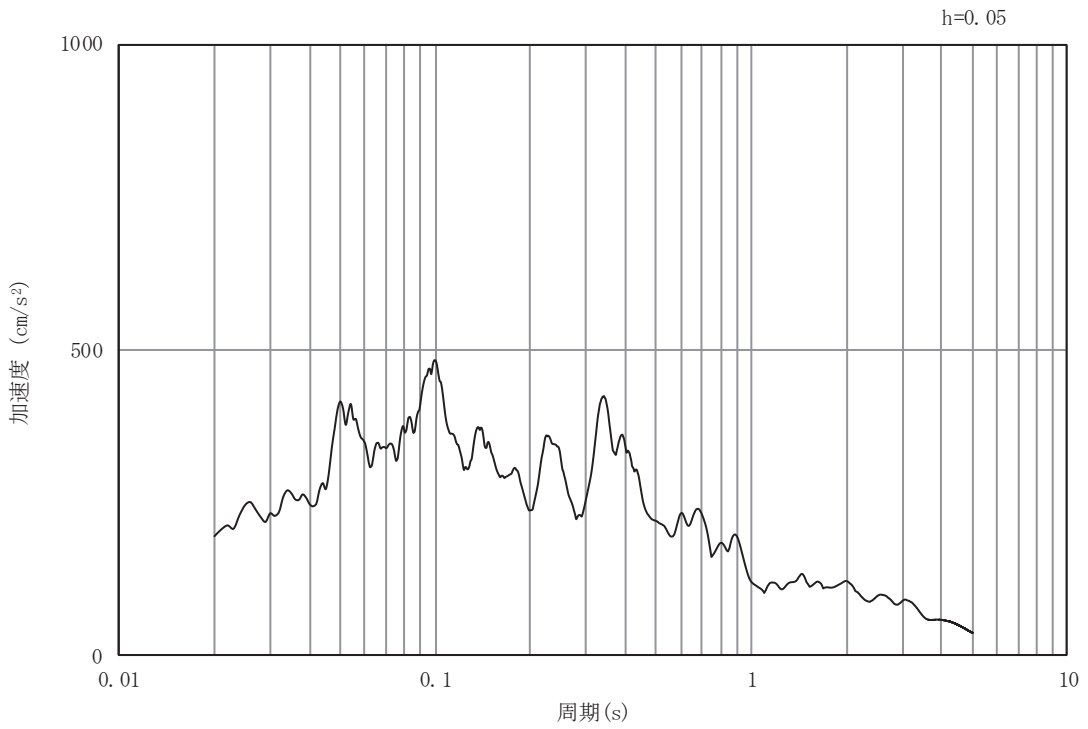


(b) 加速度応答スペクトル

図3-30 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - F 2)

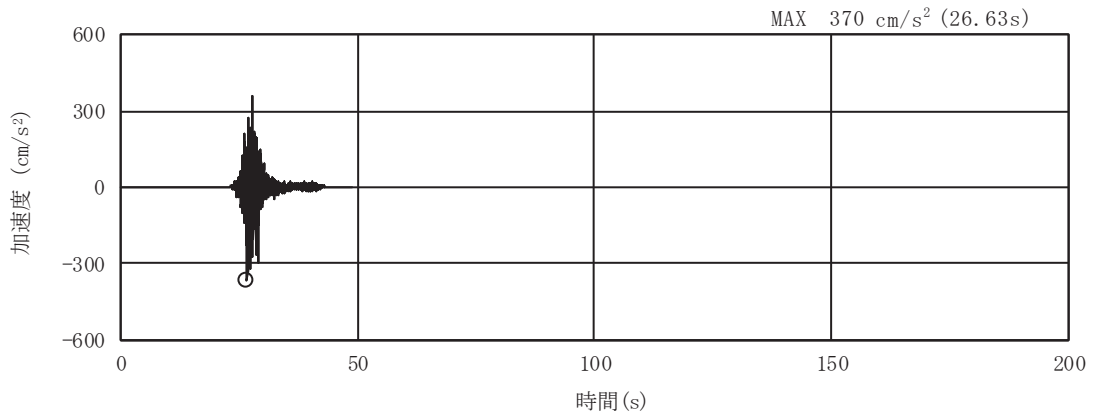


(a) 加速度時刻歴波形

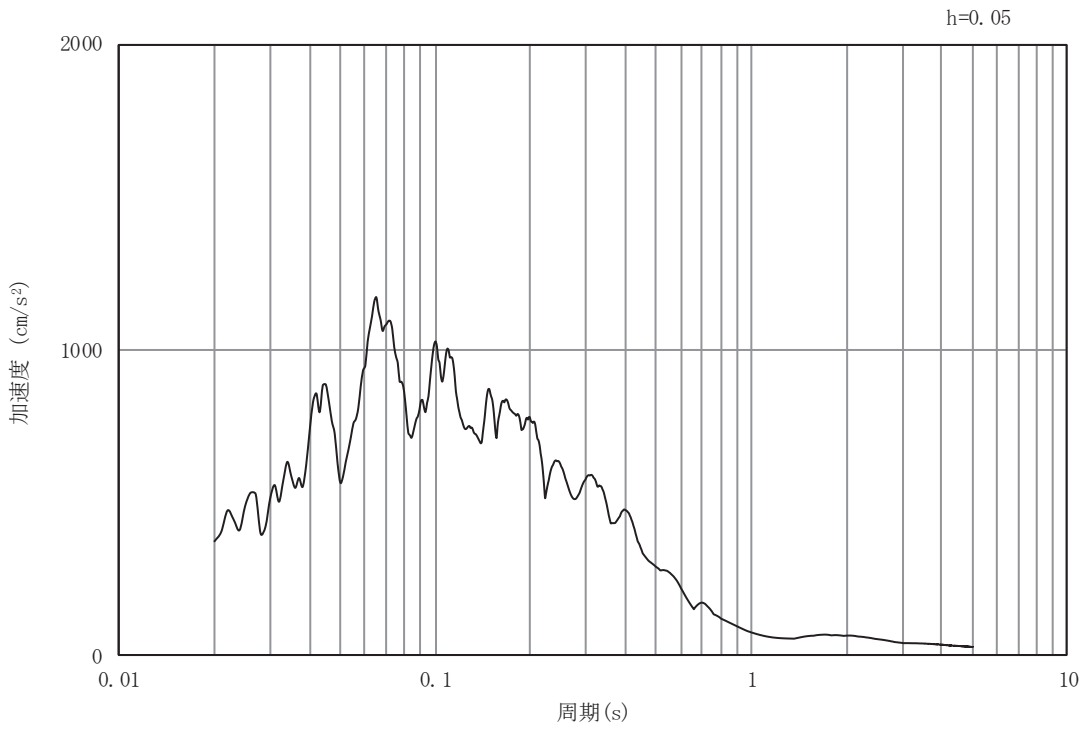


(b) 加速度応答スペクトル

図3-31 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - F 2)

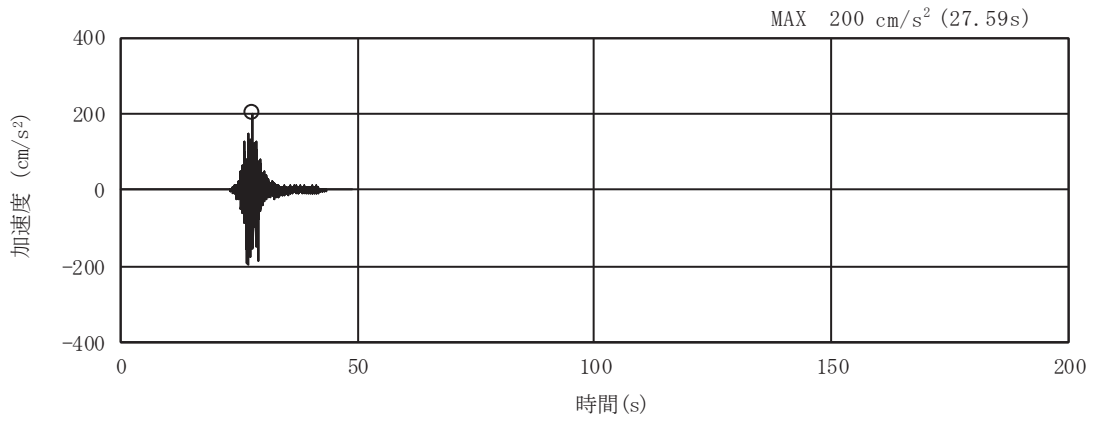


(a) 加速度時刻歴波形

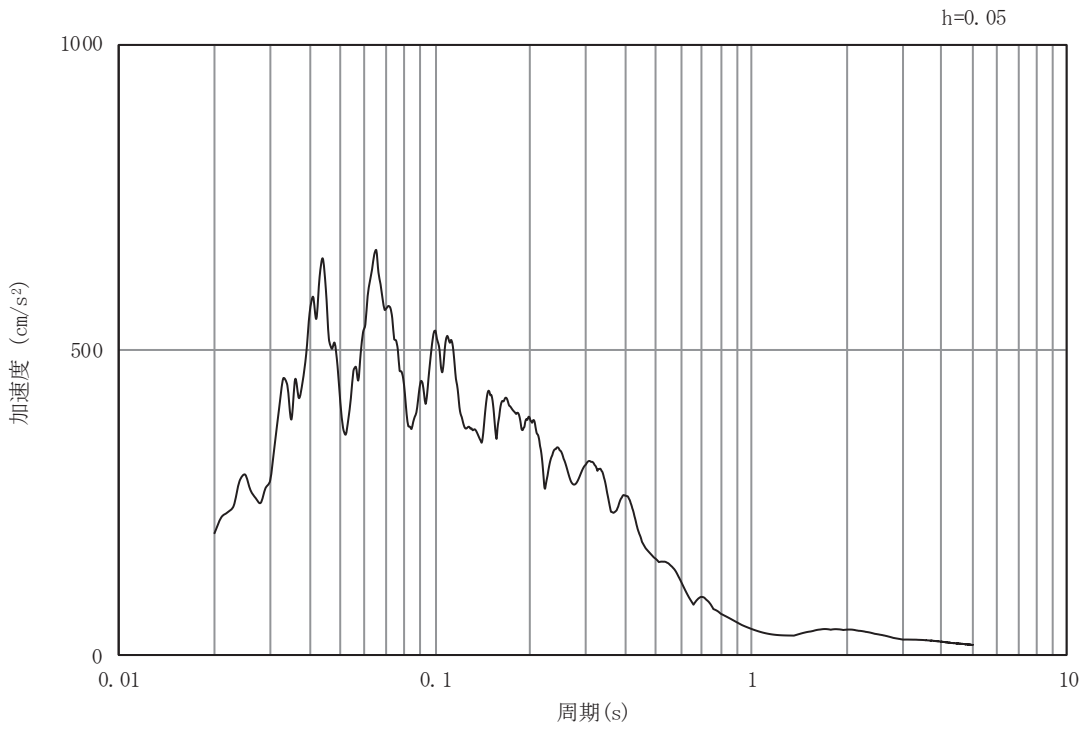


(b) 加速度応答スペクトル

図3-32 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - F 3)

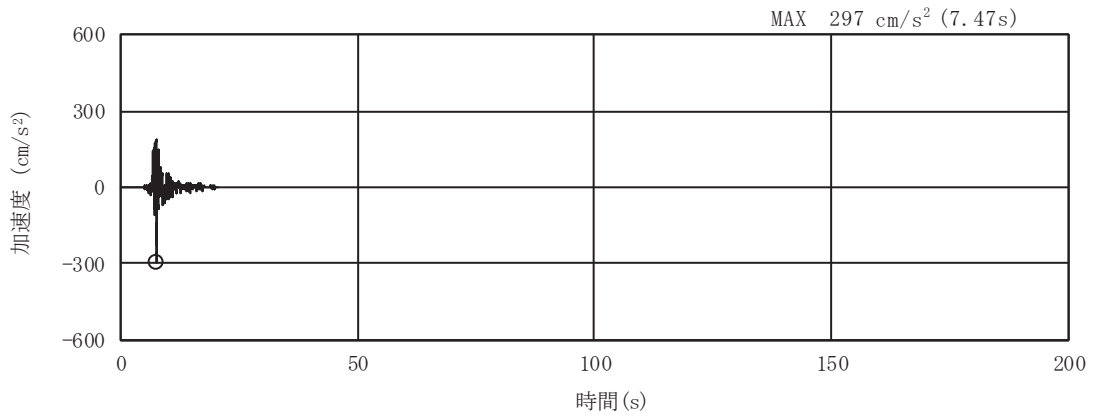


(a) 加速度時刻歴波形

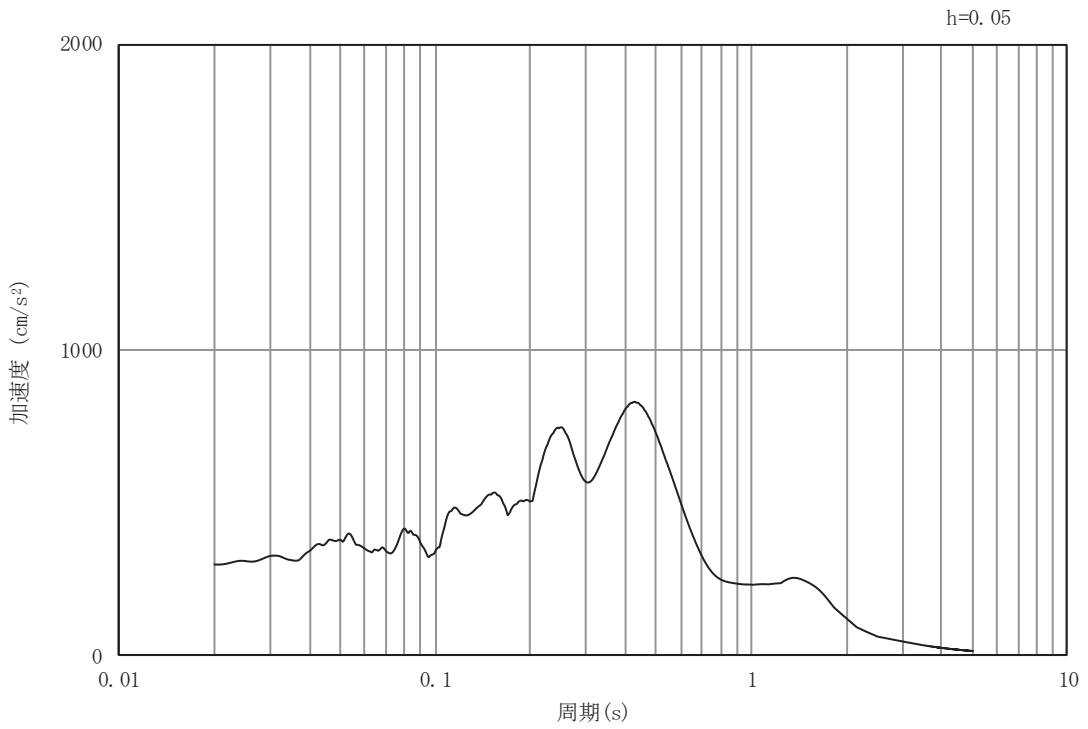


(b) 加速度応答スペクトル

図3-33 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - F 3)



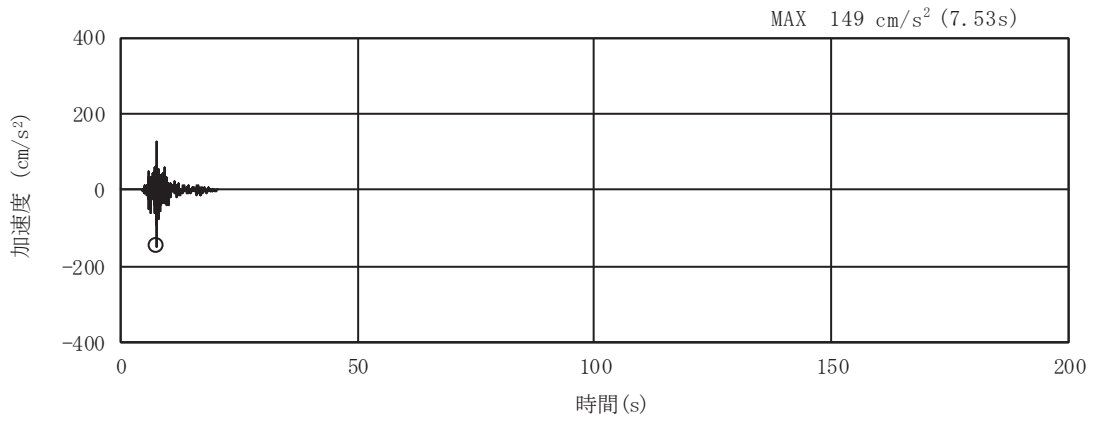
(a) 加速度時刻歴波形



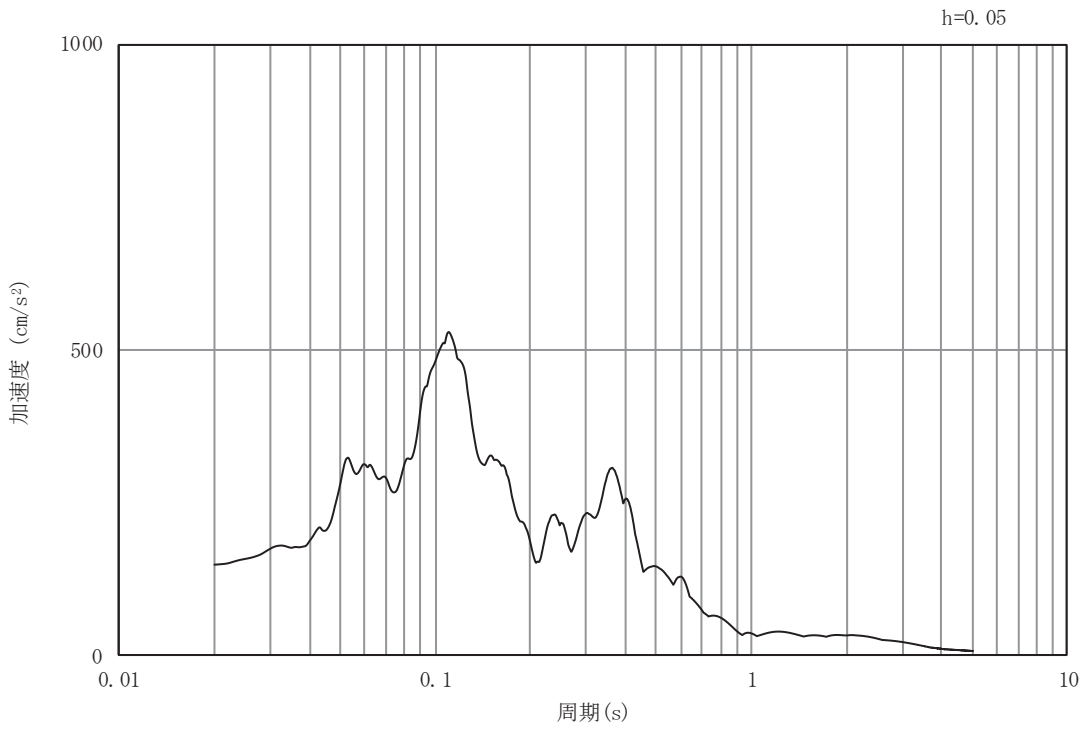
(b) 加速度応答スペクトル

図3-34 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(水平成分：S d - N 1)





(a) 加速度時刻歴波形



(b) 加速度応答スペクトル

図3-35 入力地震動の加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトル  
(鉛直成分：S d - N 1)

### 3.5 解析モデル及び諸元

#### 3.5.1 解析モデル

軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析モデルを図 3-36 に示す。

##### (1) 解析領域

二次元有限要素法による時刻歴応答解析の解析モデルの解析領域は、境界条件の影響が地盤及び構造物の応力状態に影響を及ぼさないよう、十分に広い領域とする。

##### (2) 境界条件

二次元有限要素法による時刻歴応答解析の解析モデルの境界条件については、有限要素解析における半無限地盤を模擬するため、粘性境界を設ける。

##### (3) 構造物のモデル化

鉄筋コンクリート部材は、非線形はり要素によりモデル化する。

##### (4) 地盤のモデル化

D<sub>1</sub>級を除く岩盤は、線形の平面ひずみ要素でモデル化する。また、盛土、旧表土及び D<sub>2</sub>級岩盤は、地盤の非線形性をマルチスプリング要素で考慮した平面ひずみ要素でモデル化する。

##### (5) 隣接構造物のモデル化

隣接構造物となる復水貯蔵タンク基礎は、線形はり要素でモデル化する。

##### (6) ジョイント要素の設定

地震時の「MMR と構造物」、「地盤と MMR」及び「地盤と構造物」との接合面における剥離及びすべりを考慮するため、これらの接合面にジョイント要素を設定する。

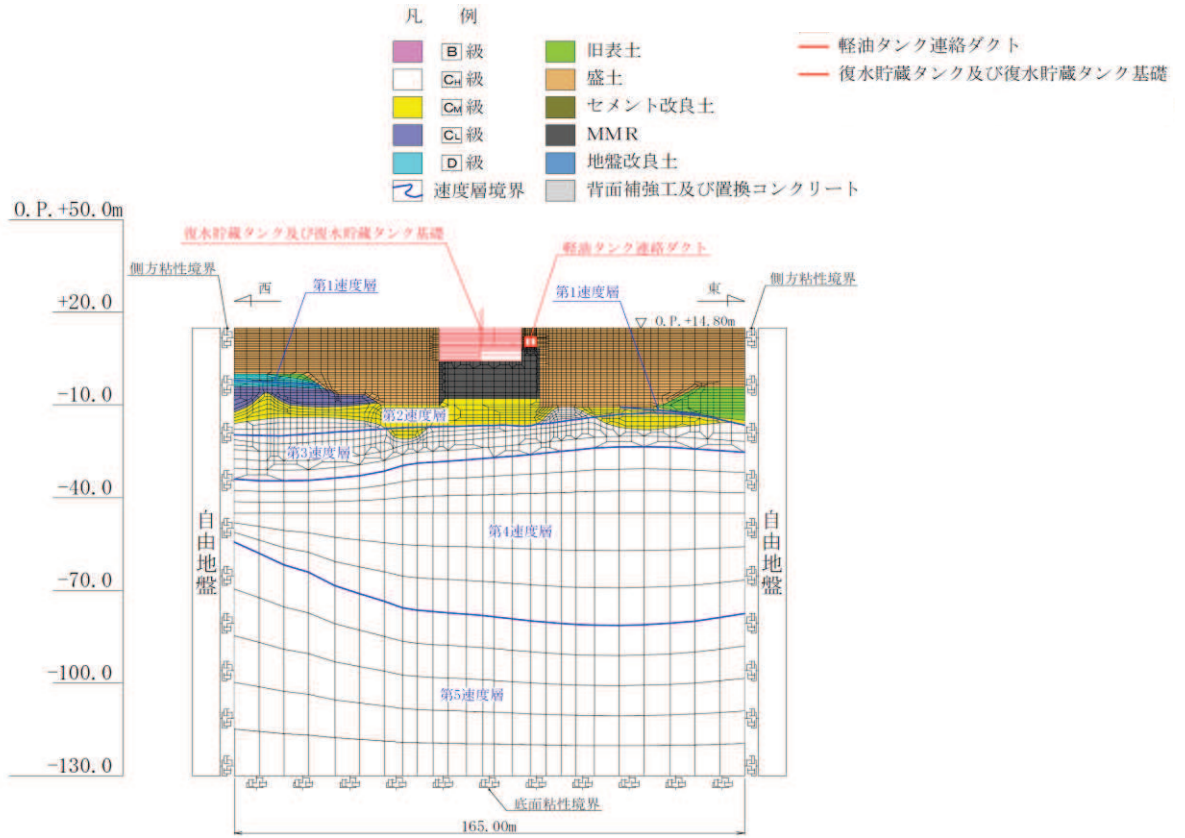


図 3-36 軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析モデル図

### 3.5.2 使用材料及び材料の物性値

使用材料を表 3-6 に、材料の物性値を表 3-7 に示す。

表 3-6 使用材料

材料	仕様
コンクリート	設計基準強度 20.5N/mm <sup>2</sup>
鉄筋	SD345

表 3-7 材料の物性値 (構造部材)

材料	項目	材料諸元	備考
鉄筋コンクリート	単位体積重量 (kN/m <sup>3</sup> )	24.0	
コンクリート	ヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> )	実強度*	3.32×10 <sup>4</sup> 解析ケース④
		設計基準強度	2.33×10 <sup>4</sup> 解析ケース①, ②, ③
	ポアソン比	0.2	

注記\* : 既設構造物のコア採取による圧縮強度試験の結果を使用する。

### 3.5.3 地盤の物性値

地盤については、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」にて設定している物性値を用いる。

### 3.5.4 地下水位

設計用地下水位は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に従い設定する。設計用地下水位を表3-8及び図3-37に示す。

表3-8 設計用地下水位の一覧

施設名称	設計用地下水位
軽油タンク連絡ダクト	O. P. -3.00m~O. P. +3.00m

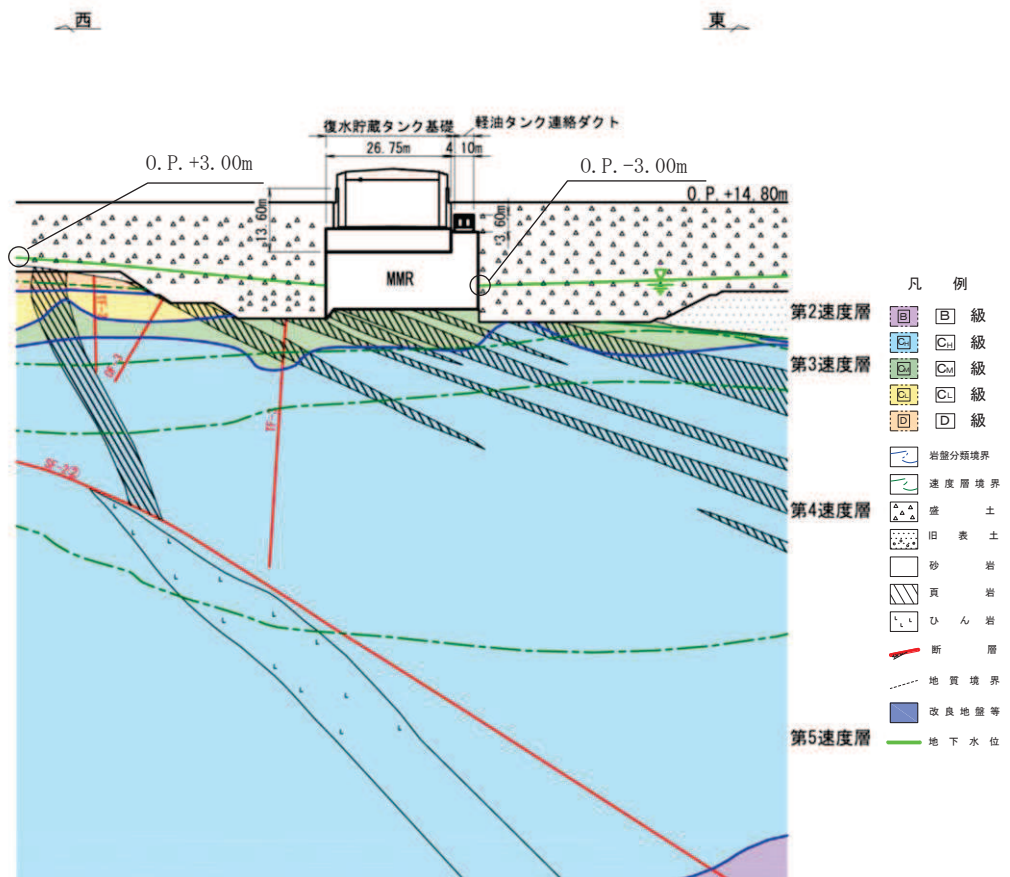
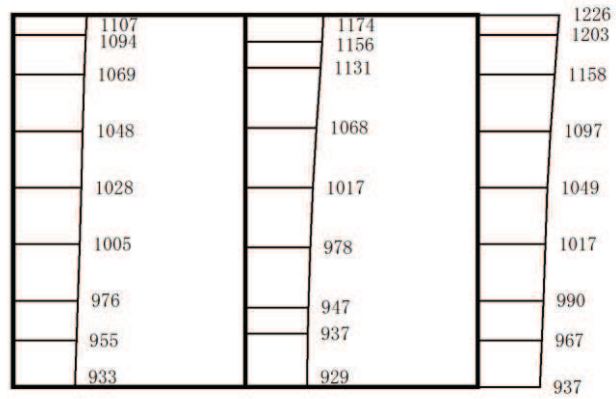


図3-37 設計用地下水位

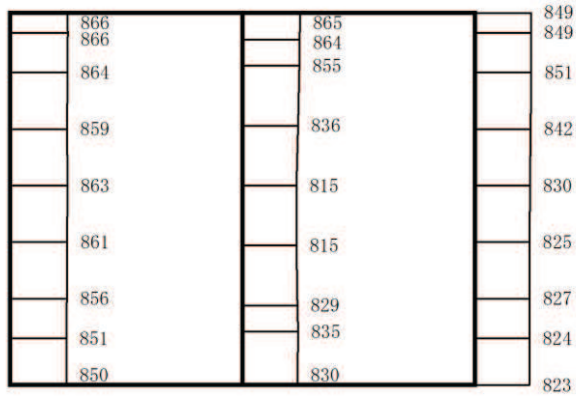
#### 4. 解析結果

耐震評価のために用いる応答加速度として、解析ケース①（基本ケース）について、すべての基準地震動 $S_s$ に対する最大加速度分布図を図4-1～図4-14に示す。また、解析ケース①において、照査項目ごとに照査値が0.5を超えるケースで照査値が最大となる地震動について、解析ケース②～④の最大加速度分布図を図4-15～図4-17に示す。

これらに加え、機器・配管系に対する応答加速度抽出として、解析ケース②～④についてすべての基準地震動 $S_s$ に対する最大加速度分布図を図4-18～図4-38に示す。また、解析ケース①～④についてすべての弾性設計用地震動 $S_d$ に対する最大加速度分布図を図4-39～図4-66に示す。



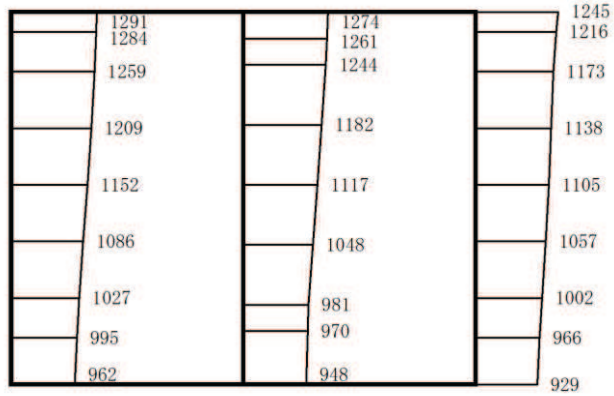
(a)  $S_s - D 1 (+ +)$  水平



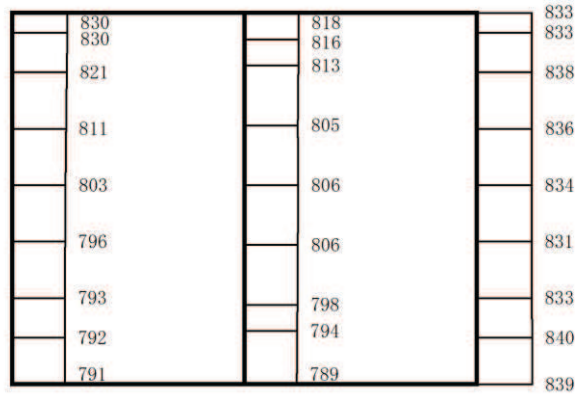
構造スケール  $\frac{0}{1}$  (m)      応答値スケール  $\frac{0}{2000}$  (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - D 1 (+ +)$  鉛直

図 4-1 最大加速度分布図 (1/17) (解析ケース①)



(a) S s - D 1 ( - + ) 水平

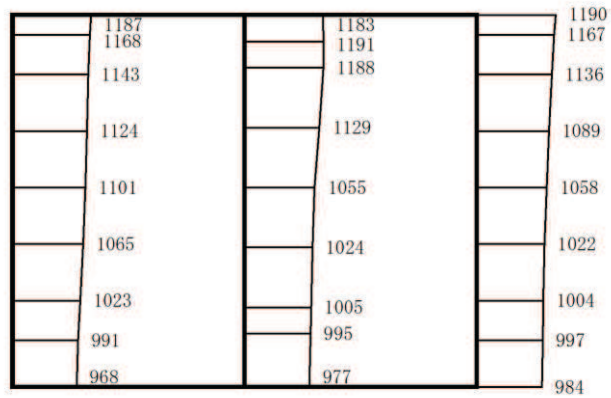


構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

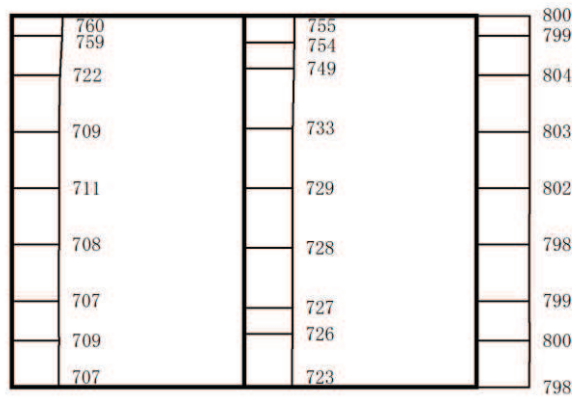
(b) S s - D 1 ( - + ) 鉛直

図 4-2 最大加速度分布図 (2/17) (解析ケース①)





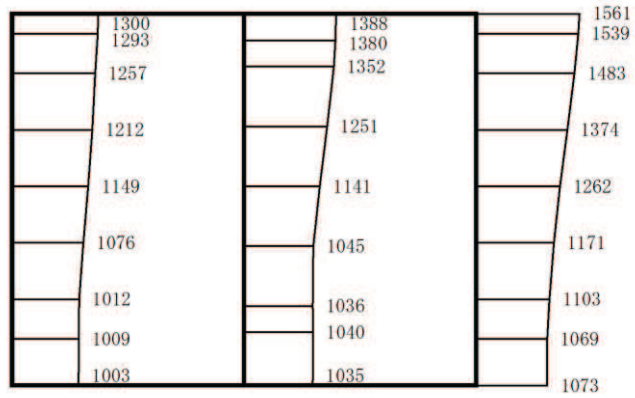
(a) S<sub>s</sub>-D 2 (++) 水平



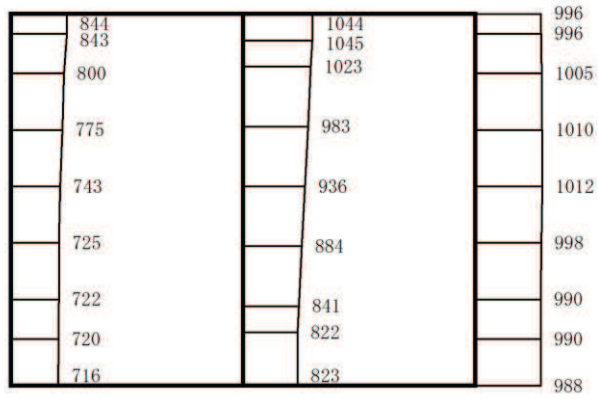
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S<sub>s</sub>-D 2 (++) 鉛直

図 4-3 最大加速度分布図 (3/17) (解析ケース①)



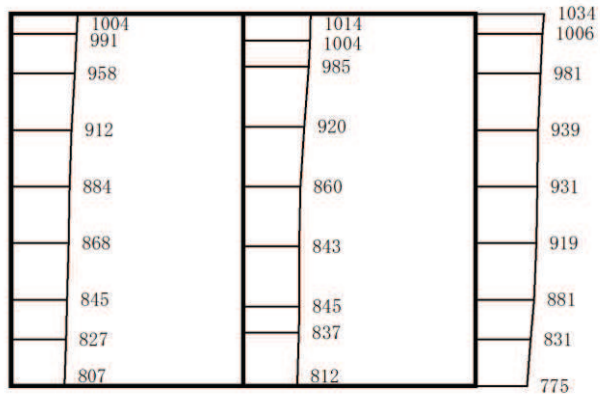
(a) S s - D 2 ( - + ) 水平



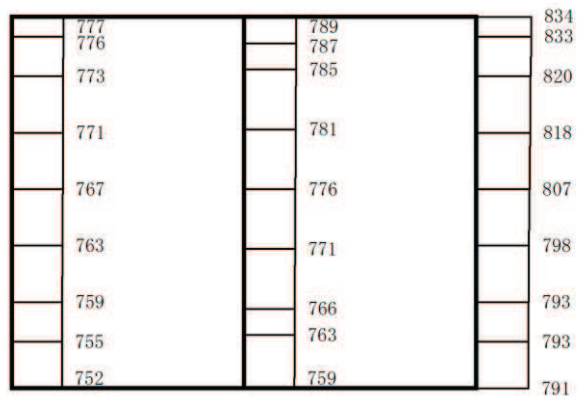
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 ( - + ) 鉛直

図 4-4 最大加速度分布図 (4/17) (解析ケース①)



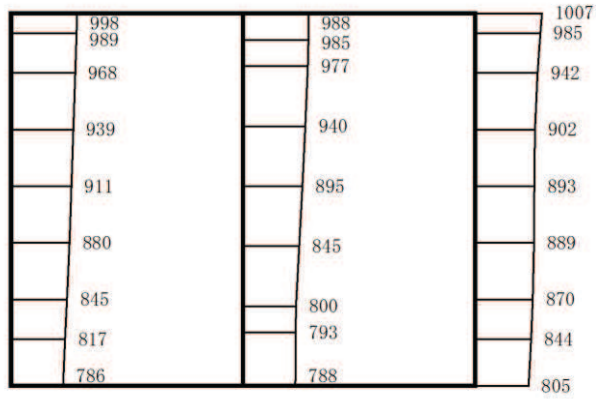
(a) S s - D 3 (++) 水平



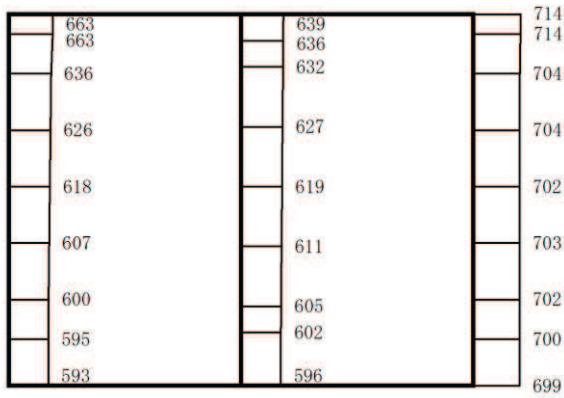
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 3 (++) 鉛直

図 4-5 最大加速度分布図 (5/17) (解析ケース①)



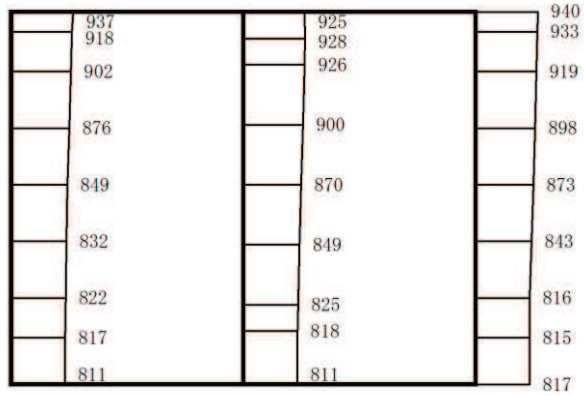
(a) S s - D 3 ( - + ) 水平



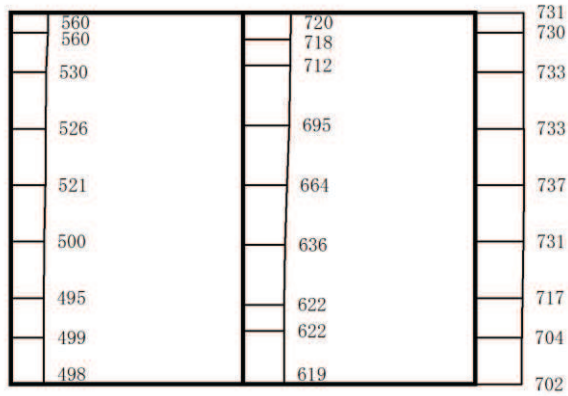
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 3 ( - + ) 鉛直

図 4-6 最大加速度分布図 (6/17) (解析ケース①)



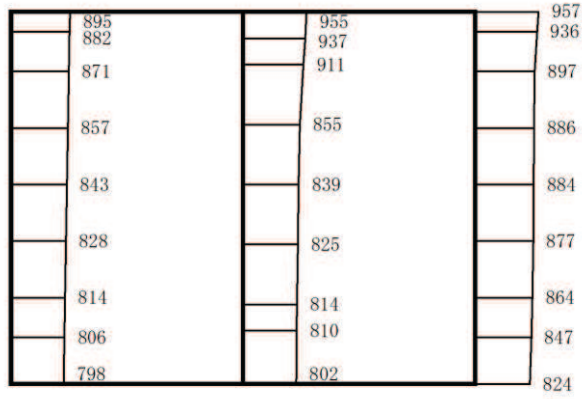
(a) S s - F 1 (++) 水平



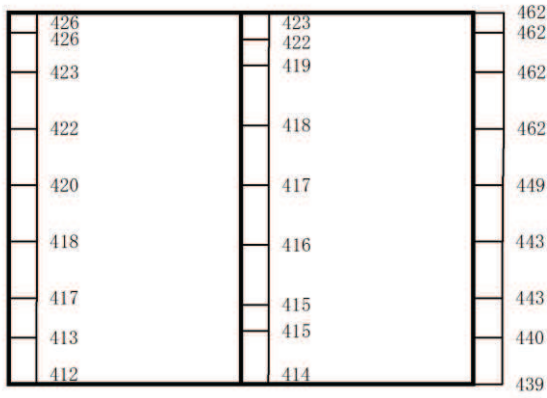
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 1 (++) 鉛直

図 4-7 最大加速度分布図 (7/17) (解析ケース①)



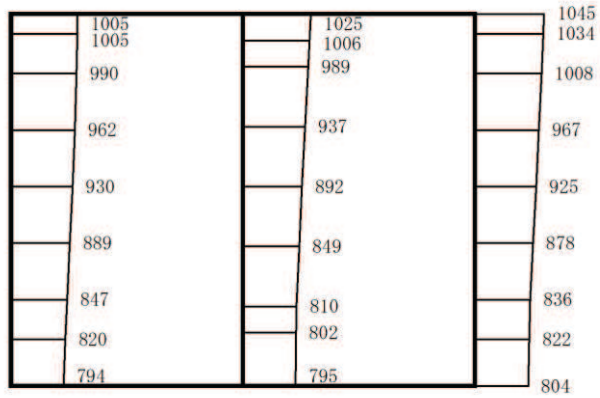
(a) S s - F 1 (-+) 水平



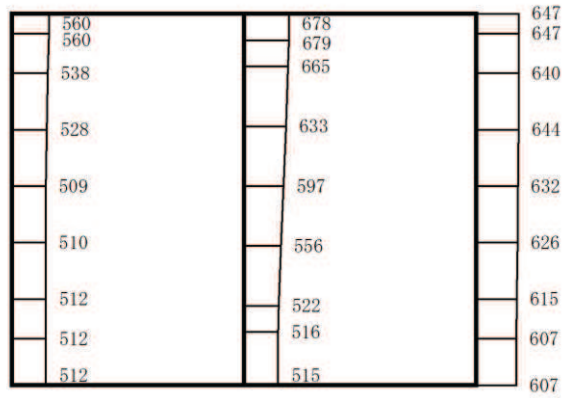
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 1 (-+) 鉛直

図 4-8 最大加速度分布図 (8/17) (解析ケース①)



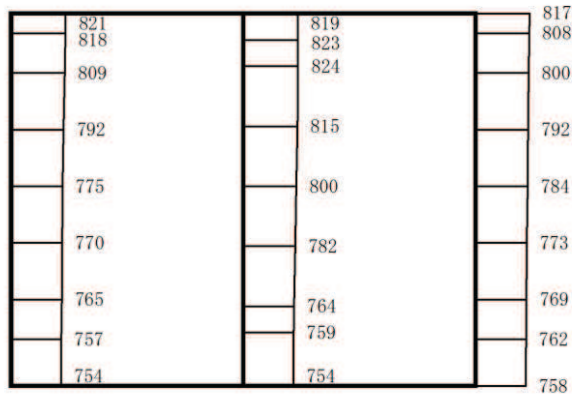
(a) S<sub>s</sub>-F<sub>2</sub>(++) 水平



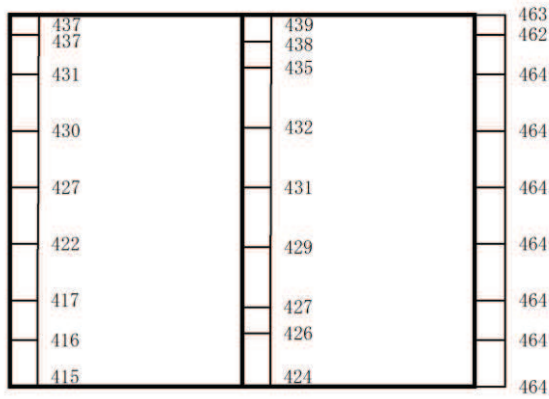
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S<sub>s</sub>-F<sub>2</sub>(++) 鉛直

図 4-9 最大加速度分布図 (9/17) (解析ケース①)



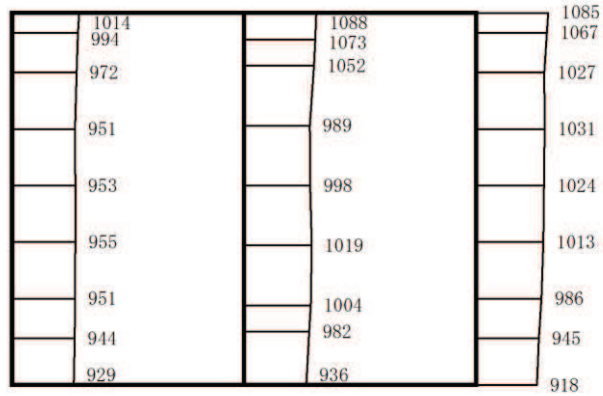
(a)  $S_s - F 2 (-+)$  水平



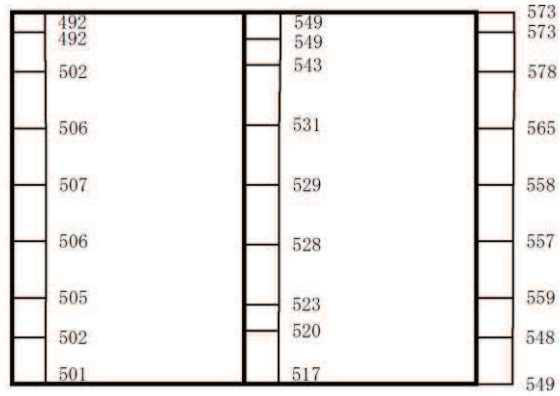
(b)  $S_s - F 2 (-+)$  鉛直

図 4-10 最大加速度分布図 (10/17) (解析ケース①)





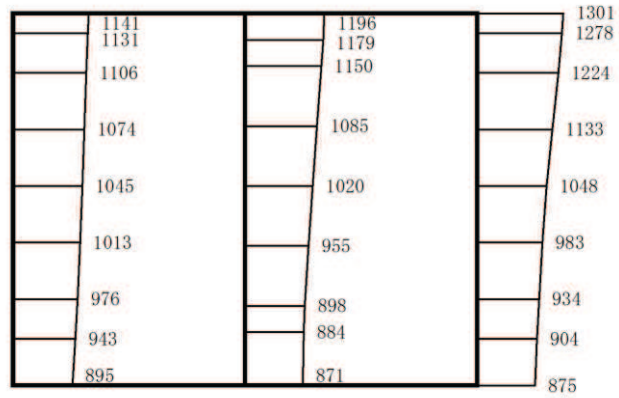
(a) S<sub>s</sub>-F 3 (++) 水平



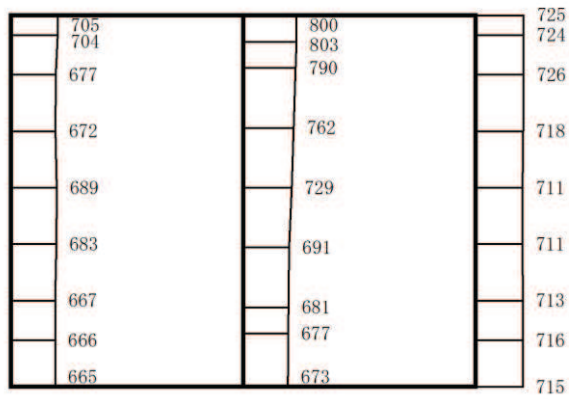
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S<sub>s</sub>-F 3 (++) 鉛直

図 4-11 最大加速度分布図 (11/17) (解析ケース①)



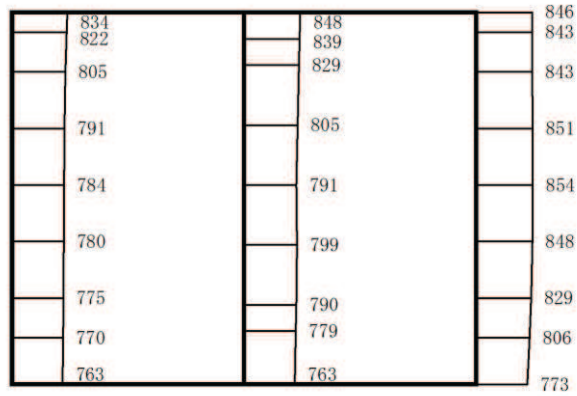
(a) S<sub>s</sub>-F 3 (-+) 水平



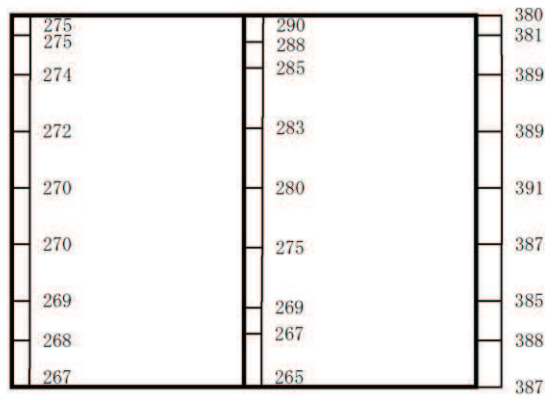
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S<sub>s</sub>-F 3 (-+) 鉛直

図 4-12 最大加速度分布図 (12/17) (解析ケース①)



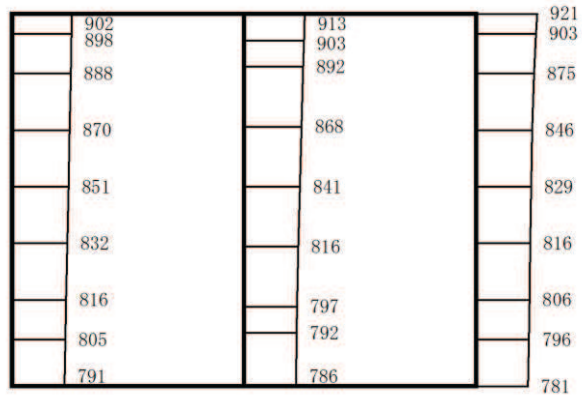
(a) S s - N 1 (++) 水平



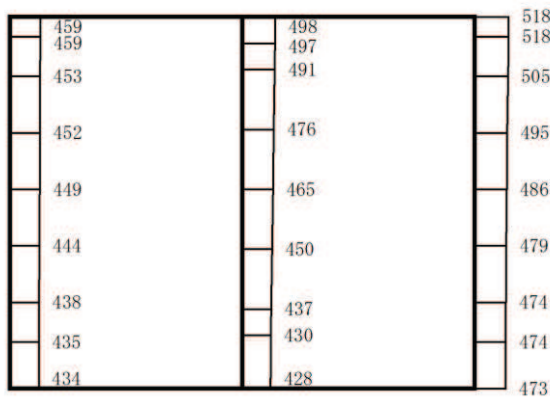
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - N 1 (++) 鉛直

図 4-13 最大加速度分布図 (13/17) (解析ケース①)

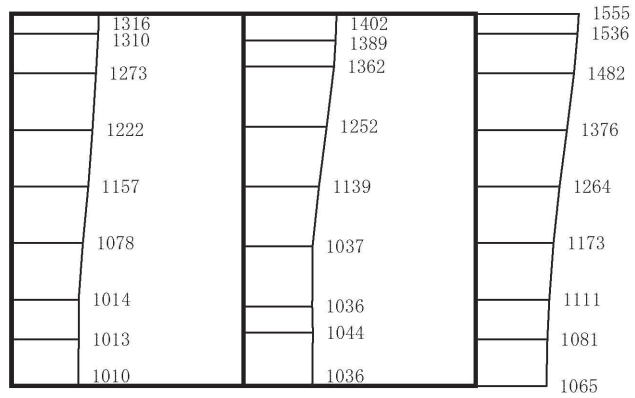


(a) S s - N 1 ( - + ) 水平

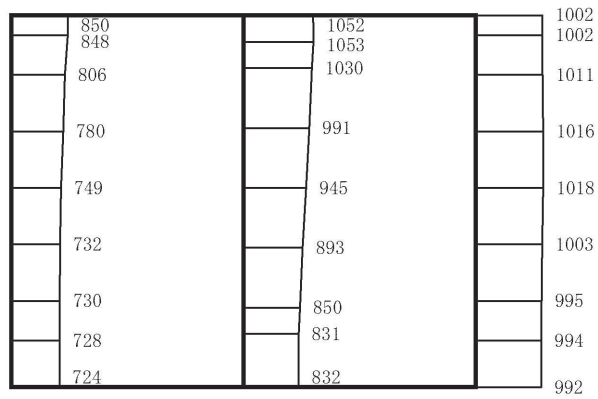


(b) S s - N 1 ( - + ) 鉛直

図 4-14 最大加速度分布図 (14/17) (解析ケース①)



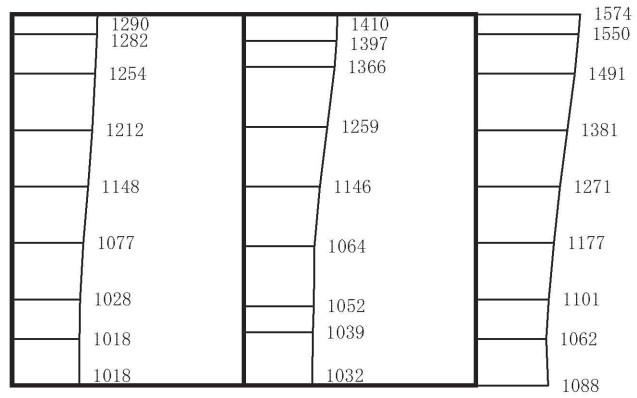
(a) S s - D 2 ( - + ) 水平



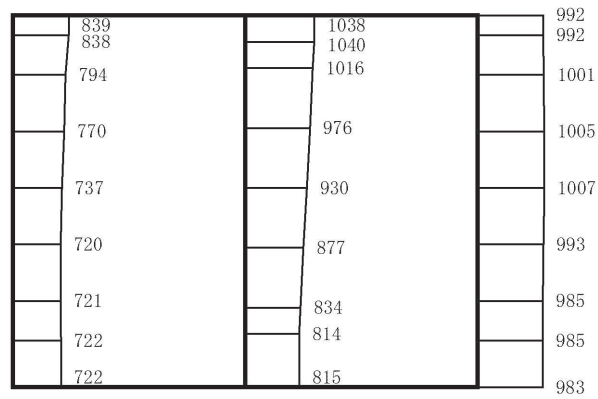
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 ( - + ) 鉛直

図 4-15 最大加速度分布図 (15/17)  
(解析ケース② : せん断破壊に対する最大照査値ケース)



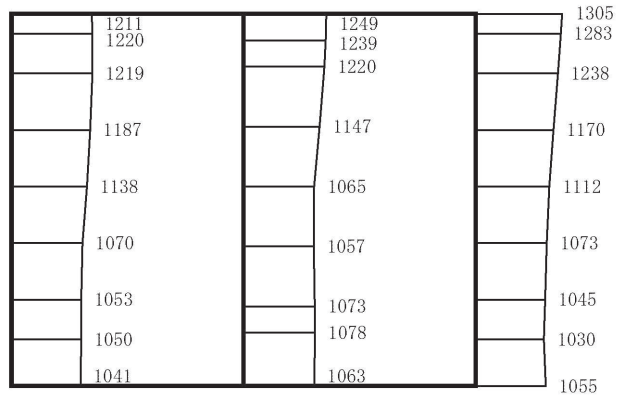
(a) S s - D 2 ( - + ) 水平



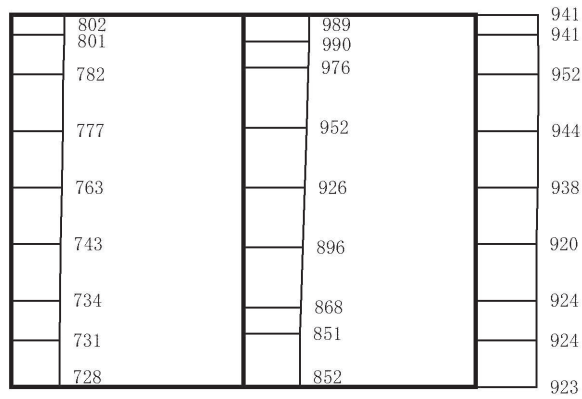
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 ( - + ) 鉛直

図 4-16 最大加速度分布図 (16/17)  
 (解析ケース③：せん断破壊に対する最大照査値ケース)



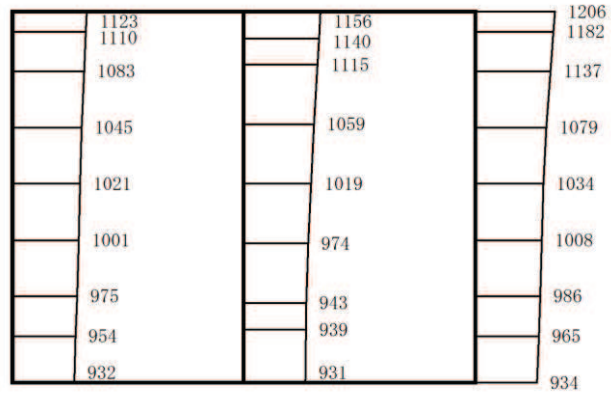
(a) S s - D 2 ( - + ) 水平



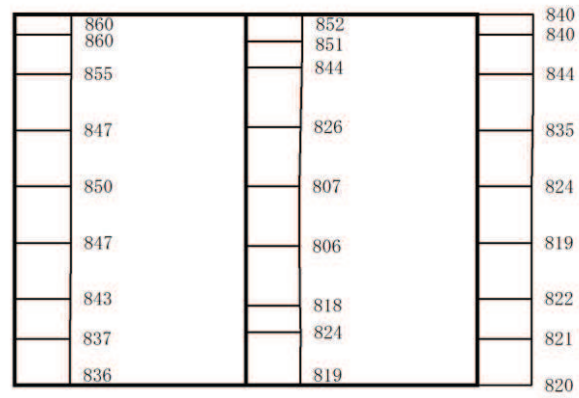
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 ( - + ) 鉛直

図 4-17 最大加速度分布図 (17/17)  
(解析ケース④：せん断破壊に対する最大照査値ケース)



(a) S s - D 1 (++) 水平

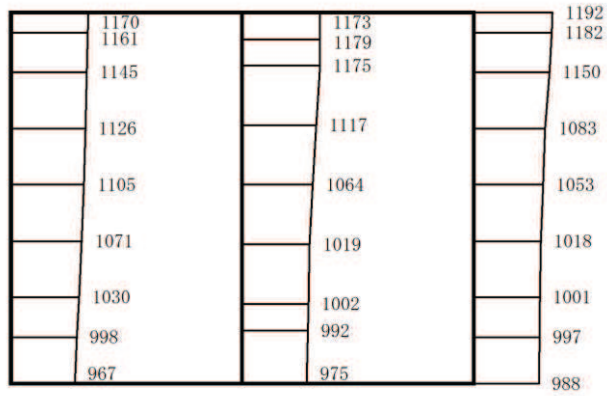


構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

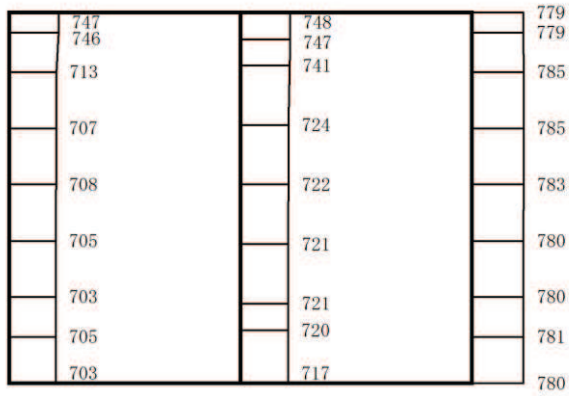
(b) S s - D 1 (++) 鉛直

図 4-18 最大加速度分布図 (1/49) (解析ケース②)





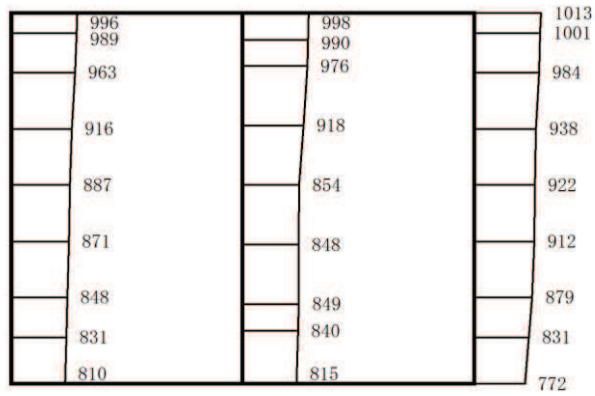
(a) S s - D 2 (++) 水平



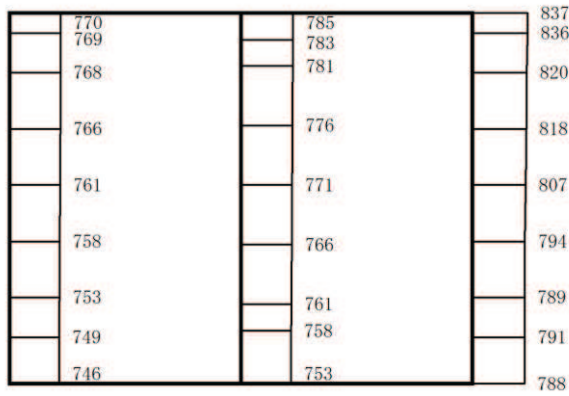
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 (++) 鉛直

図 4-19 最大加速度分布図 (2/49) (解析ケース②)



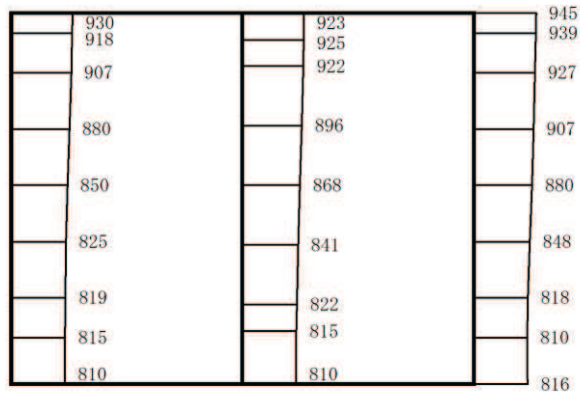
(a) S s - D 3 (++) 水平



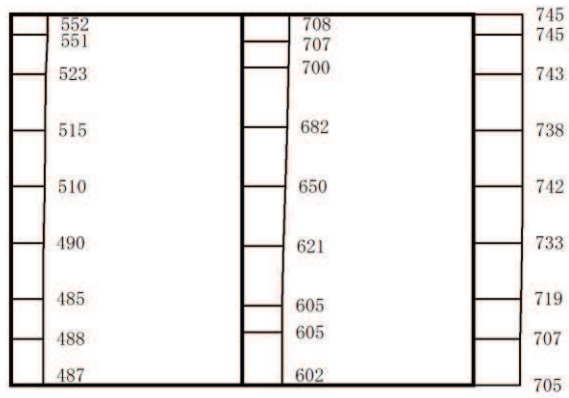
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 3 (++) 鉛直

図 4-20 最大加速度分布図 (3/49) (解析ケース②)



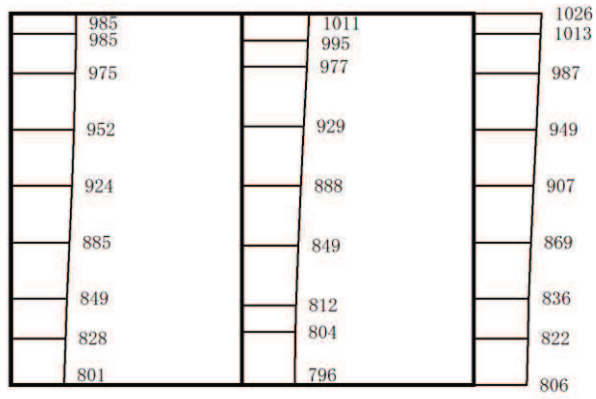
(a) S s - F 1 (++) 水平



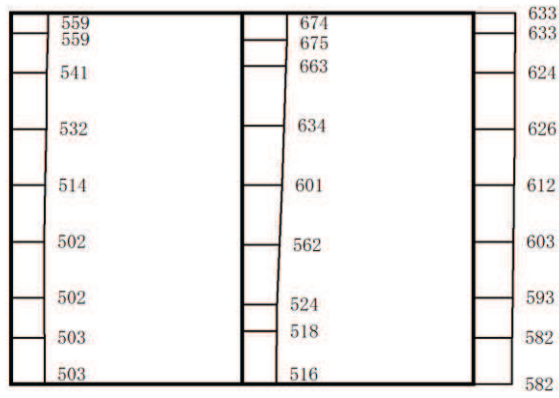
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 1 (++) 鉛直

図 4-21 最大加速度分布図 (4/49) (解析ケース②)



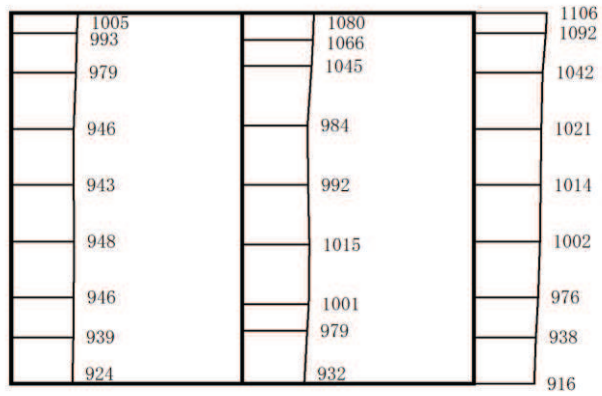
(a)  $S_s - F 2$  (++) 水平



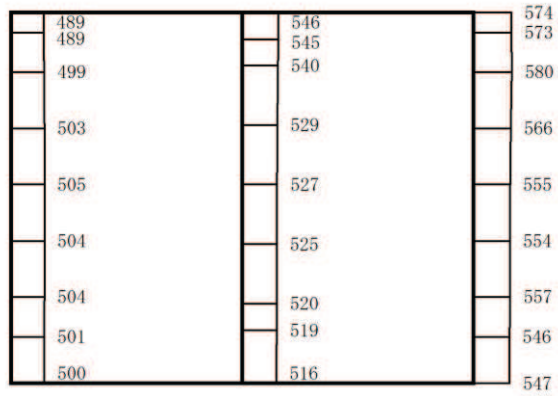
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - F 2$  (++) 鉛直

図 4-22 最大加速度分布図 (5/49) (解析ケース②)



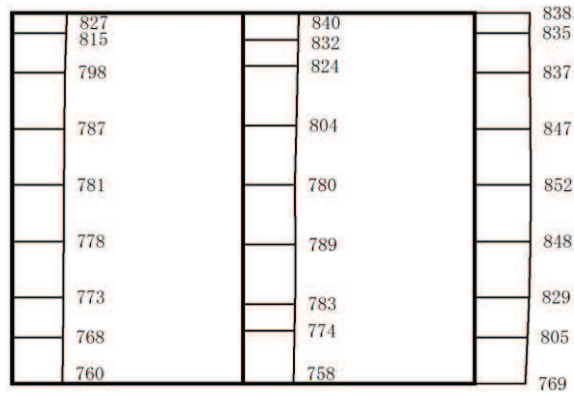
(a) S s - F 3 (++) 水平



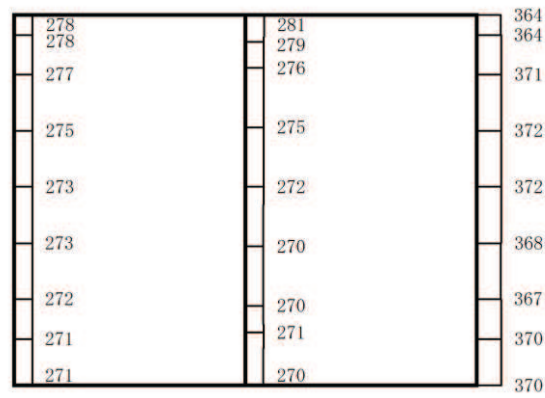
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 3 (++) 鉛直

図 4-23 最大加速度分布図 (6/49) (解析ケース②)



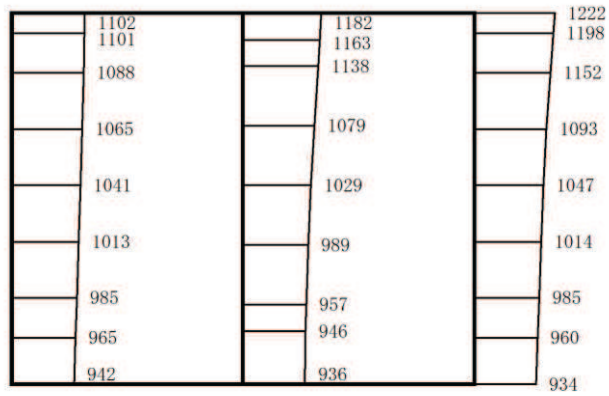
(a) S s - N 1 (++) 水平



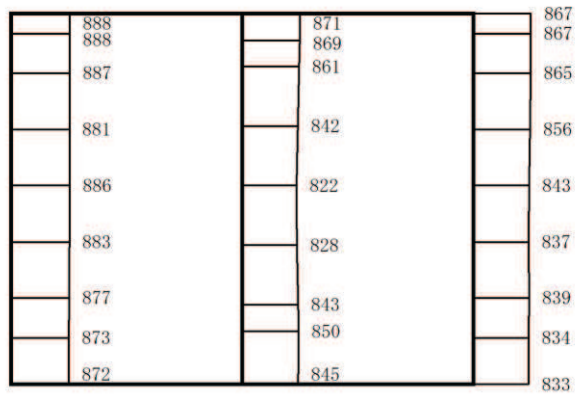
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - N 1 (++) 鉛直

図 4-24 最大加速度分布図 (7/49) (解析ケース②)



(a) S s - D 1 (++) 水平



(b) S s - D 1 (++) 鉛直

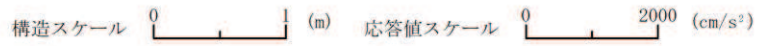
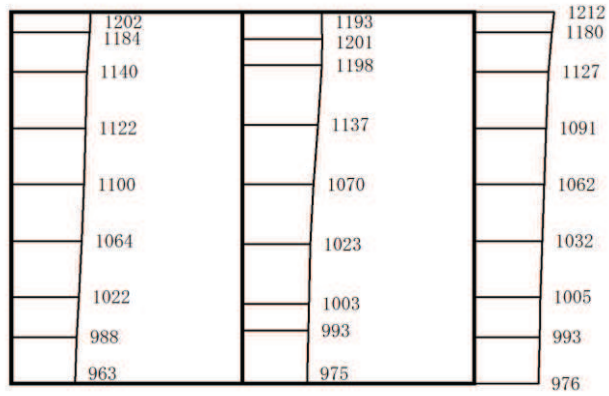
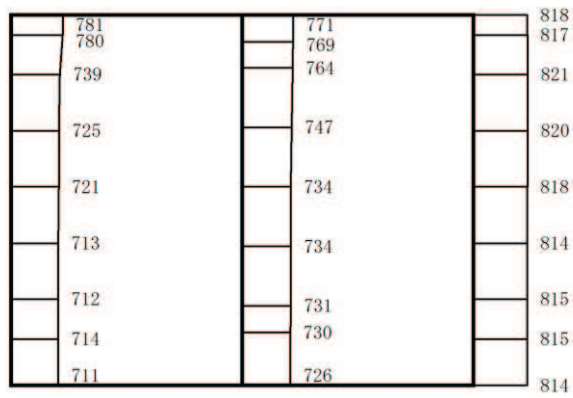


図 4-25 最大加速度分布図 (8/49) (解析ケース③)



(a) S s - D 2 (++) 水平

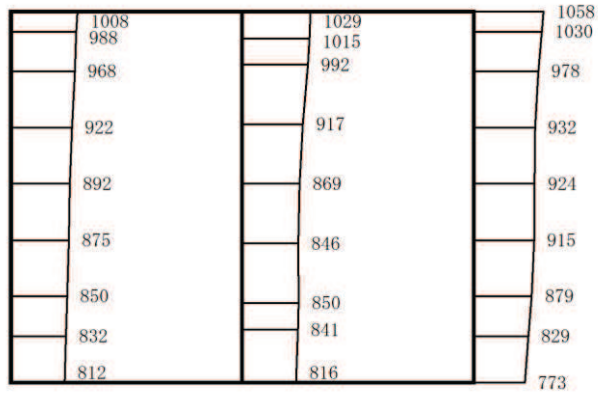


構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

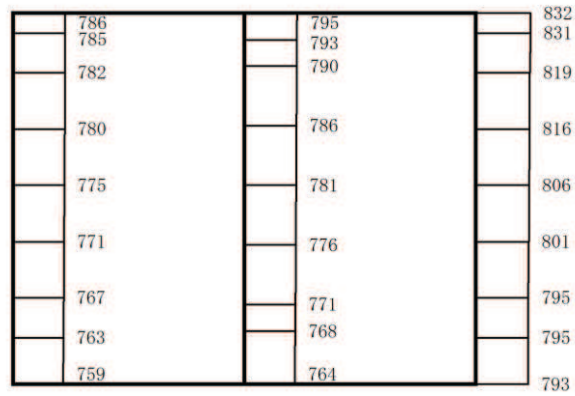
(b) S s - D 2 (++) 鉛直

図 4-26 最大加速度分布図 (9/49) (解析ケース③)





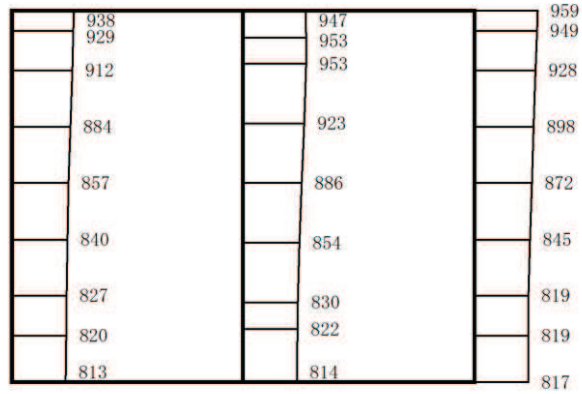
(a) S s - D 3 (++) 水平



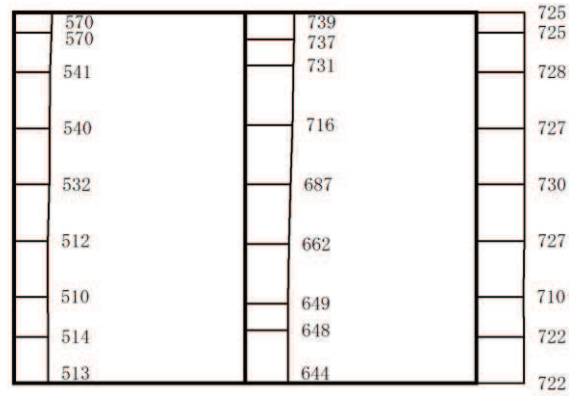
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 3 (++) 鉛直

図 4-27 最大加速度分布図 (10/49) (解析ケース③)



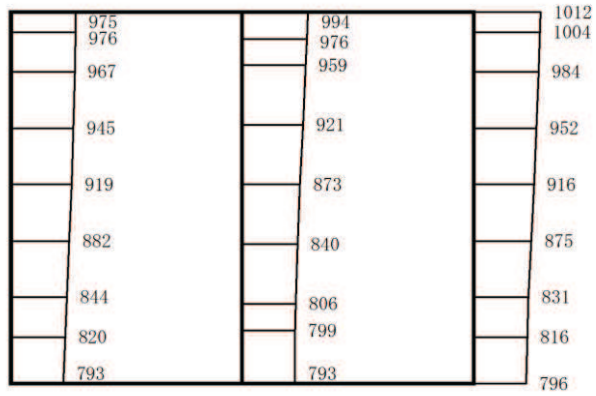
(a)  $S_s - F 1$  (++) 水平



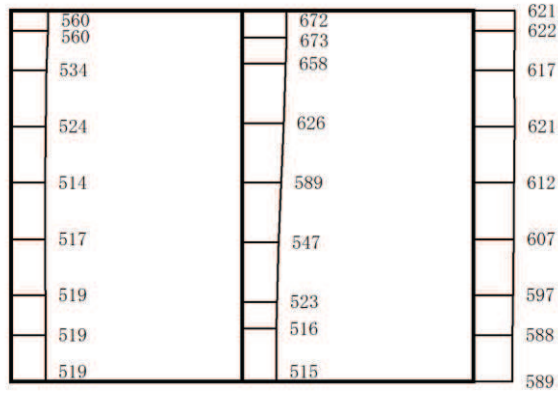
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - F 1$  (++) 鉛直

図 4-28 最大加速度分布図 (11/49) (解析ケース③)



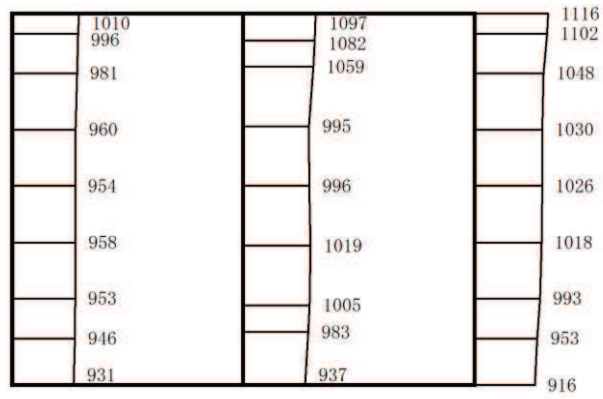
(a)  $S_s - F_2$  (++) 水平



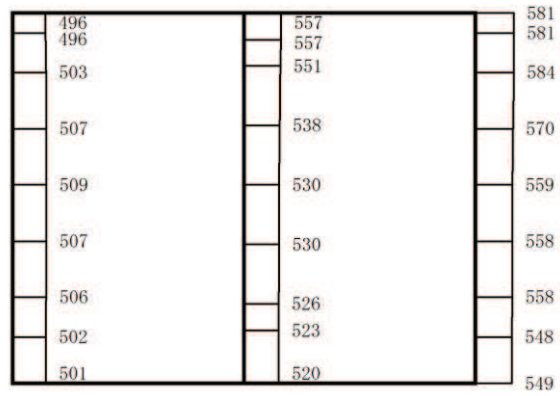
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - F_2$  (++) 鉛直

図 4-29 最大加速度分布図 (12/49) (解析ケース③)



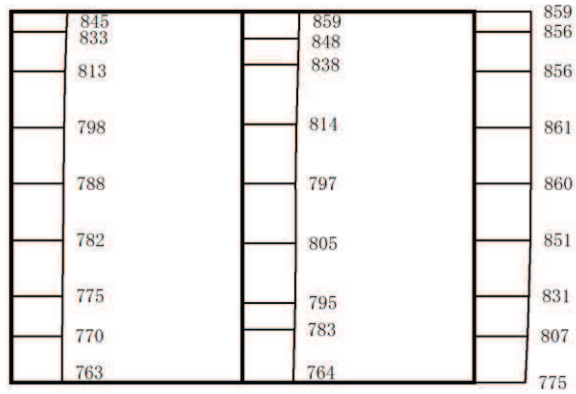
(a) S s - F 3 (++) 水平



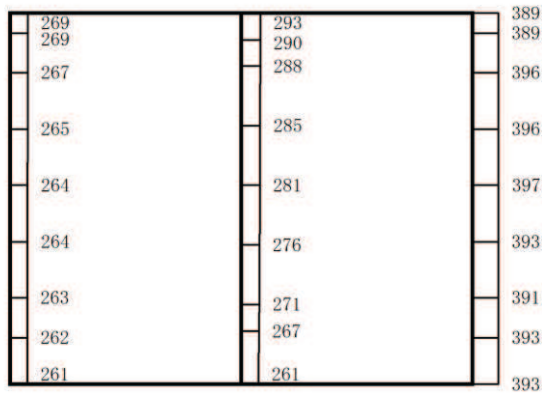
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 3 (++) 鉛直

図 4-30 最大加速度分布図 (13/49) (解析ケース③)



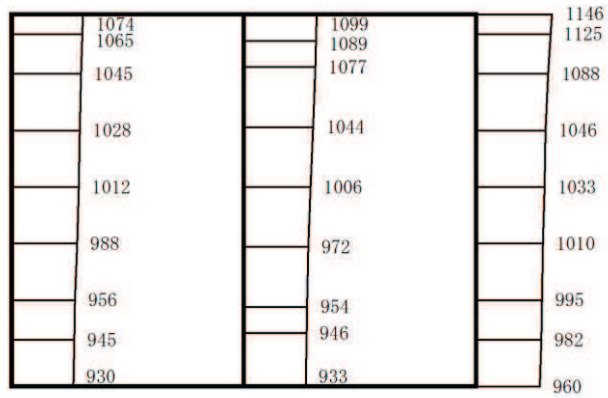
(a)  $S_s - N 1$  (++) 水平



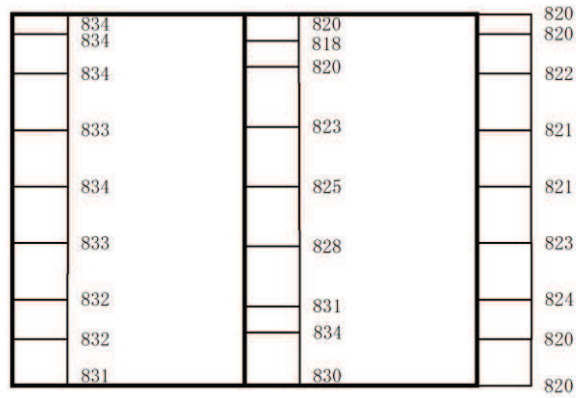
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - N 1$  (++) 鉛直

図 4-31 最大加速度分布図 (14/49) (解析ケース③)



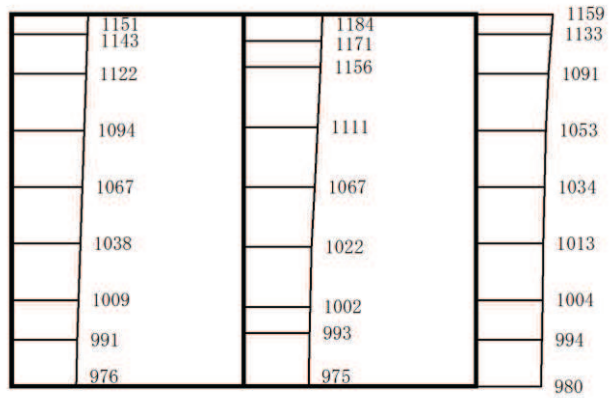
(a) S s - D 1 (++) 水平



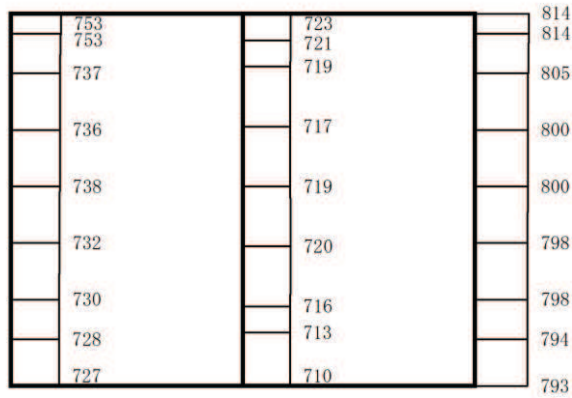
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 1 (++) 鉛直

図 4-32 最大加速度分布図 (15/49) (解析ケース④)



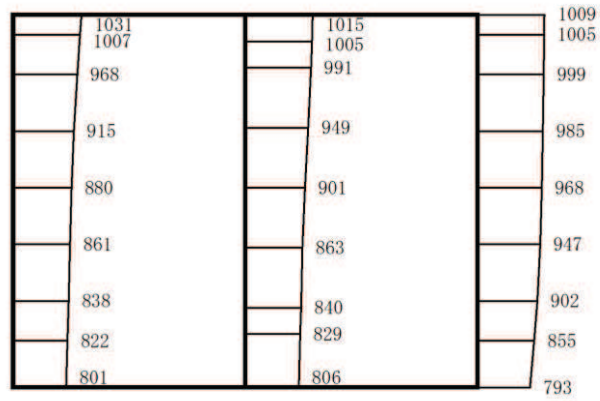
(a) S s - D 2 (++) 水平



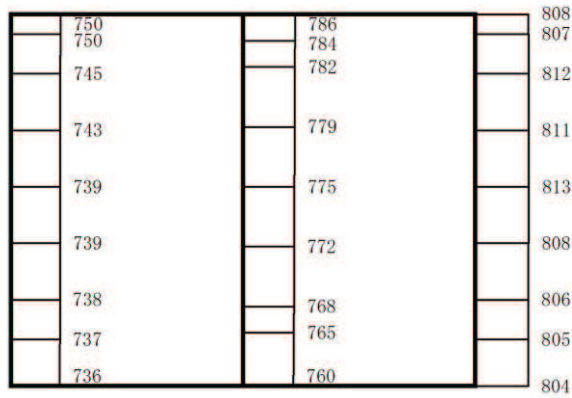
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - D 2 (++) 鉛直

図 4-33 最大加速度分布図 (16/49) (解析ケース④)



(a) S s - D 3 (++) 水平

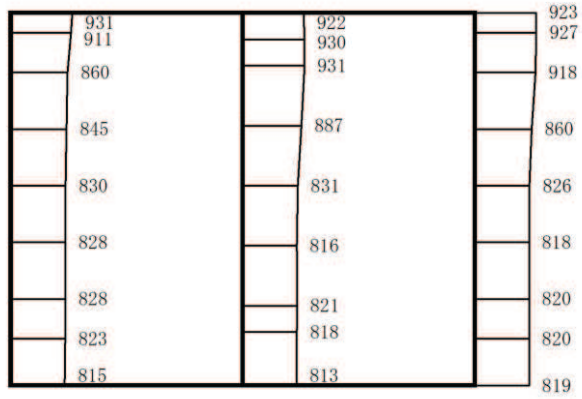


構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

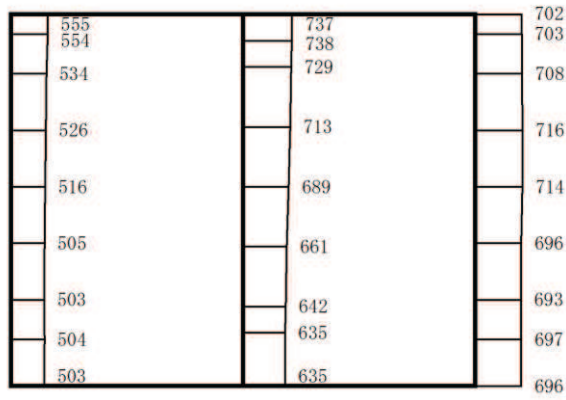
(b) S s - D 3 (++) 鉛直

図 4-34 最大加速度分布図 (17/49) (解析ケース④)





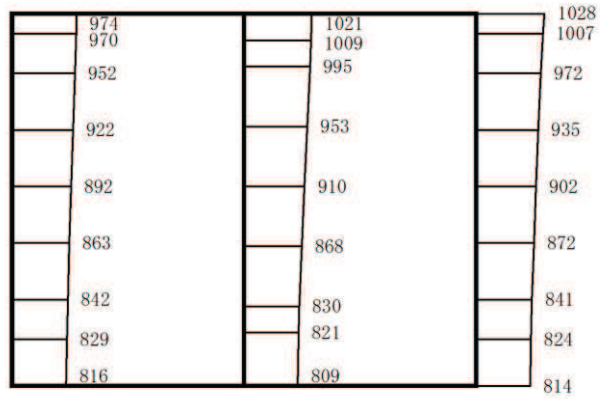
(a) S s - F 1 (++) 水平



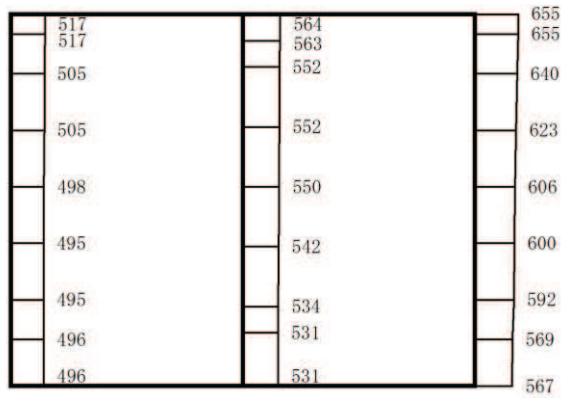
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 1 (++) 鉛直

図 4-35 最大加速度分布図 (18/49) (解析ケース④)



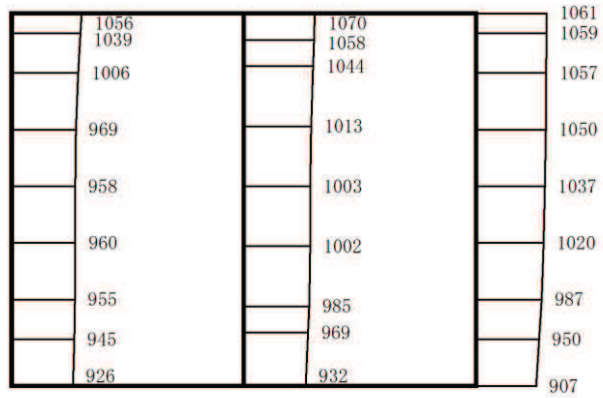
(a)  $S_s - F 2$  (++) 水平



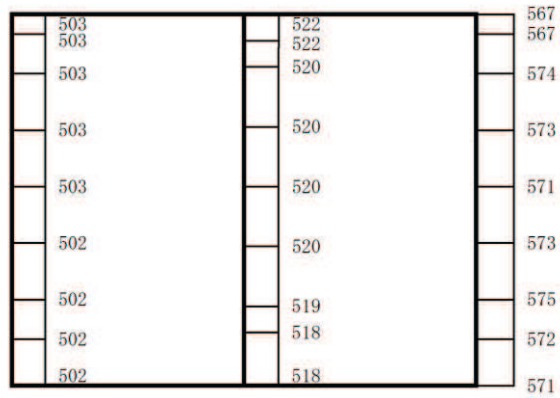
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b)  $S_s - F 2$  (++) 鉛直

図 4-36 最大加速度分布図 (19/49) (解析ケース④)



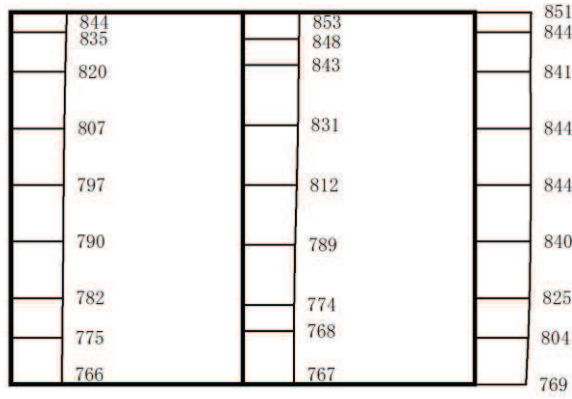
(a) S s - F 3 (++) 水平



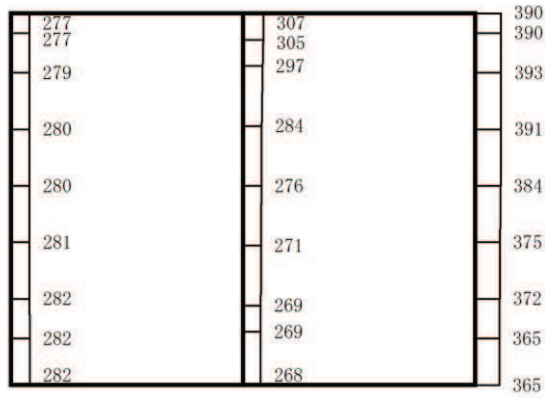
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - F 3 (++) 鉛直

図 4-37 最大加速度分布図 (20/49) (解析ケース④)



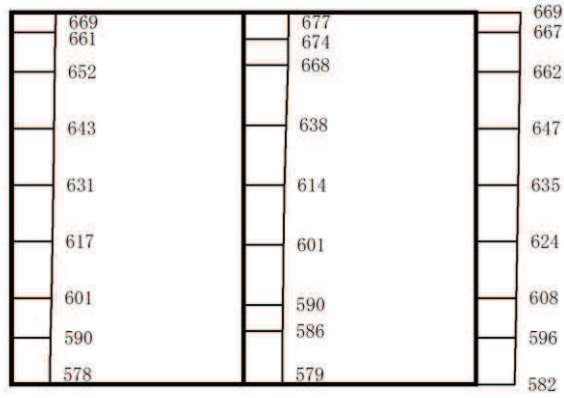
(a) S s - N 1 (++) 水平



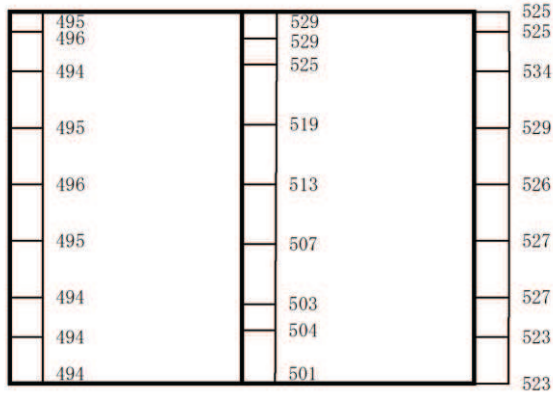
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S s - N 1 (++) 鉛直

図 4-38 最大加速度分布図 (21/49) (解析ケース④)



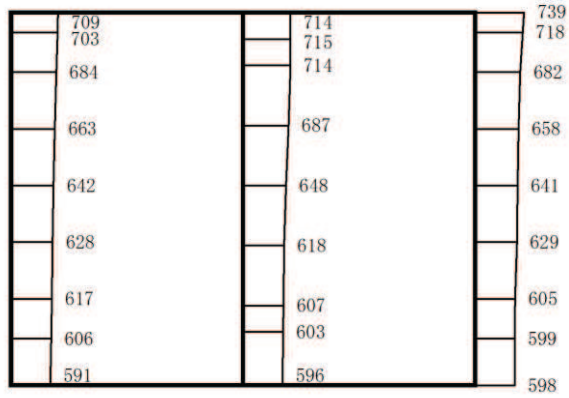
(a) S d - D 1 (++) 水平



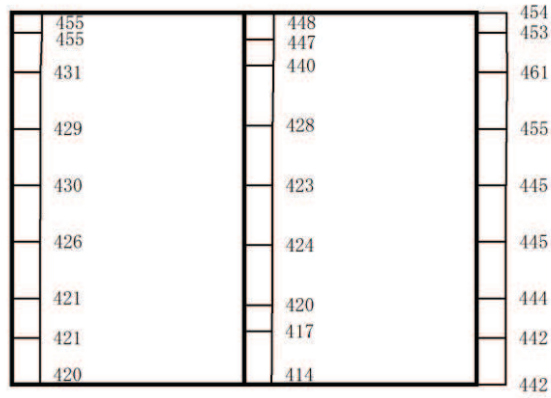
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 1 (++) 鉛直

図 4-39 最大加速度分布図 (22/49) (解析ケース①)



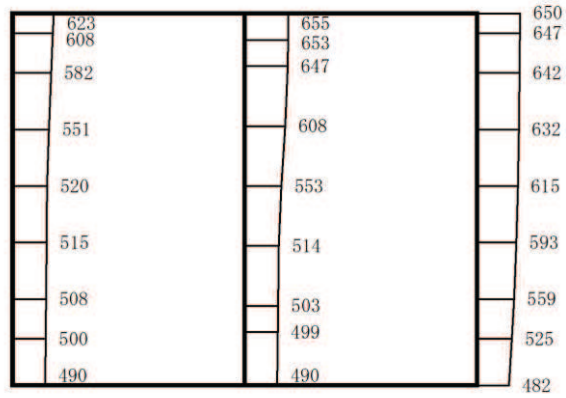
(a) S d - D 2 (++) 水平



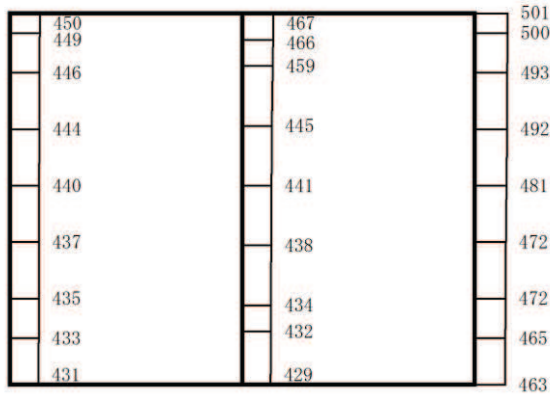
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 2 (++) 鉛直

図 4-40 最大加速度分布図 (23/29) (解析ケース①)



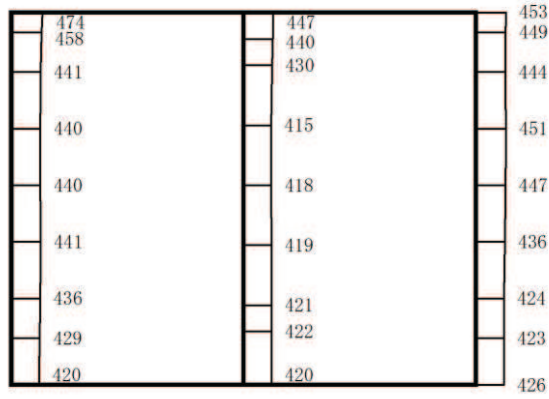
(a) S d - D 3 (++) 水平



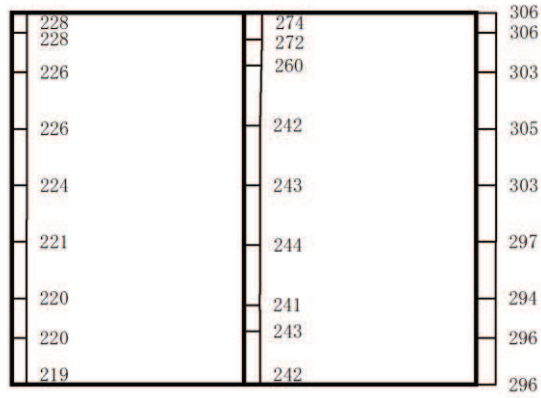
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 3 (++) 鉛直

図 4-41 最大加速度分布図 (24/49) (解析ケース①)



(a) S d - F 1 (++) 水平

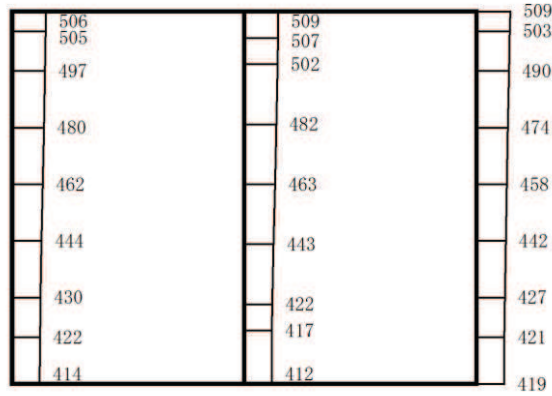


構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

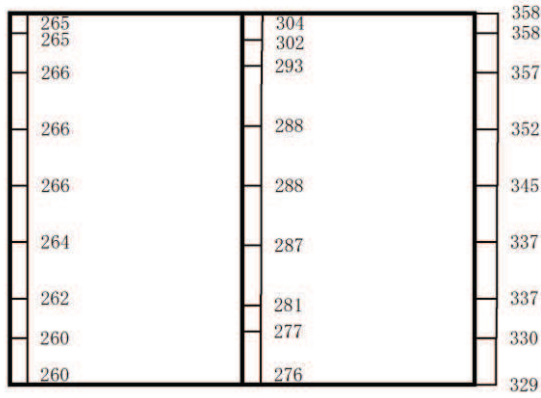
(b) S d - F 1 (++) 鉛直

図 4-42 最大加速度分布図 (25/49) (解析ケース①)





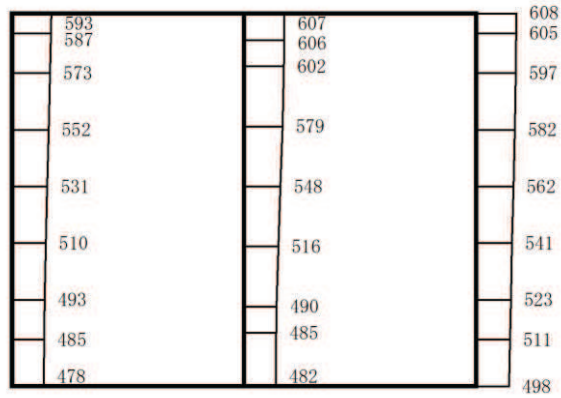
(a) S d - F 2 (++) 水平



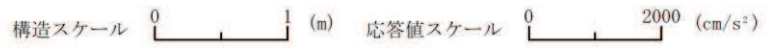
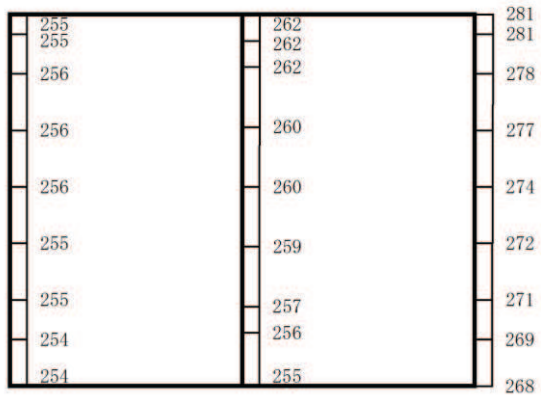
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 2 (++) 鉛直

図 4-43 最大加速度分布図 (26/49) (解析ケース①)

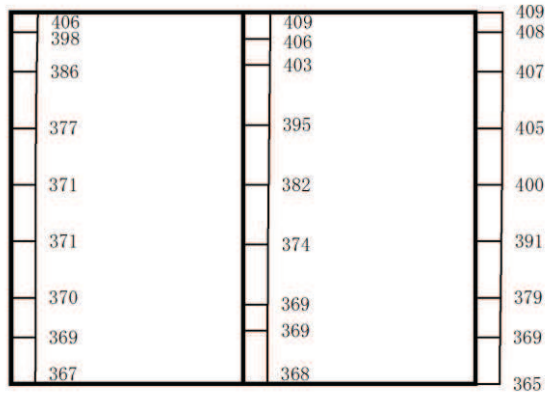


(a) S d - F 3 (++) 水平

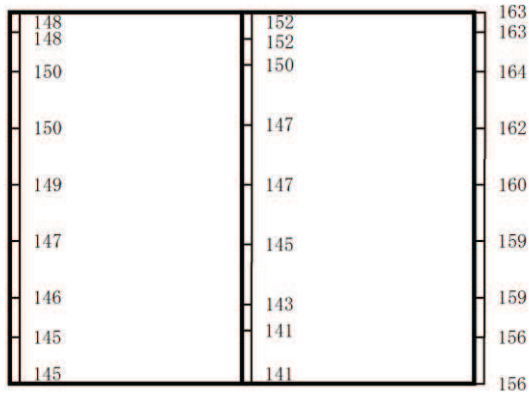


(b) S d - F 3 (++) 鉛直

図 4-44 最大加速度分布図 (27/49) (解析ケース①)



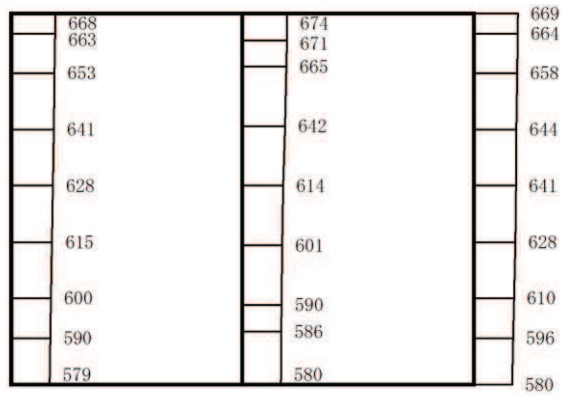
(a) S d - N 1 (++) 水平



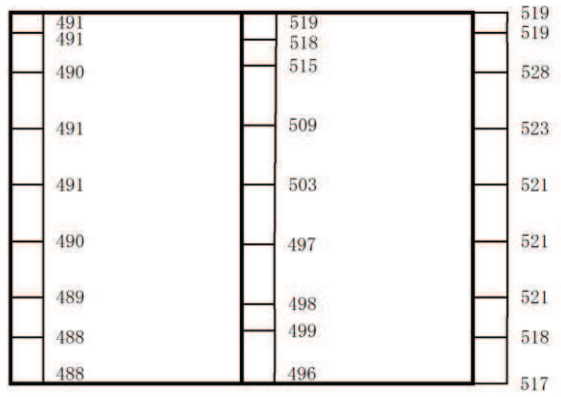
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - N 1 (++) 鉛直

図 4-45 最大加速度分布図 (28/49) (解析ケース①)



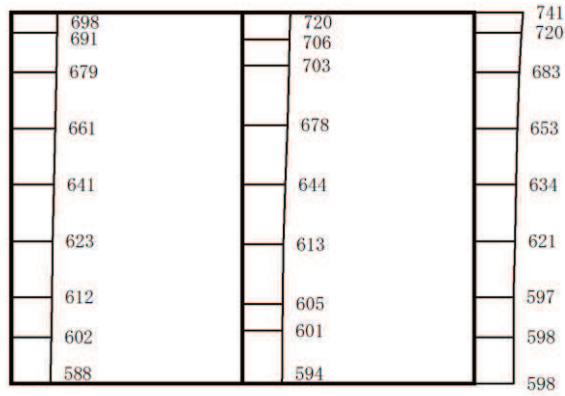
(a) S d - D 1 (++) 水平



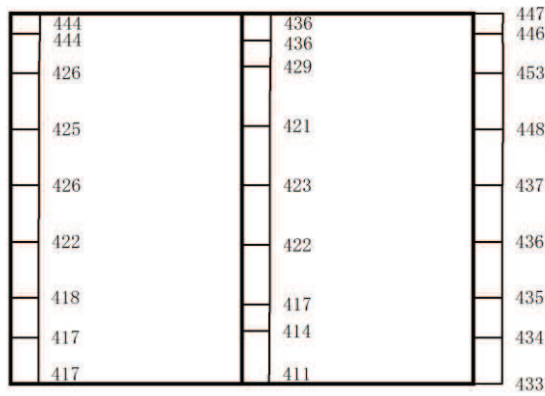
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 1 (++) 鉛直

図 4-46 最大加速度分布図 (29/49) (解析ケース②)



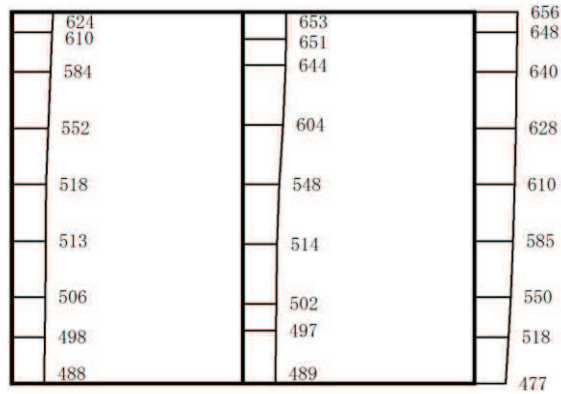
(a) S d - D 2 (++) 水平



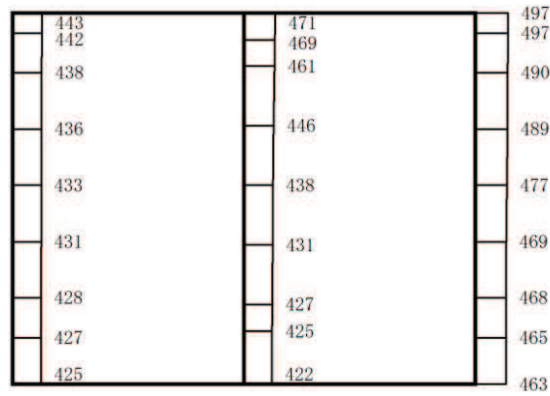
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 2 (++) 鉛直

図 4-47 最大加速度分布図 (30/49) (解析ケース②)

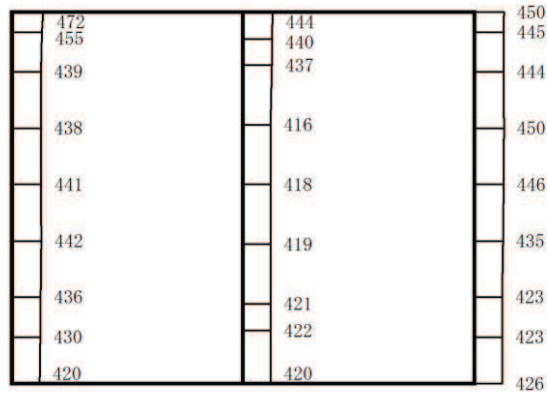


(a) S d - D 3 (++) 水平

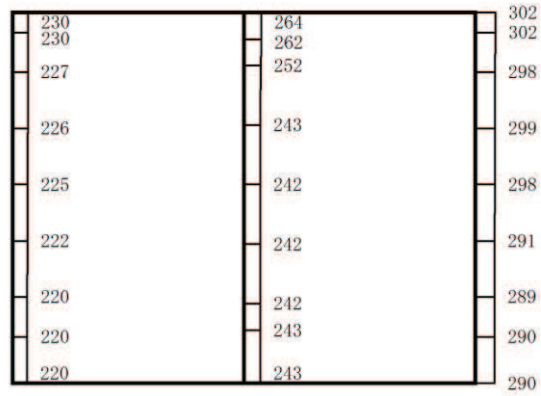


(b) S d - D 3 (++) 鉛直

図 4-48 最大加速度分布図 (31/49) (解析ケース②)

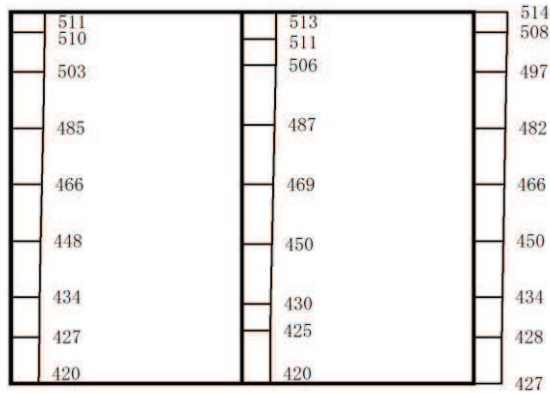


(a) S d - F 1 (++) 水平

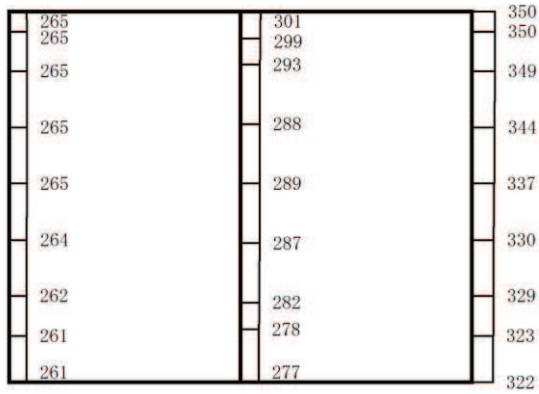


(b) S d - F 1 (++) 鉛直

図 4-49 最大加速度分布図 (32/49) (解析ケース②)



(a) S d - F 2 (++) 水平

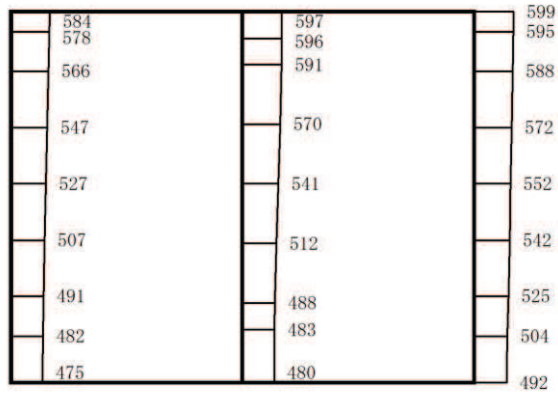


構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

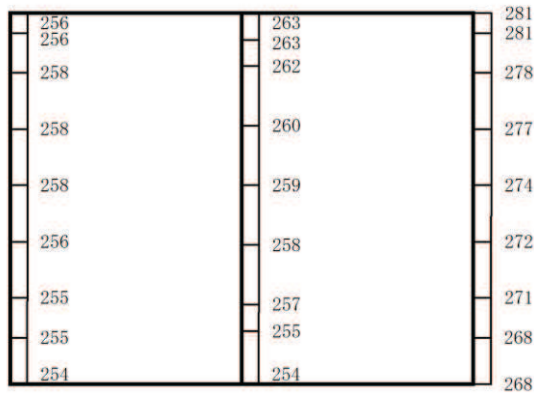
(b) S d - F 2 (++) 鉛直

図 4-50 最大加速度分布図 (33/49) (解析ケース②)





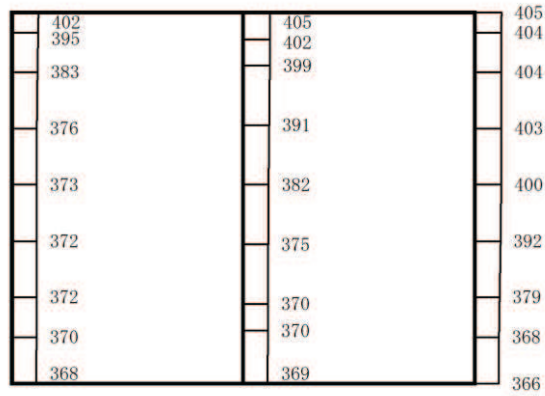
(a) S d - F 3 (++) 水平



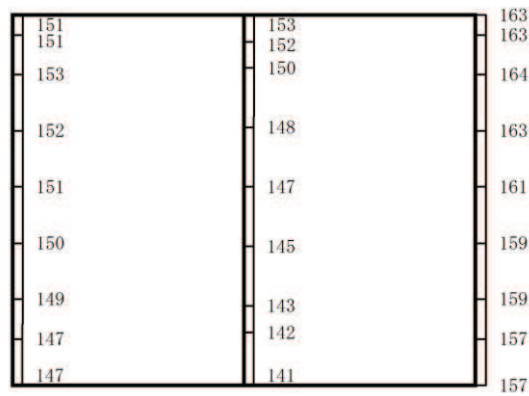
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 3 (++) 鉛直

図 4-51 最大加速度分布図 (34/49) (解析ケース②)



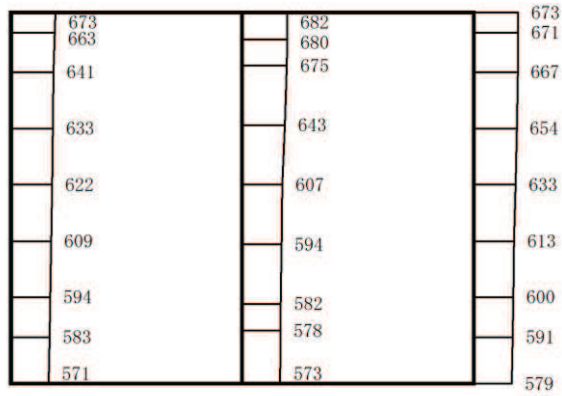
(a) S d - N 1 (++) 水平



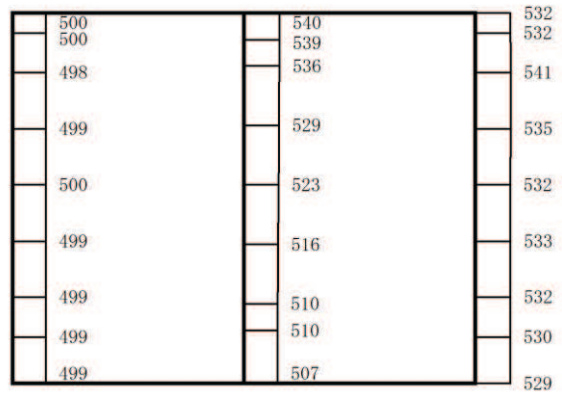
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - N 1 (++) 鉛直

図 4-52 最大加速度分布図 (35/49) (解析ケース②)



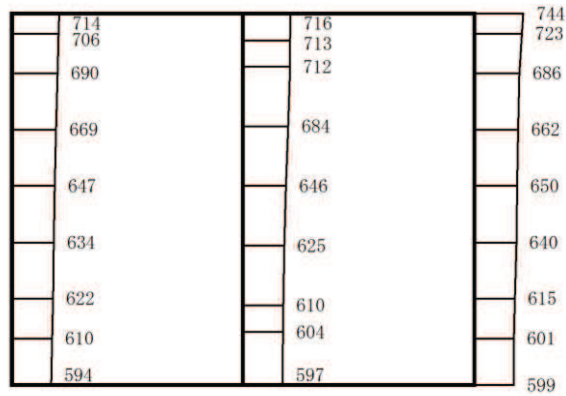
(a) S d - D 1 (++) 水平



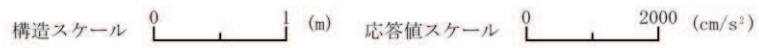
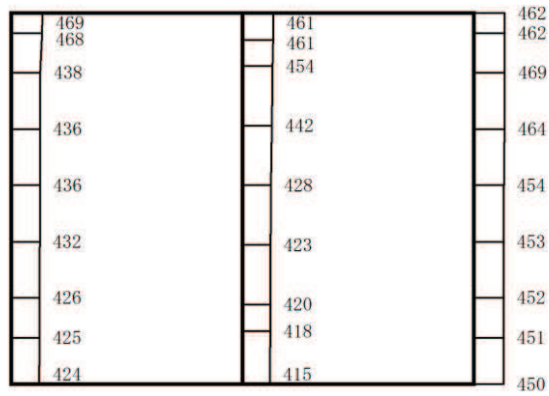
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 1 (++) 鉛直

図 4-53 最大加速度分布図 (36/49) (解析ケース③)

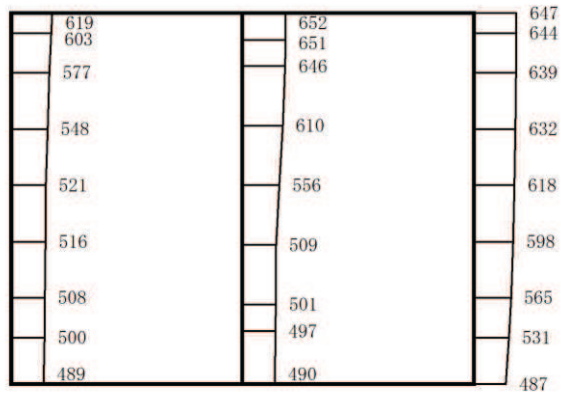


(a) S d - D 2 (++) 水平

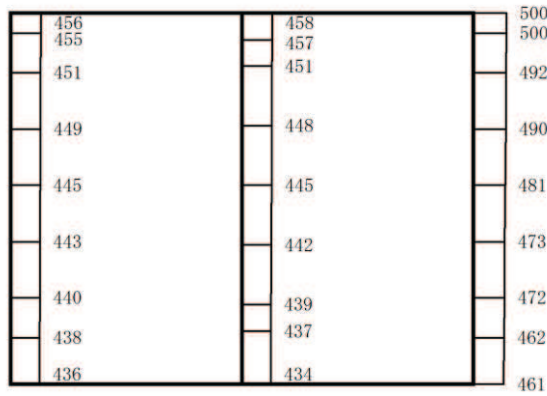


(b) S d - D 2 (++) 鉛直

図 4-54 最大加速度分布図 (37/49) (解析ケース③)



(a) S d - D 3 (++) 水平



(b) S d - D 3 (++) 鉛直

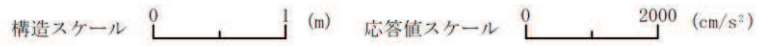
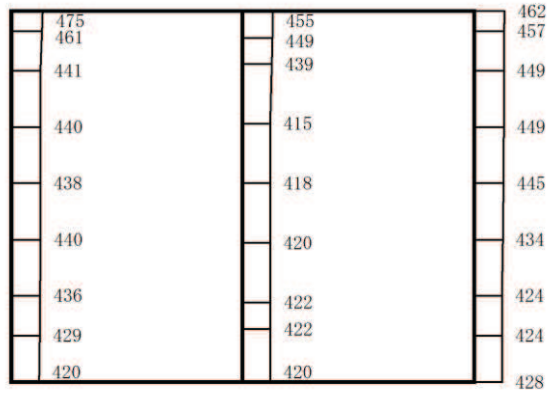
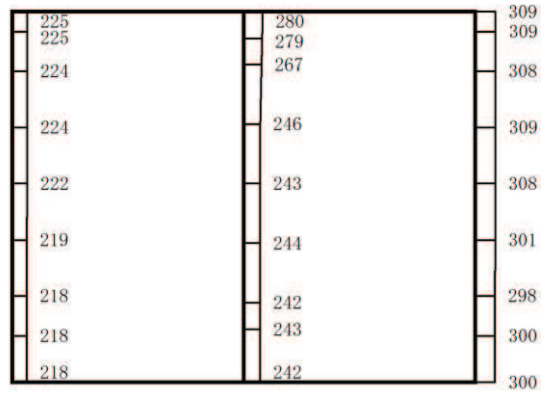


図 4-55 最大加速度分布図 (38/49) (解析ケース③)



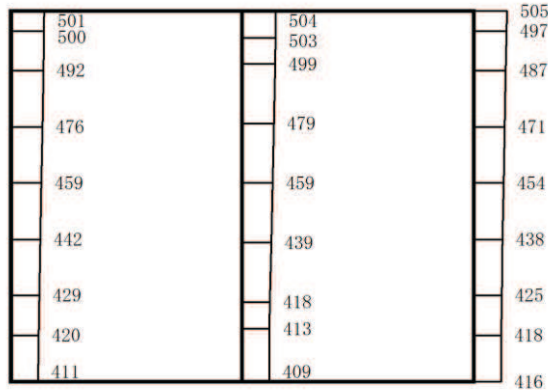
(a) S d - F 1 (++) 水平



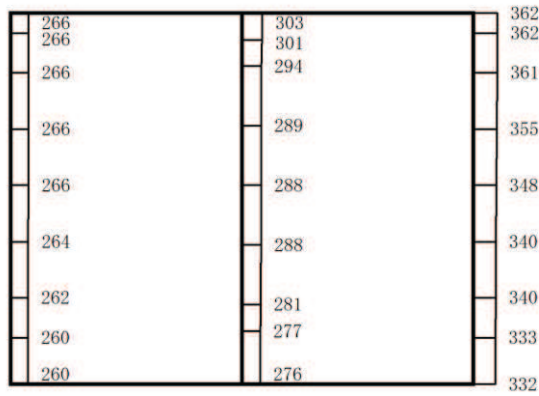
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 1 (++) 鉛直

図 4-56 最大加速度分布図 (39/49) (解析ケース③)

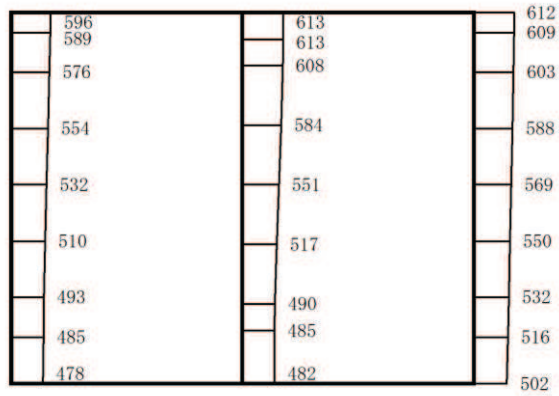


(a) S d - F 2 (++) 水平

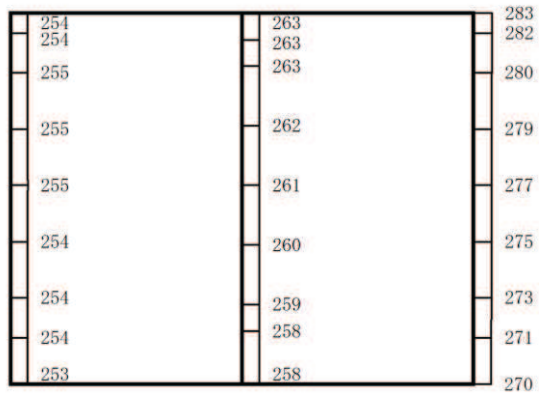


(b) S d - F 2 (++) 鉛直

図 4-57 最大加速度分布図 (40/49) (解析ケース③)



(a) S d - F 3 (++) 水平

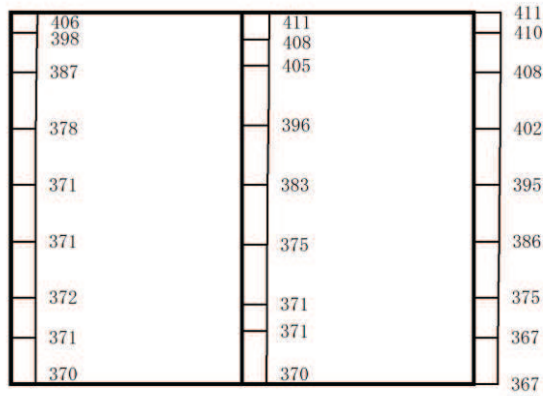


構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

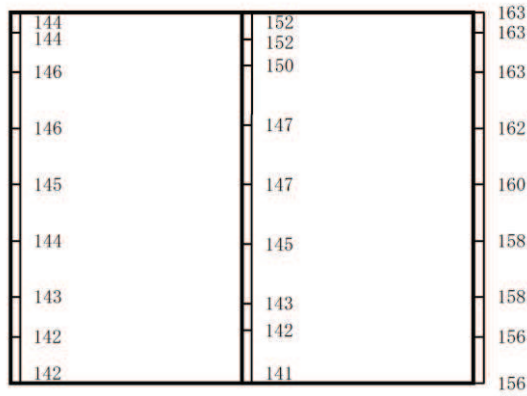
(b) S d - F 3 (++) 鉛直

図 4-58 最大加速度分布図 (41/49) (解析ケース③)





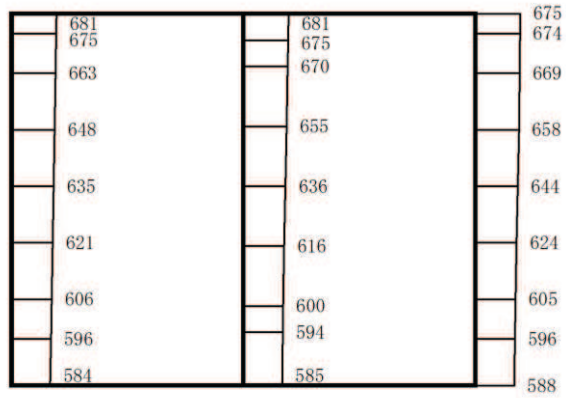
(a) S d - N 1 (++) 水平



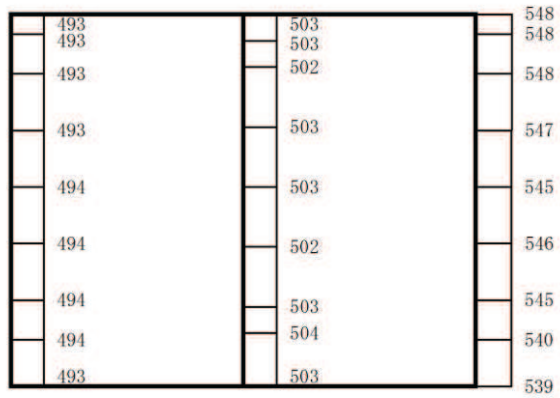
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - N 1 (++) 鉛直

図 4-59 最大加速度分布図 (42/49) (解析ケース③)



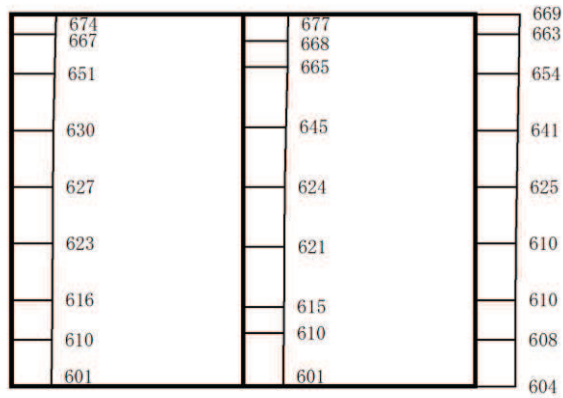
(a) S d - D 1 (++) 水平



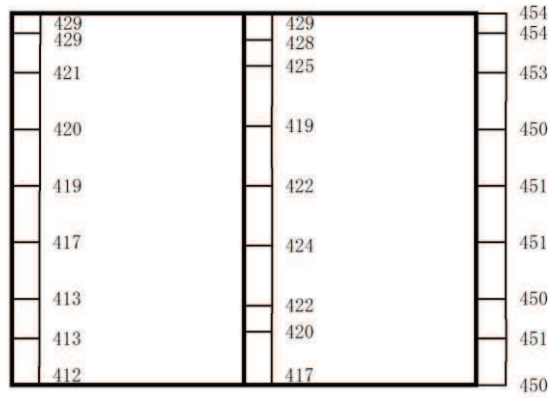
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 1 (++) 鉛直

図 4-60 最大加速度分布図 (43/49) (解析ケース④)



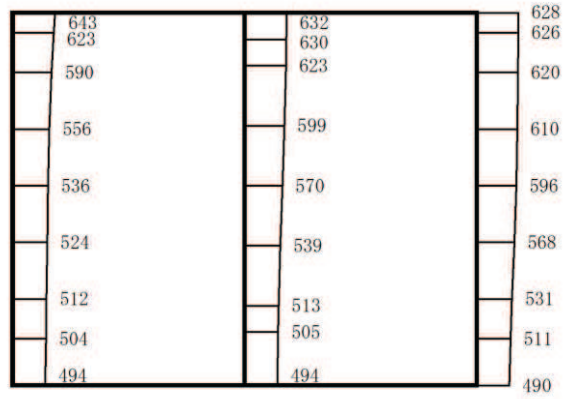
(a) S d - D 2 (++) 水平



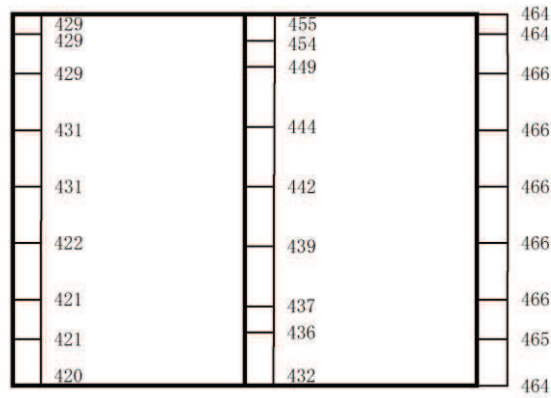
構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 2 (++) 鉛直

図 4-61 最大加速度分布図 (44/49) (解析ケース④)



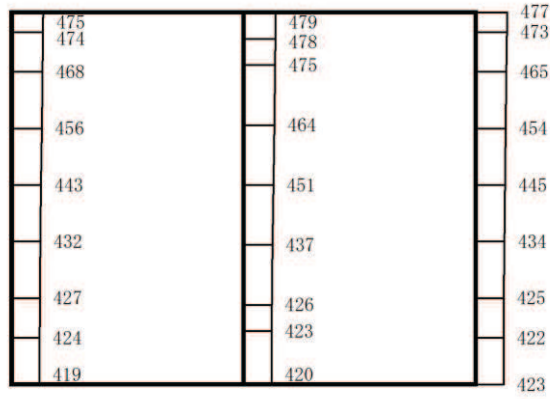
(a) S d - D 3 (++) 水平



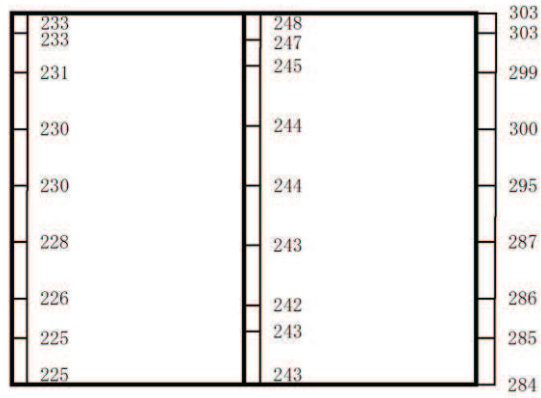
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - D 3 (++) 鉛直

図 4-62 最大加速度分布図 (45/49) (解析ケース④)



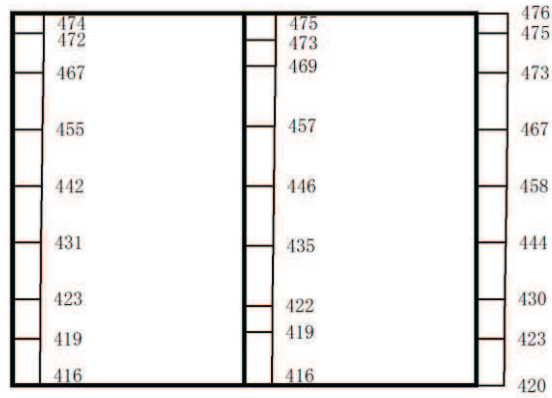
(a) S d - F 1 (++) 水平



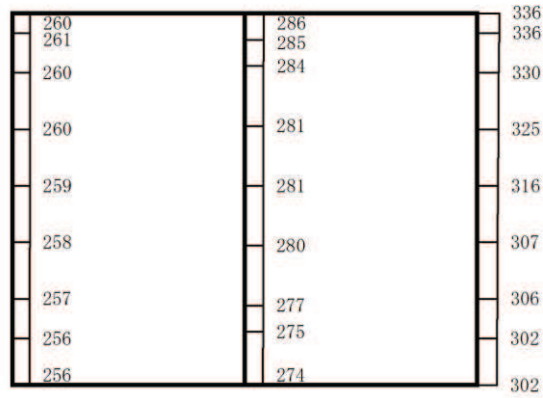
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 1 (++) 鉛直

図 4-63 最大加速度分布図 (46/49) (解析ケース④)



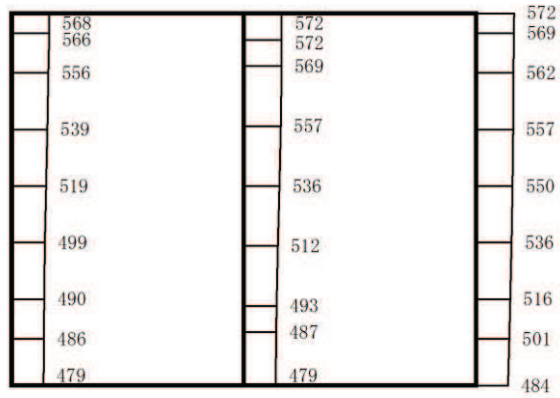
(a) S d - F 2 (++) 水平



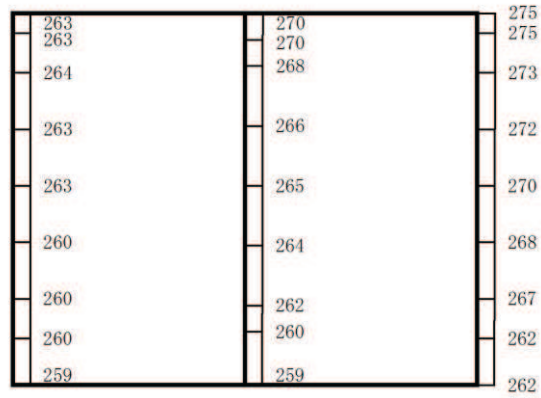
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 2 (++) 鉛直

図 4-64 最大加速度分布図 (47/49) (解析ケース④)



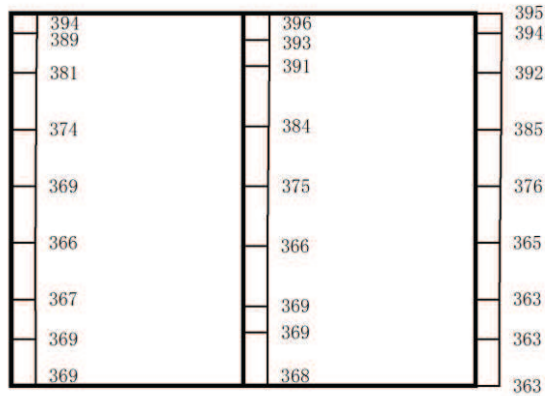
(a) S d - F 3 (++) 水平



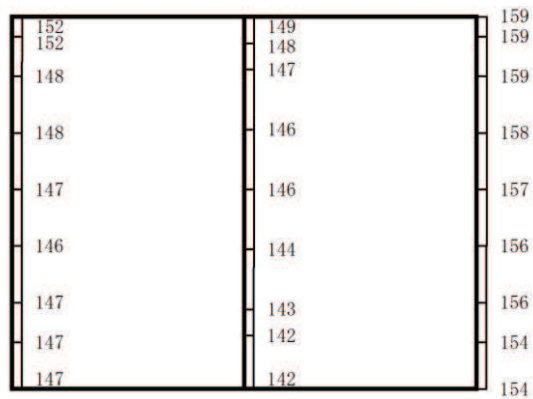
構造スケール 0 1 (m)      応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - F 3 (++) 鉛直

図 4-65 最大加速度分布図 (48/49) (解析ケース④)



(a) S d - N 1 (++) 水平



構造スケール 0 1 (m) 応答値スケール 0 2000 (cm/s<sup>2</sup>)

(b) S d - N 1 (++) 鉛直

図 4-66 最大加速度分布図 (49/49) (解析ケース④)